

ラーニングライフ

第2回 学生の学習に関する実態調査報告書

The University of Tokushima

ラーニングライフ

第2回 学生の学習に関する実態調査報告書

徳島大学



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(平成19年3月28日)
・認証評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
・認証期間：7年間(平成19年4月1日～平成26年3月31日)

平成23年3月
徳島大学

ま え が き

ラーニングライフ―第2回学生の学習に関する実態調査報告書―をお届けします。本学では長い間、「学生生活に関する実態調査」をほぼ2年毎に行い、キャンパスライフとして学生の生活全般にわたる状況を報告してきました。これに加えて遅ればせながら、「学生の学習に関する実態調査」が3年前から開始され、今年度2回目を実施し、その結果が纏まりましたので報告します。

本報告書には、①将来の希望、②大学教育、③学習状況、④全学共通教育、⑤専門教育、⑥英語教育、⑦卒業研究・ゼミなどについて、全部で51問の質問により調査されたアンケート結果に加えて、その結果から得られた各学部の現状と課題、これらをまとめた提言が報告されています。学部のみならず、学科やコースの単位で、オリエンテーションの折りにこのデータをご活用いただけると幸いです。

徳島大学第2期中期目標には、『「進取の気風」を育む能動的学習とキャリア教育の推進、教育の質の向上を図り、多様な個性を尊重し高度な専門的能力を培う教育環境を構築する。』と謳われています。アンケート結果から、講義の受講状況の良さに反して予習・復習に割く時間の短さが浮き彫りになっています。「自立して能動的に学ぶ」や「進取の気風を育む」ことの大切さが改めて痛感させられます。「豊かで健全な21世紀型基盤社会の創生に貢献できる人材」、「未来社会の諸問題を俯瞰的に解決できる人材」、「平和で文化的な国際社会の構築と地域社会の活力ある発展に寄与できる人材」、「社会で自立、活躍できる人間性豊かな人材」の育成を目指して、今後も教職員の皆さんのきめ細かな教育と学生生活支援を一体化させた大学教育の推進をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、大学教育委員会「教育の質に関する専門委員会」委員の先生方および学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中すべての事項について精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきましたことに対し、吉本勝彦委員長をはじめとする皆さんに心から敬意を表すとともに深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた学生の皆さんにもこの場を借りて感謝いたします。

平成23年3月

徳島大学理事（教育担当）
大学教育委員会委員長

和田 眞

目 次

まえがき	1
序 章 学生の学習に関する実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 調査票の回収状況	4
7 図中の％表示	5
附表「平成22年度学生の学習に関する実態調査票」	5
第1章 将来の希望について	14
1-1 将来の希望	14
1-2 大学教育による将来の希望の実現性	15
1-3 自己の学習による将来の希望の実現性	16
第2章 大学教育について	17
2-1 大学教育に対する考え	17
2-2 大学で獲得すべき知識, 能力	18
2-3 大学教育での知識, 能力の獲得可能展望	19
2-4 大学教育で獲得できない知識, 能力	20
第3章 あなた自身について	21
3-1 予習・復習の実施状況	21
3-2 予習・復習の時間	22
3-3 予習・復習の場所	23
3-4 授業の出席率	24
3-5 授業に出席することへの考え	25
3-6 授業を休むことに対する考え	26
3-7 授業を休む場合の理由	27
3-8 授業内容を理解できる授業科目の割合	28
3-9 授業に臨む態度	29
3-10 レポートや宿題をする際の情報源	30
3-11 授業でわからないところの対処方法	31
3-12 教員に質問に行かない理由	32
3-13 教科書の購入状況	33
3-14 教科書を購入しない理由	34
3-15 年間単行本(専門外)読書冊数	35
3-16 1日のインターネット利用時間	36
3-17 学習以外での1日のインターネット利用時間	37
3-18 シラバスの利用状況	38
3-19 高校で未履修科目があるため, 大学で理解困難な科目の有無	39
3-20 高校での未履修科目について, 大学入学後の学習方法	40
3-21 高校での未履修科目を大学で履修しない理由	41
3-22 期末試験における1科目あたりの勉強時間数	42
第4章 全学共通教育の授業について	43
4-1 科目の選択基準	43
4-2 授業を受けて学び得たこと	44

4-3	教養科目群（教養科目）について	45
4-4	基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）について	46
4-5	基礎科目群（基礎教育科目）について	47
第5章	専門教育の授業について	48
5-1	授業を受けて学び得たこと	48
5-2	授業内容の難易度	49
5-3	実習時間数に対する希望	50
第6章	免許・資格について	51
6-1	教員免許取得に興味のあるもの	51
第7章	卒業研究, 医学研究実習, 研究基礎ゼミについて	52
7-1	研究室選考の基準	52
7-2	卒業研究, 医学研究実習, 研究基礎ゼミで学び得たこと	53
7-3	教員, TAによる研究指導時間の満足度	54
7-4	研究設備, スペースの満足度	55
第8章	英語学習・教育について	56
8-1	英語学習の時間	56
8-2	英語の学習方法	57
8-3	本学の英語教育への要望	58
第9章	夏季休暇の使い方について	59
9-1	夏季休暇の過ごし方	59
9-2	夏季休暇中の自主学習時間	60
第10章	大学に関する評価	61
10-1	大学教育全体の満足度	61
第11章	学部等の現状と課題	62
11-1	総合科学部	62
11-2	医学部医学科	62
11-3	医学部栄養学科	63
11-4	医学部保健学科	63
11-5	歯学部	65
11-6	薬学部	66
11-7	工学部	67
11-8	全学共通教育	69
11-9	FD (Faculty Development) の観点から	69
第12章	まとめと提言	71

序章 学生の学習に関する実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学学生の学習意識や学習に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学教育の質に関する専門委員会の次の委員が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
委員長	吉本勝彦	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	伊藤正幸	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教授
委員	福井義浩	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	高橋章	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	滝口祥令	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	森賀俊広	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教授
委員	佐藤充宏	全学共通教育センター	教授
委員	鈴木尚子	大学開放実践センター	准教授
委員	松浦健二	情報化推進センター	准教授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員5,879人（平成22年11月1日に在籍するもののうち休学者数を除いたもの）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務（教務）係及び教育の質に関する専門委員会の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークシート）を回収した。

4. 調査の時期

この調査は、平成22年11月8日から11月12日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を11月15日までとした。

5. 調査の内容

今回で2回目となるこの調査の項目は、学生の学習意識や学習に関する実態を把握する目的に基づき、上記委員が作成し、教育の質に関する専門委員会において精選した。項目数は、授業に対する予習・復習実施状況、実施時間、授業内容を理解できる科目の割合等、全51項目とした。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者5,879人のうち回答数は3,745人で、回収率は63.7%であった。学部・学科別の回収状況は次表のとおりである。

平成 22 年度 学生の学習に関する実態調査集計表

[学部学科別]

学 部	学 科	対象者数	回収数	回収率 (%)	
総合科学部	人 間 社 会 学 科	362	140	38.7	
	自 然 シ ス テ ム 学 科	187	61	32.6	
	人 間 文 化 学 科	210	64	30.5	
	社 会 創 生 学 科	210	60	28.6	
	総 合 理 数 学 科	135	63	46.7	
	計	1,104	388	35.1	
医 学 部	医 学 科	596	191	32.0	
	栄 養 学 科	203	186	91.6	
	保健学科	看 護 学 専 攻	302	257	85.1
		放 射 線 技 術 科 学 専 攻	155	104	67.1
		検 査 技 術 科 学 専 攻	75	69	92.0
	保 健 学 科 計	532	430	80.8	
	計	1,331	807	60.6	
歯 学 部	歯 学 科	280	192	68.6	
	口 腔 保 健 学 科	62	61	98.4	
	計	342	253	74.0	
薬 学 部	薬 学 科 ・ 創 製 薬 学 科	162	147	90.7	
	薬 学 科	123	99	80.5	
	創 製 薬 学 科	73	69	94.5	
	計	358	315	88.0	
工 学 部	昼間コース	建 設 工 学 科	366	262	71.6
		機 械 工 学 科	506	357	70.6
		化 学 応 用 工 学 科	343	245	71.4
		生 物 工 学 科	257	192	74.7
		電 気 電 子 工 学 科	448	311	69.4
		知 能 情 報 工 学 科	357	280	78.4
		光 応 用 工 学 科	215	149	69.3
		計	2,492	1,796	72.1
	夜間主コース	建 設 工 学 科	55	36	65.5
		機 械 工 学 科	47	36	74.5
		化 学 応 用 工 学 科	28	25	89.3
		生 物 工 学 科	19	19	100.0
		電 気 電 子 工 学 科	53	28	52.8
		知 能 情 報 工 学 科	50	42	84.0
		計	252	186	73.4
計	2,744	1,982	72.2		
合 計	5,879	3,745	63.7		

注) 在学者数欄は、11月1日現在で、休学者数を除いた数である。

7. 図中の%表示

端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

平成 22 年度 学生の学習に関する実態調査

平成 22 年 11 月

徳 島 大 学

お 願 い

この調査は、みなさんの学習意識や学習に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成 22 年 11 月 1 日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入していただき、他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変だとは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11 月 8 日～ 11 月 12 日]

回答用紙（マークカード）の提出期限は、11 月 15 日(月)です。
所属学部の学務（教務）係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成 22 年 11 月 1 日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、質問 4 及び大学に対して教育（カリキュラム、授業内容等）・研究について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

9. 何とも思わない

8) 大学で獲得すべき知識、能力をあげてください。(複数回答可)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 基礎的知識 | 2. 専門的知識 |
| 3. 問題解決力 | 4. チームで目標を達成する術 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |

9) これらの能力は現在の教育で獲得できると思いますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

10) 問9で「いいえ」と答えた人は獲得できない能力は以下のどれですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 基礎的知識 | 2. 専門的知識 |
| 3. 問題解決力 | 4. チームで目標を達成する術 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |

あなた自身について

11) 定期試験前以外に授業時間外に学習を行っていますか。

1. 必ず全科目予習・復習を行っている
2. 科目によっては予習・復習を行っている
3. 宿題が出た時のみ予習・復習を行っている
4. 何もしていない

12) 1日平均するとどれくらい授業時間外に学習を行っていますか。

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 3時間以上 | 2. 2時間～3時間 | 3. 1時間～2時間 |
| 4. 1時間以内 | 5. 全くしていない | |

13) 授業時間外の学習は、主としてどこで行っていますか。

- | | | | |
|----------|--------|---------------|--------|
| 1. 自分の部屋 | 2. 図書館 | 3. 図書館以外の学内施設 | 4. その他 |
|----------|--------|---------------|--------|

14) 授業の出席率は平均でどのくらいですか。

- | | | |
|----------|----------------|----------|
| 1. 90%以上 | 2. 70%以上～90%未満 | 3. 70%未満 |
|----------|----------------|----------|

15) 授業へ出席することについてどのように考えていますか。

1. できるだけ全部の授業に出席するようにしている
2. 興味のある授業に重点的に出席するようにしている
3. 出席をとる授業には出席するようにしている
4. 必修科目に重点的に出席するようにしている

16) 授業を休むことをどう思っていますか。

1. なんとも思っていない
2. うしろめたい
3. 自分の責任で休むのだからとやかく言われたくない

4. 残念に思う

17) 病気などのやむを得ない理由なく授業を休む場合の理由は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 朝寝坊 | 2. サークル・クラブ活動 |
| 3. アルバイト | 4. 遊び |
| 5. 他科目のレポート作成 | 6. 他科目の試験勉強 |
| 7. 教員が出席をとらないから | 8. 出席しても遅刻すると欠席になるから |
| 9. 授業が理解できないから | 10. 授業がおもしろくないから |

18) 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

19) 授業にはどのような態度で臨んでいますか。(複数回答可)

1. ほとんどの授業で集中している。
2. 興味のある授業では集中している。
3. 居眠りや授業とは直接関係ない事をしていることが多い。
4. 出欠を取るので出席しているが講義には興味がない。
5. 友達がいるので出席している。

20) レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 教科書、参考書 | 2. インターネット |
| 3. 教員へ質問する | 4. 友人・先輩に聞く |

21) 授業でわかりにくかったところは、どうしていますか。(複数回答可)

1. 授業中または終了後、教員に直接聞いている
2. 先輩、友人に質問している
3. 自分で勉強し、解決している
4. オフィスアワー等、授業時間外に教員に質問している

22) 授業時間外に教員へ質問にいかない理由は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 質問しにくい雰囲気 | 2. 忙しそう |
| 3. 連絡方法が良く判らない | 4. 下手な質問すると怒られそう |
| 5. 聞きに行こうと思わない | |

23) 指定された教科書は購入していますか。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. すべて購入する | 2. 大部分は購入する |
| 3. 少し購入する | 4. 購入しない |

24) 教科書を購入しない場合の理由は何ですか。(問 23 で「2」～「4」を選んだ方)

1. 教科書がなくても授業内容が理解できる
2. 教科書が高価である
3. 先輩、友人の本を使う

4. 図書館などの本を利用する

25) 平均して1年間に何冊程度の単行本(専門外)を読んでいますか。

1. 10冊以上 2. 5～9冊 3. 1～4冊 4. 0冊

26) 学習のためにインターネットを1日何時間くらい使用していますか。

1. 2時間以上 2. 1時間～2時間 3. 1時間以内 4. 全く使用していない

27) 学習以外の目的でインターネットは1日何時間くらい使用していますか。

1. 2時間以上 2. 1時間～2時間 3. 1時間以内 4. 全く使用していない

28) シラバスは毎週確認し、授業の予習・復習に役立てていますか。

1. はい 2. いいえ

29) 高校で履修しなかった科目(物理, 化学, 生物)のために、大学で理解するのが困難であった科目はありますか。

1. ある 2. ない

30) 高校で履修していない物理, 化学, 生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。

1. 自分で高校の教科書, 参考書を使い, 勉強した
2. 全学共通教育で開講されている自然科学入門やその他の科目で勉強した
3. 何もしていない
4. その他

31) 高校で履修していない科目を自然科学入門で勉強していない場合、その理由は何ですか。

1. 他にももしろい授業がある 2. 不都合を感じない
3. 単位上限制のため 4. 希望したが抽選に漏れた
5. 自分で学習可能 6. その他

32) 期末試験の試験勉強において、平均して1科目あたり、どれくらい勉強していますか。

1. 7時間以上 2. 5～7時間 3. 3～5時間
4. 1～3時間 5. 1時間以内

全学共通教育の授業について

33) 全学共通教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるため
2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した
4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった
6. 特に基準はない

34) 全学共通教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるのに役立った
2. 専門の基礎を築くのに役立った
3. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになった
4. 学問・研究に興味を湧いた
5. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
6. 特に得るものはなかった

・全学共通教育について該当するものをあげてください。

35) 教養科目群(教養科目)について

1. 難しい科目が多い
2. 自分の知的能力に合っている科目が多い
3. 簡単すぎて物足りない

36) 基盤形成科目群(外国語科目・健康スポーツ科目)について

1. 難しい科目が多い
2. 自分の知的能力に合っている科目が多い
3. 簡単すぎて物足りない

37) 基礎科目群(基礎教育科目)について(履修している方のみお答えください。)

1. 難しい科目が多い
2. 自分の知的能力に合っている科目が多い
3. 簡単すぎて物足りない

専門教育の授業について

38) 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるのに役立った
2. 専門の知識を身に付けるのに役立った
3. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになった
4. 学問・研究に興味を湧いた
5. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った

39) 授業内容の難易度についてどう思いますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

40) 実習時間数についてどう思いますか。(2年生以上)

1. もっと増やしてほしい
2. これくらいでよい
3. 減らすべきである

41) 教員免許の取得に興味がありますか。

1. 免許を取得し、教員を目指している
2. 一応免許だけはとっておきたい
3. 取得すべきか否か迷っている
4. 関心がない

卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミについて（3、4年生または該当する学生のみ）

42) 卒業研究または医学科では医学研究実習、歯学科では研究基礎ゼミの研究室をどういう基準で決めましたか。

1. 関心の深い研究内容である
2. 将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから
3. 先輩や友人の勧めで
4. 研究室の雰囲気
5. やむを得ず入った
6. どこでもよかった

43) 卒業研究、医学研究実習（医学科）、研究基礎ゼミ（歯学科）によって何を学ぶことができると思っていますか。（複数回答可）

1. 専門の知識を身に付けるのに役立つ
2. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになる
3. 学問・研究に興味を沸かす
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立つ
5. マナー、人格形成に役立つ
6. 特に得るものがない

44) 教員、TAの研究指導（データの相談、実験指導等）の時間は十分でしたか。

1. 十分
2. まあ十分
3. やや足りない
4. 全く不足している

45) 研究を進めるための設備、スペースは確保されていますか。

1. 設備、スペースともに十分である
2. 設備は十分であるが、スペースがせまい
3. スペースは十分であるが、設備が足りない
4. 設備、スペースともに足りない

英語学習・教育について

46) 英語は毎日または定期的に勉強していますか。

1. はい
2. いいえ

47) 問46で「はい」と答えた人は、質問に教えてください。

どのように、英語の勉強を行っていますか。（複数回答可）

1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している

2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在行っている
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEIC などの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
5. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している
6. TOEIC や英検などの英語能力試験を定期的に受験している
7. 留学生と交流している

48) 徳島大学における英語教育について

1. 全学共通教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

夏季休暇の使い方について

49) 本年の夏季休暇中は、どのように過ごしましたか。(複数回答可)

1. 自宅、実家、図書館で読書
2. 自宅、実家、図書館で学習
3. 集中講義を受講
4. 大学の研究室で研究活動
5. 企業インターンシップに参加
6. クラブ活動
7. アルバイト
8. 国内旅行・海外旅行

50) 本年の夏季休暇中に、集中講義およびそれに関連した学習（レポート作成）以外に、学習に使った時間は合計どれくらいですか。

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1. 40 時間以上 | 2. 20～40 時間 | 3. 10～20 時間 |
| 4. 5～10 時間 | 5. 5 時間以下 | 6. 0 時間 |

大学に関するあなたの評価を教えてください

51) 大学教育全体の満足度は 100 点満点で何点くらいですか。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 90 点以上 | 2. 80 点以上 | 3. 70 点以上 |
| 4. 60 点以上 | 5. 59 点以下 | |

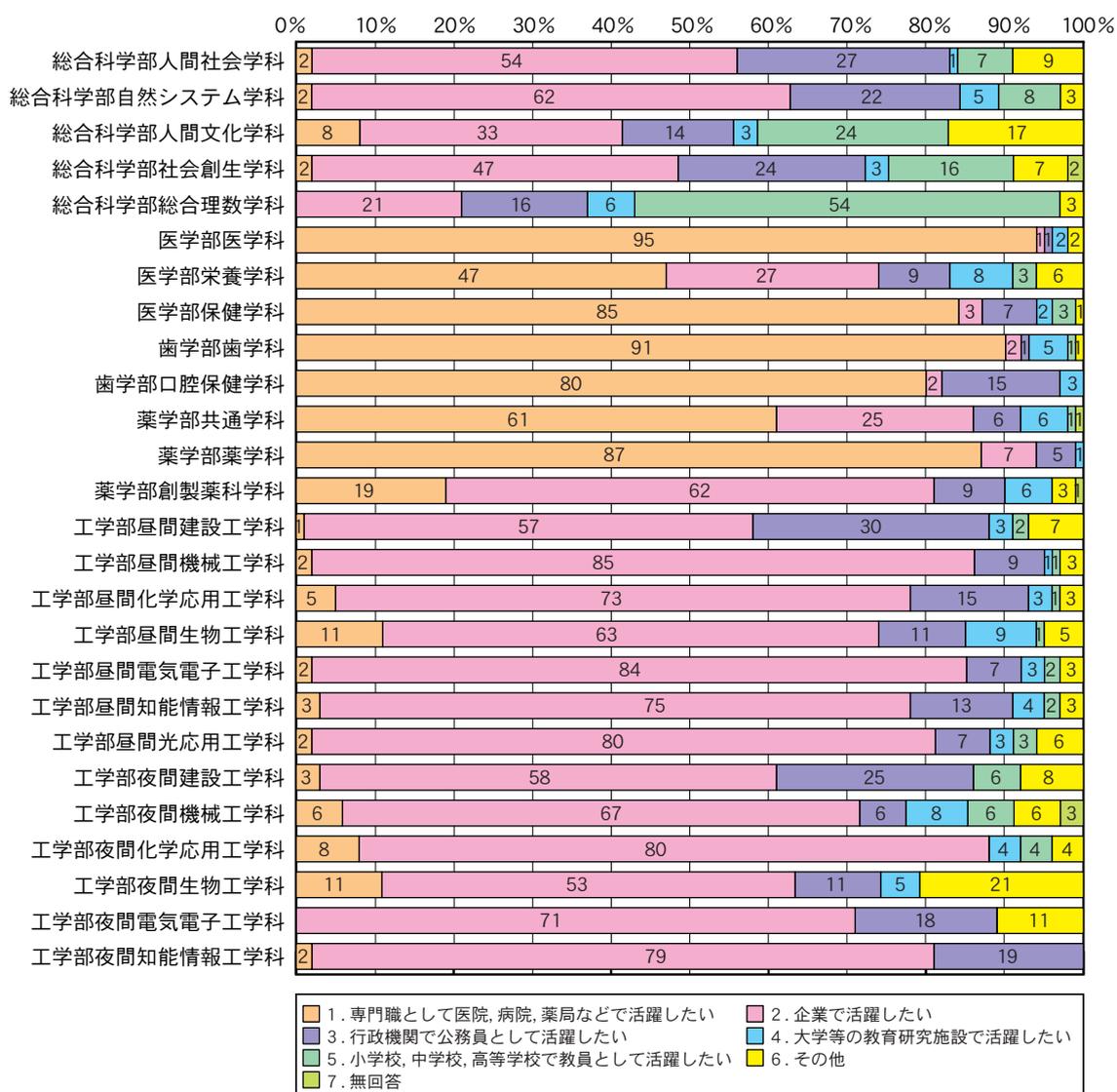
ご協力ありがとうございました

第1章 将来の希望について

1-1 将来の希望

蔵本キャンパスの医学科、保健学科、歯学科、口腔保健学科、薬学科の学生の80% - 95%は、1. 専門職として医院、病院、薬局などで活躍したい、を選んでいる。創製薬科学科、栄養学科においては、1を選んだ学生の比率は19% - 47%で、医学科、保健学科、歯学科、口腔保健学科、薬学科の学生に比べ、2. 企業、4. 大学等の教育研究施設を選んだ学生の比率が高くなっている。常三島キャンパスの総合科学部学生では、企業で、または公務員として働くことを大部分の学生が希望している。7% - 54%の学生が小学校、中学校の教員を希望しているが、学科間で大きな差異が認められる。工学部では、全学科において企業で働くことを望む学生が多いが、建設工学科では公務員、生物工学科では大学等の教育研究施設を希望する学生が他学科に比して多い。

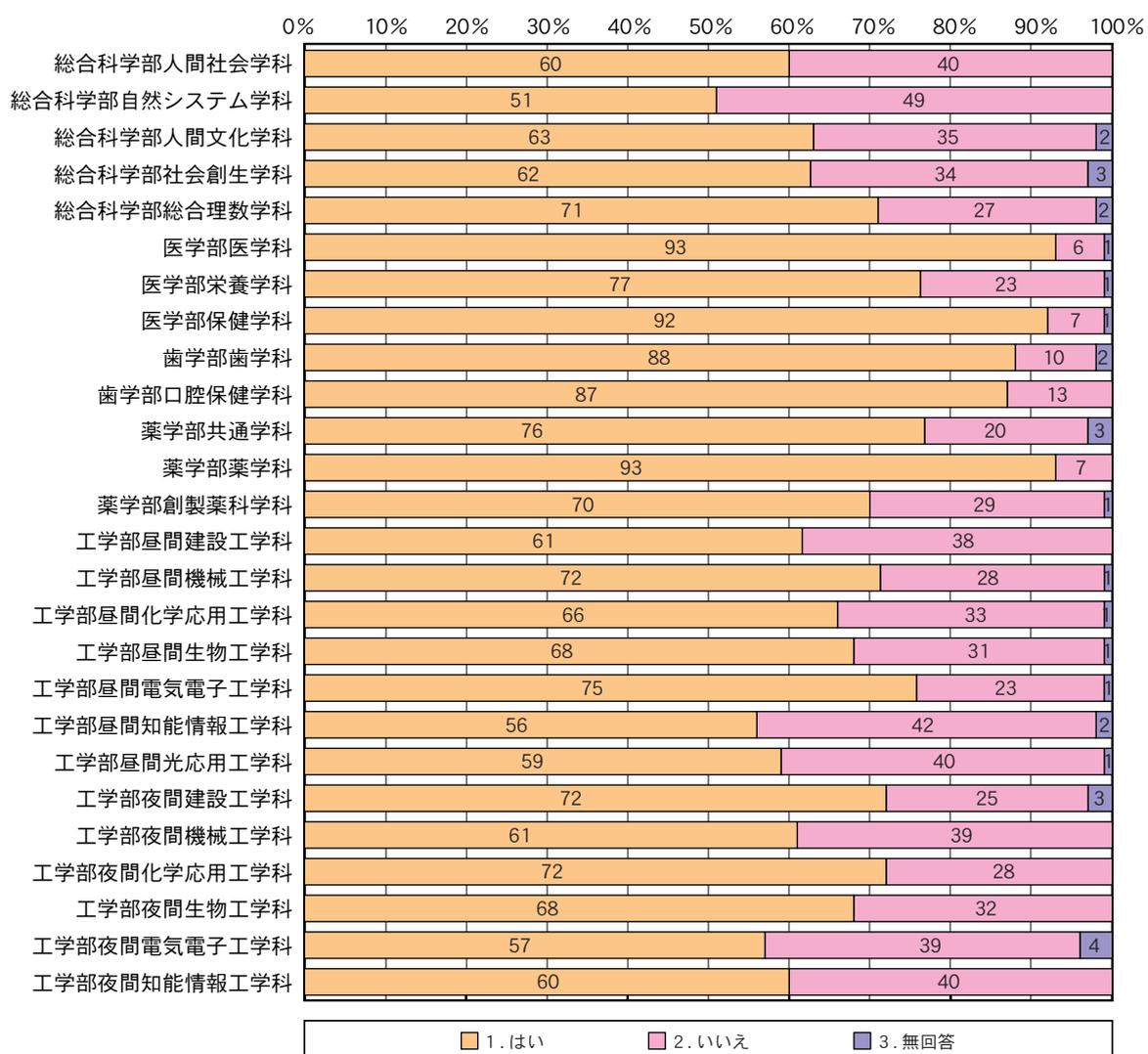
問4 あなたの将来の希望について当てはまるものはどれですか。



1-2 大学教育による将来の希望の実現性

蔵本キャンパスの医学部、歯学部、薬学部学生では80%以上の学生が自分の将来の希望が実現できると考えているのに対し、総合科学部、工学部の学生では40% - 50%の学生が2を選び、現在の希望と異なる仕事に就く可能性があると考えている。

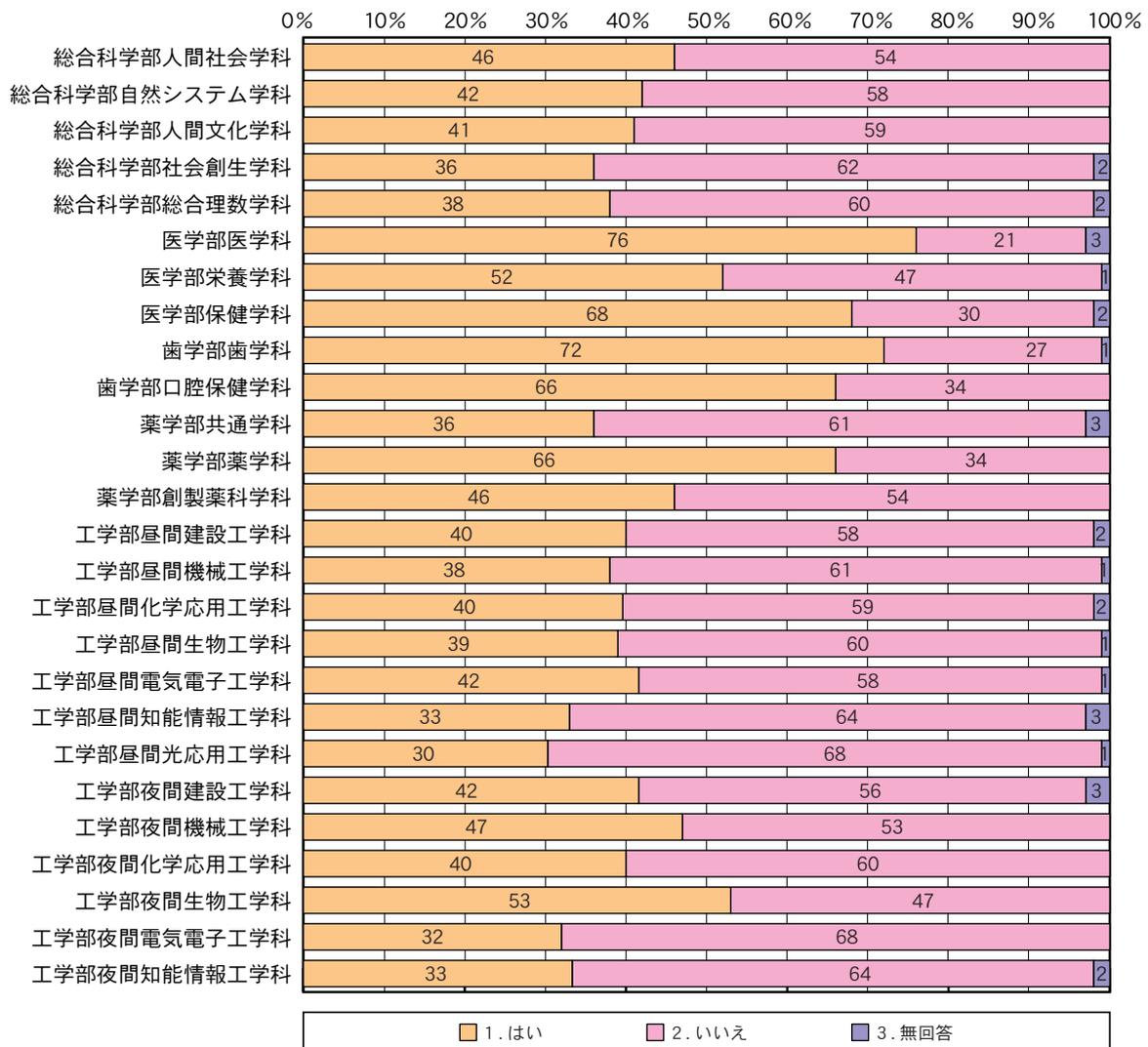
問5 現在あなたが受けている教育で将来の希望は実現できそうですか。



1-3 自己の学習による将来の希望の実現性

前問に比べ、2を選んだ学生が増加し、将来の夢を実現するためには、現在の学習状況が不十分であることを自覚している。特に総合科学部および工学部では約60%の学生が現在の学習態度では不十分と考えている。

問6 現在のあなたの学習態度で将来の希望は実現できそうですか。

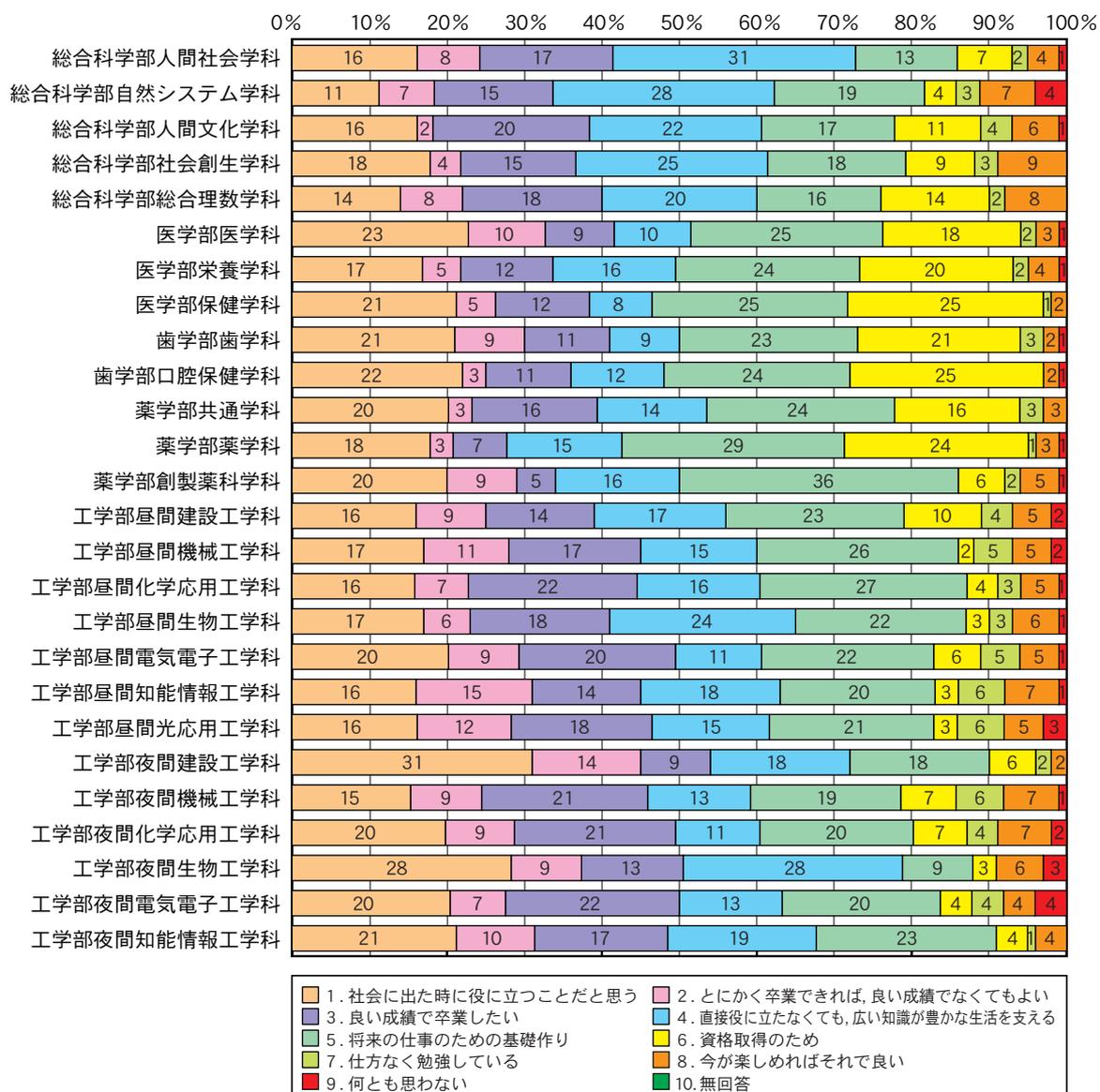


第2章 大学教育について

2-1 大学教育に対する考え

蔵本キャンパスの医学部、歯学部、薬学部は、6を多く選んでいる。総合科学部では4を選んだ学生が多い。

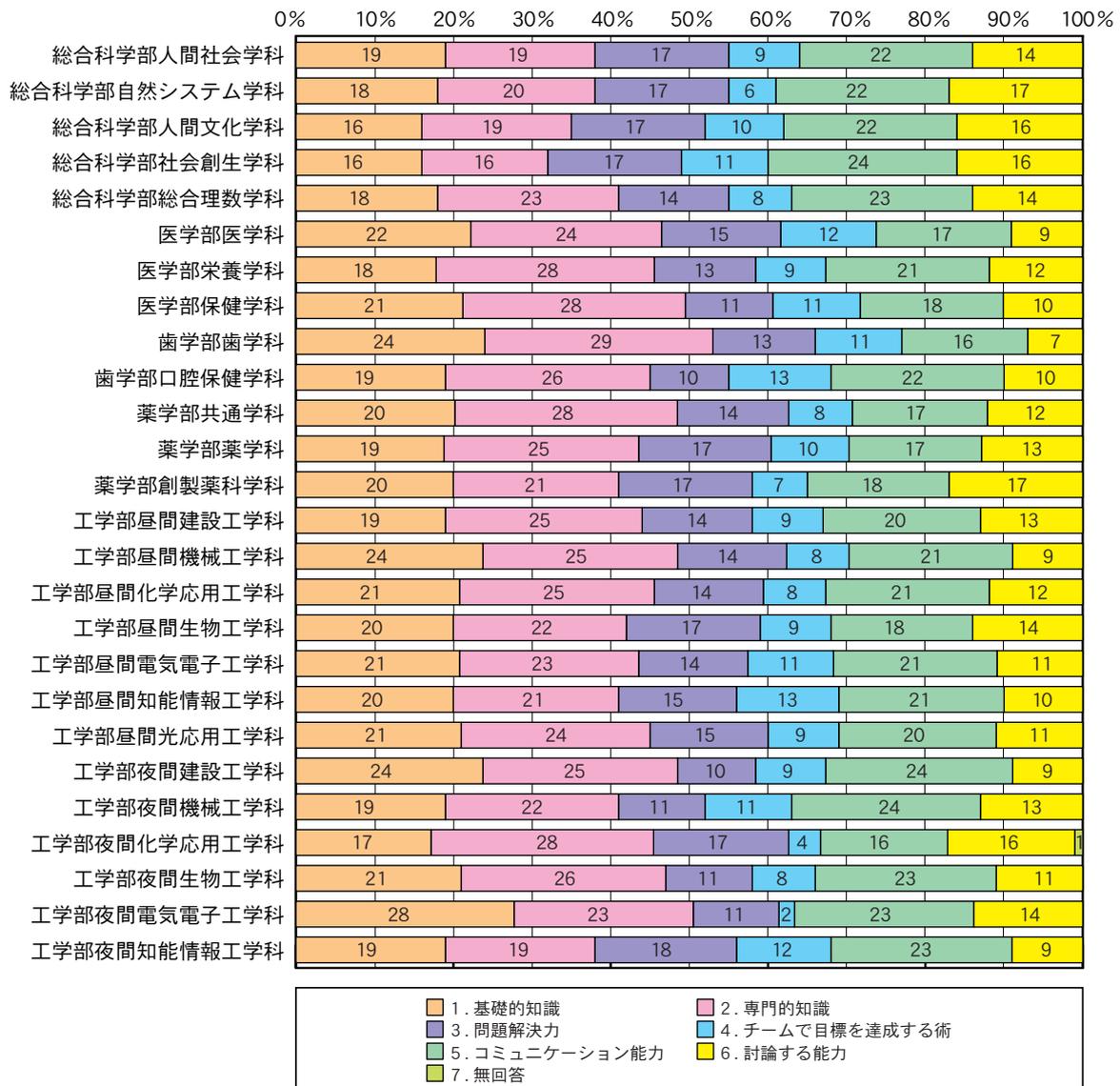
問7 大学教育について、どう思いますか。(複数回答可)



2-2 大学で獲得すべき知識、能力

全体的に、学生が大学で獲得すべき能力として考えているのは、2. 専門的知識および5. コミュニケーション能力である。

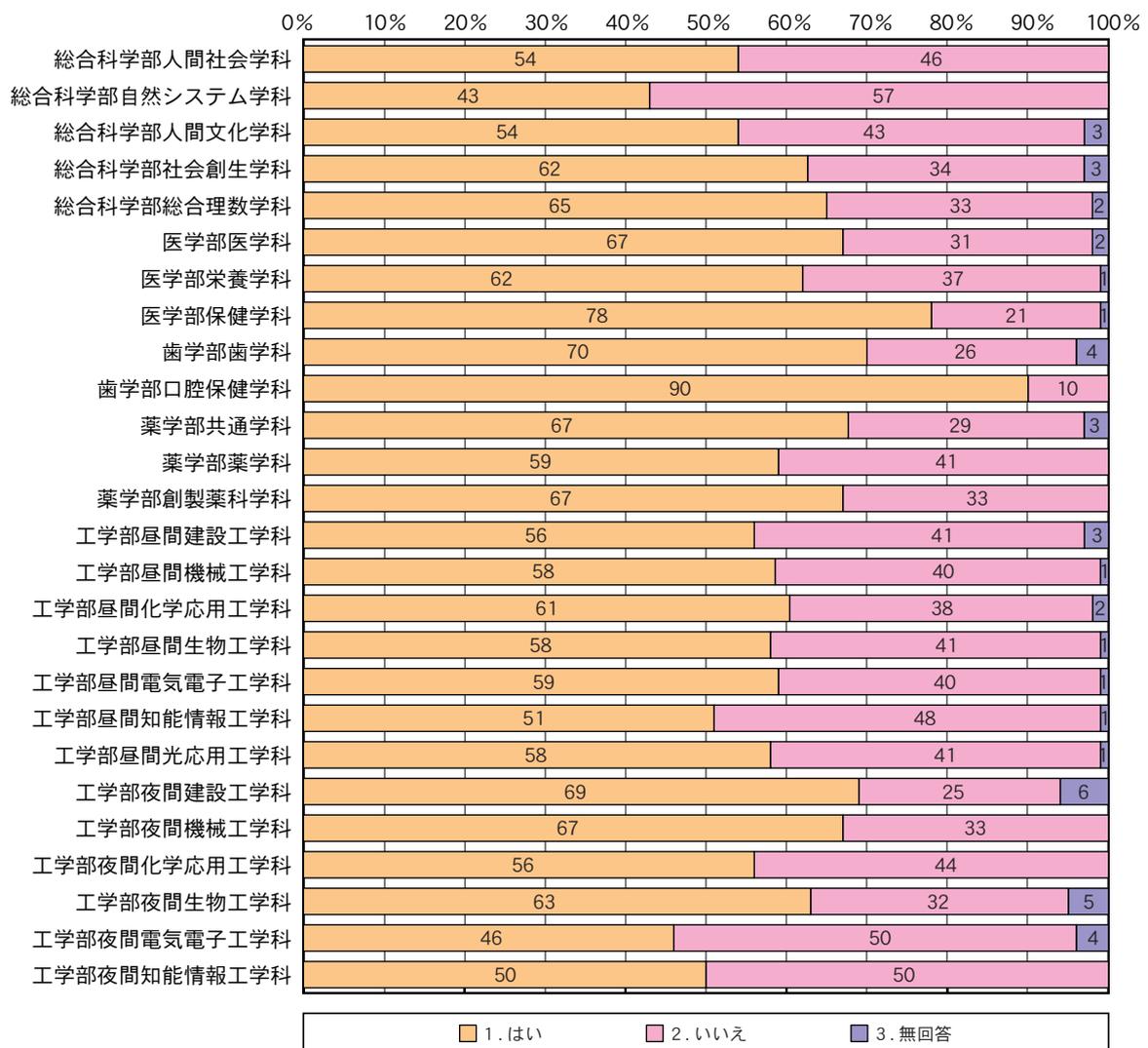
問8 大学で獲得すべき知識、能力をあげてください。(複数回答可)



2-3 大学教育での知識、能力の獲得可能展望

30% - 50%の学生は、問8で答えた能力の獲得は、現在の教育では困難と考えている。

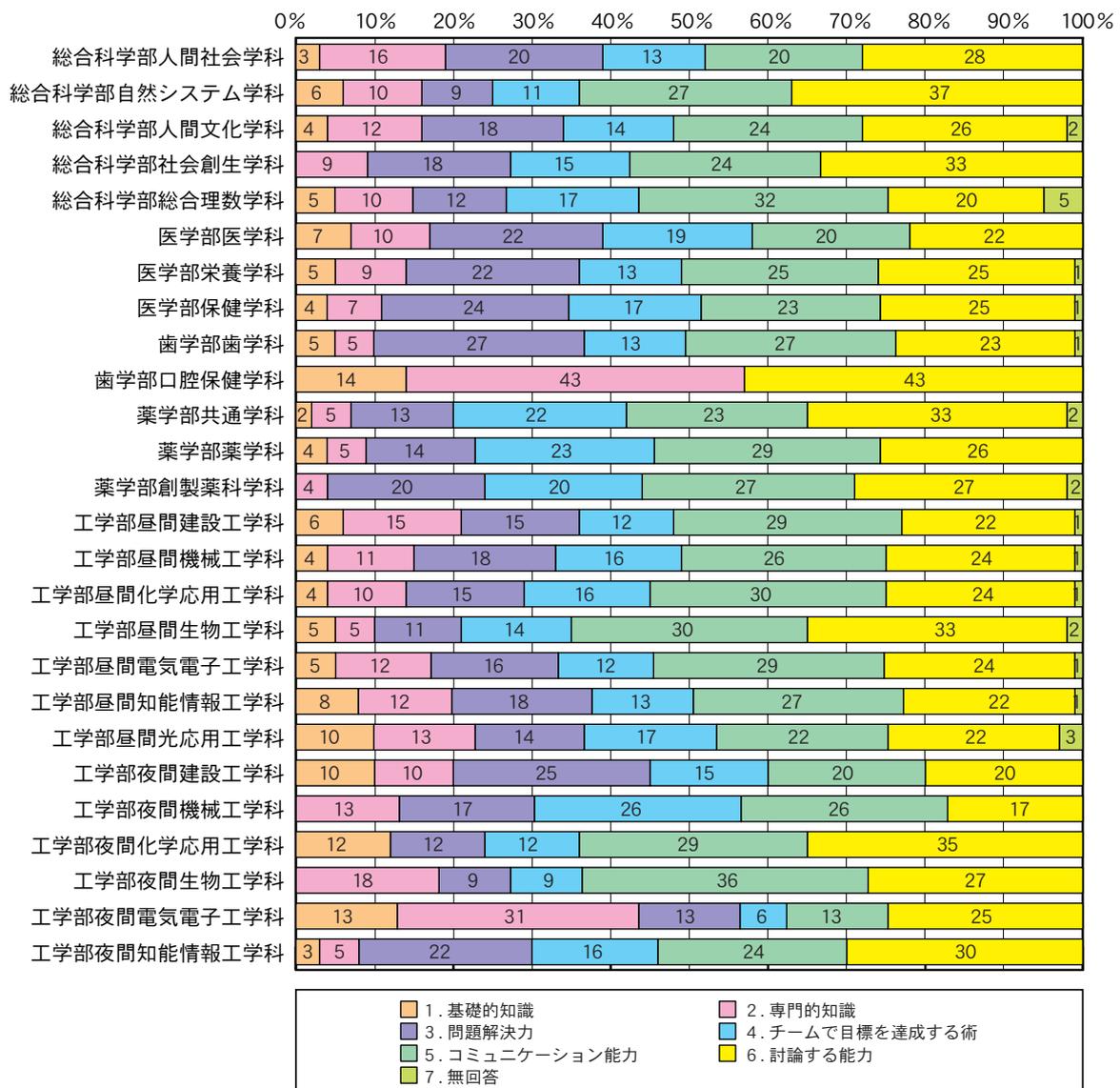
問9 これらの能力は現在の教育で獲得できると思いますか。



2-4 大学教育で獲得できない知識、能力

すべての学部学科において、獲得できない能力としてあげられているのは、6. 討論能力と5. コミュニケーション能力であり、多くの学生がコミュニケーション能力に不安を持っていると考えられる。

問10 問9で「いいえ」と答えた人は獲得できない能力は以下のどれですか。(複数回答可)

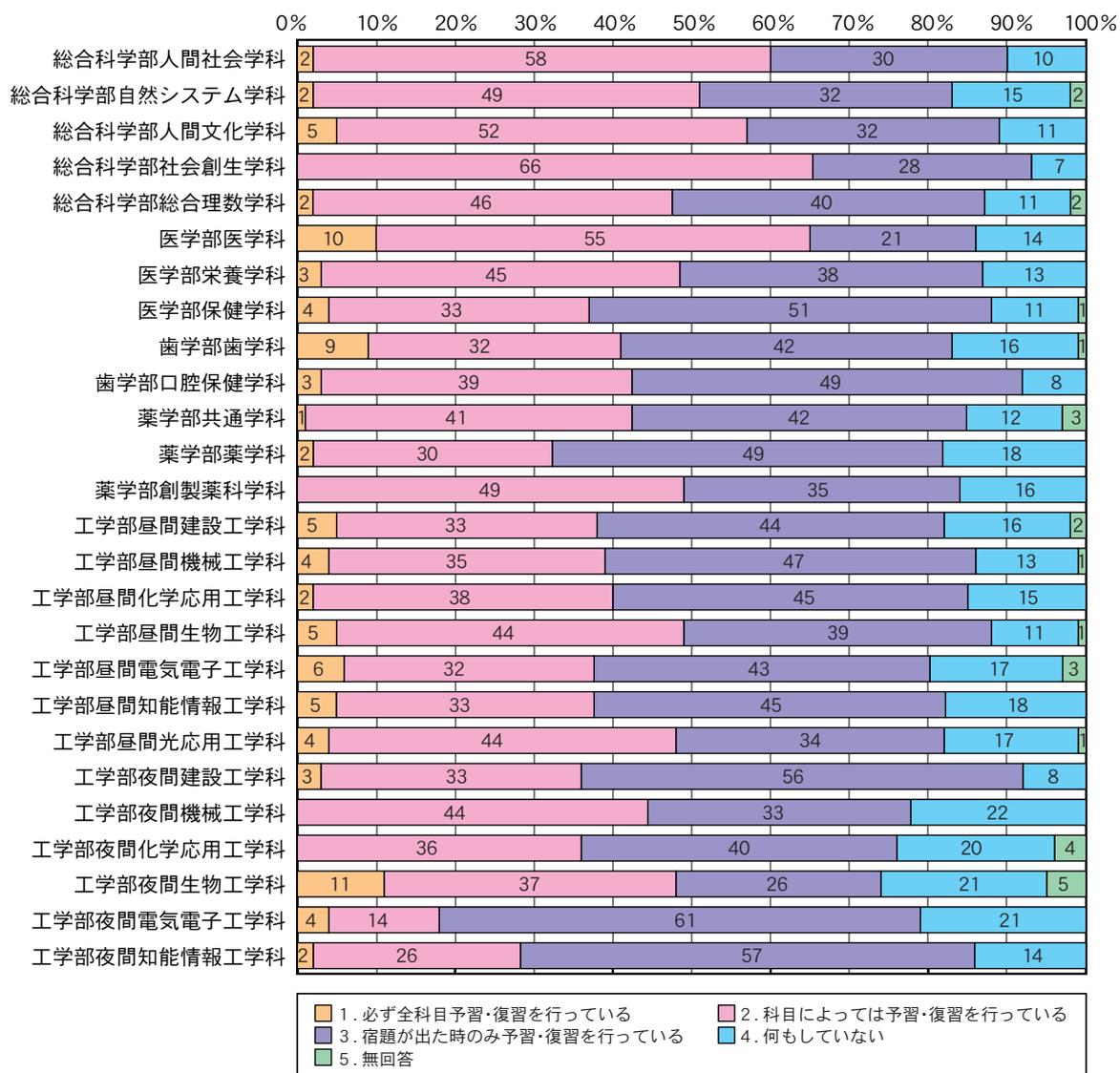


第3章 あなた自身について

3-1 予習・復習の実施状況

2と3を選んだ学生が多く、教員の工夫で学生の自主的な学習を促進できる可能性を示唆している。残念なことに10%～20%の学生が何もしていないと答えている。

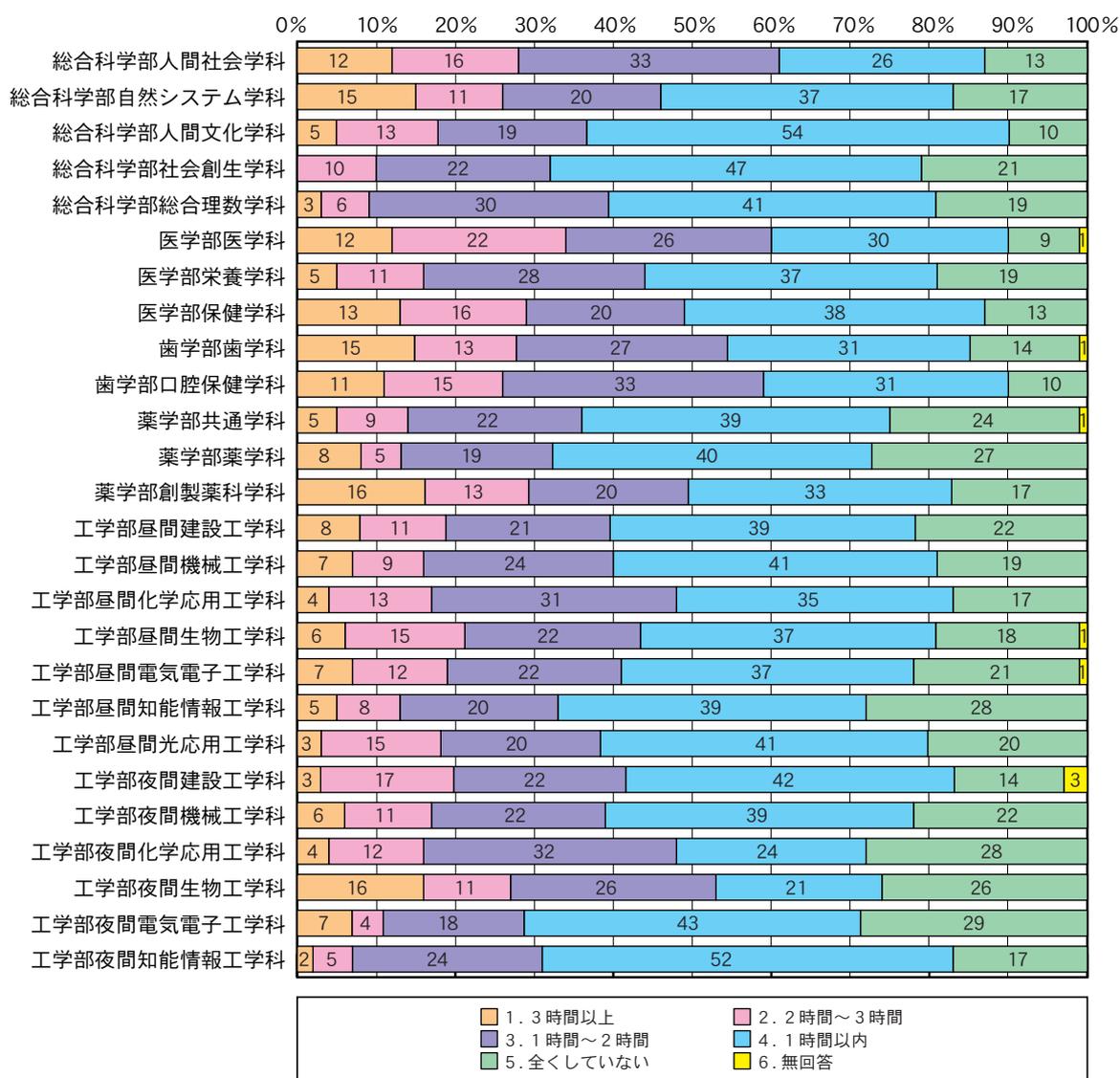
問11 定期試験前以外に授業時間外に学習を行っていますか。



3-2 予習・復習の時間

すべての学部学科において、予習復習を行っている時間は1日平均1時間以内と答えた学生が最も多い。2時間以上学習している学生は、医学科34%、保健学科および創製薬科学科29%、人間社会学科および歯学科28%、夜間生物工学科27%、自然システム学科および口腔保健学科26%である。大学生として必要な学習時間が確保されていないと言える。

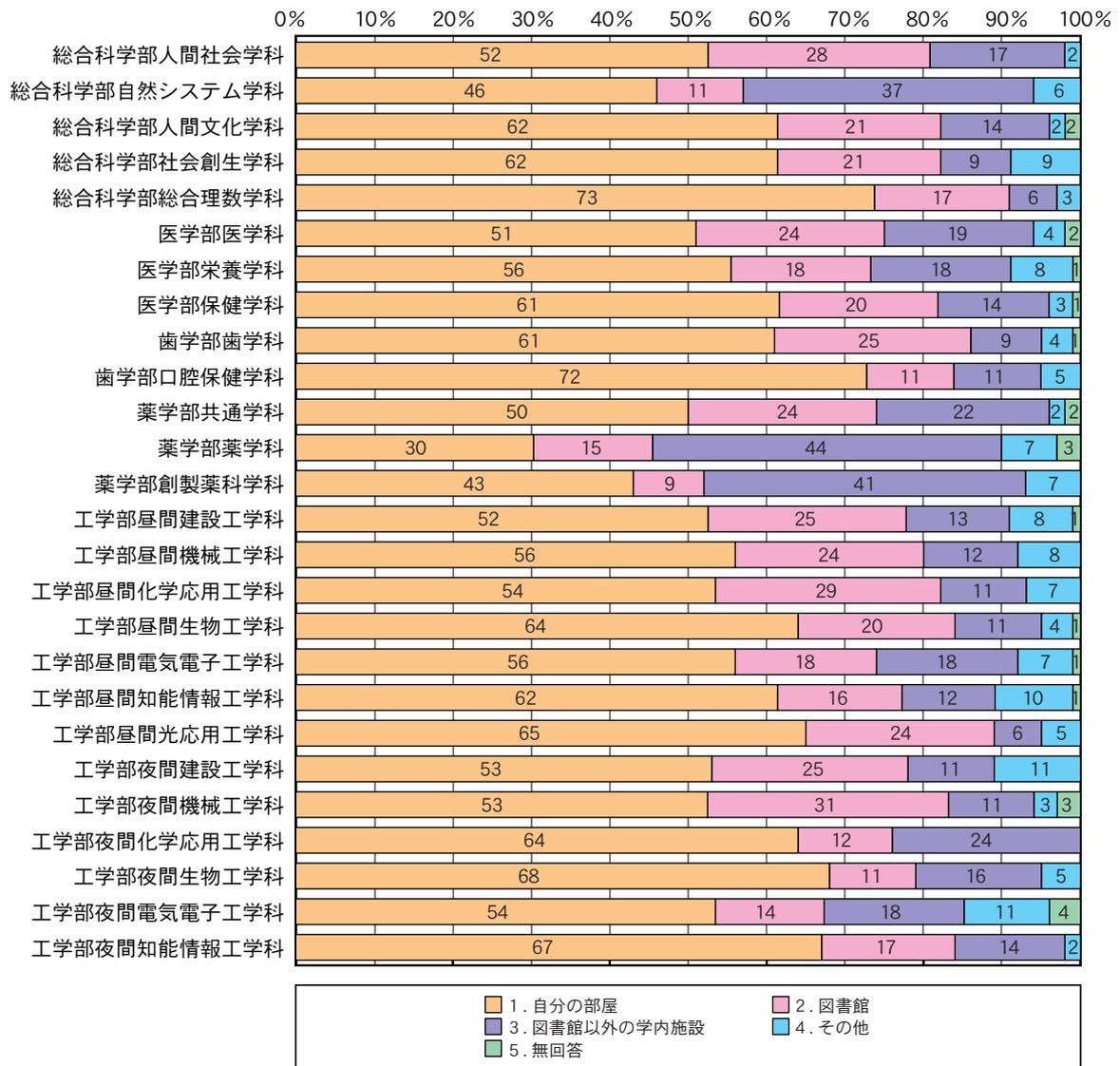
問12 1日平均するとどれくらい授業時間外に学習を行っていますか。



3-3 予習・復習の場所

多くの学生は自分の部屋で学習しているが、薬学部は図書館以外の学内施設で勉強する学生が多い。

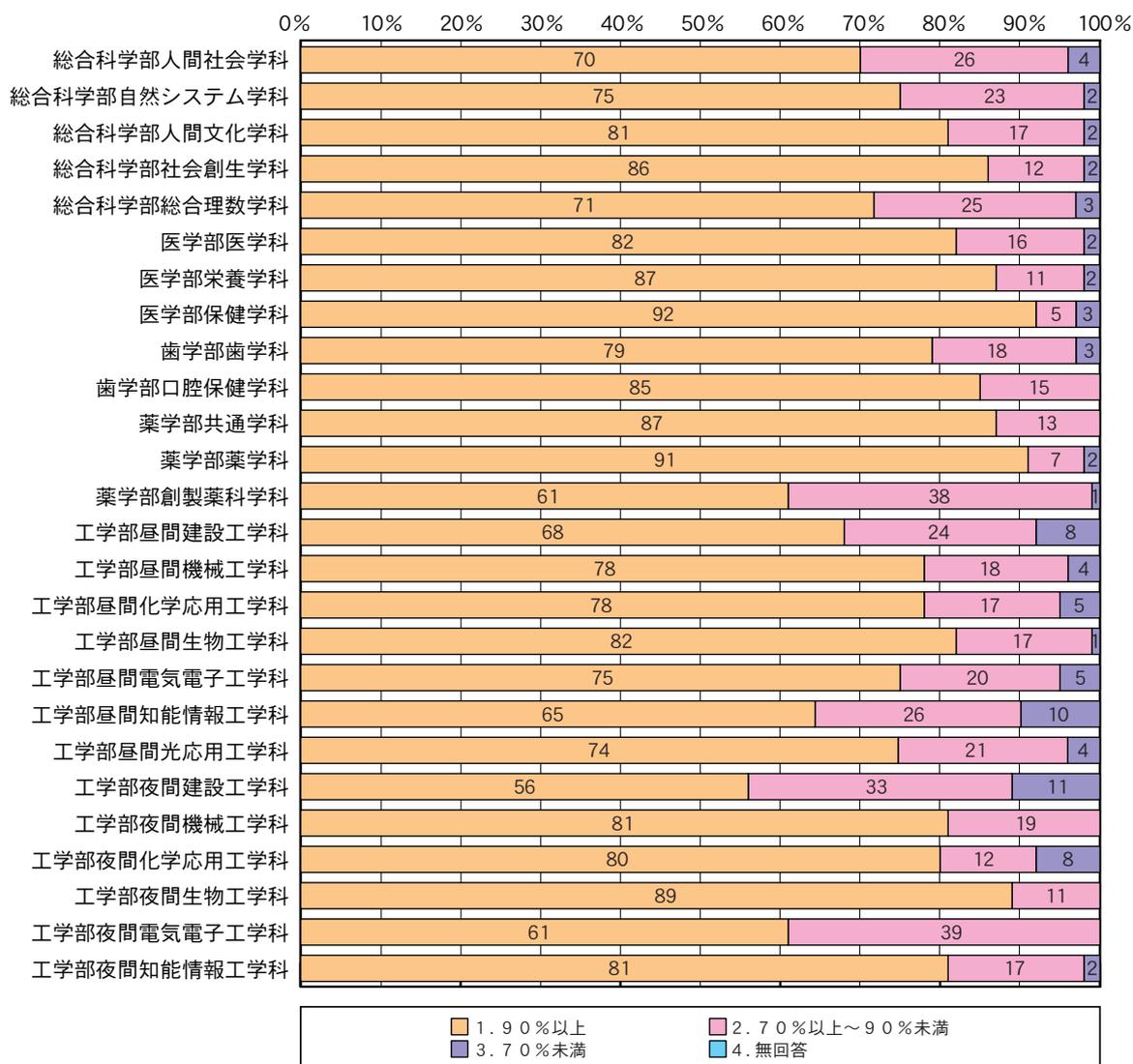
問 13 授業時間外の学習は、主としてどこで行っていますか。



3-4 授業の出席率

90%以上の出席率と答えた学生は、保健学科92%、薬学科91%、夜間生物工学科89%、栄養学科87%、社会創生学科86%、口腔保健学科85%、昼間生物工学科および医学科82%、人間文化学科、夜間機械工学科および夜間知能情報学科81%、夜間化学応用工学科80%であった。

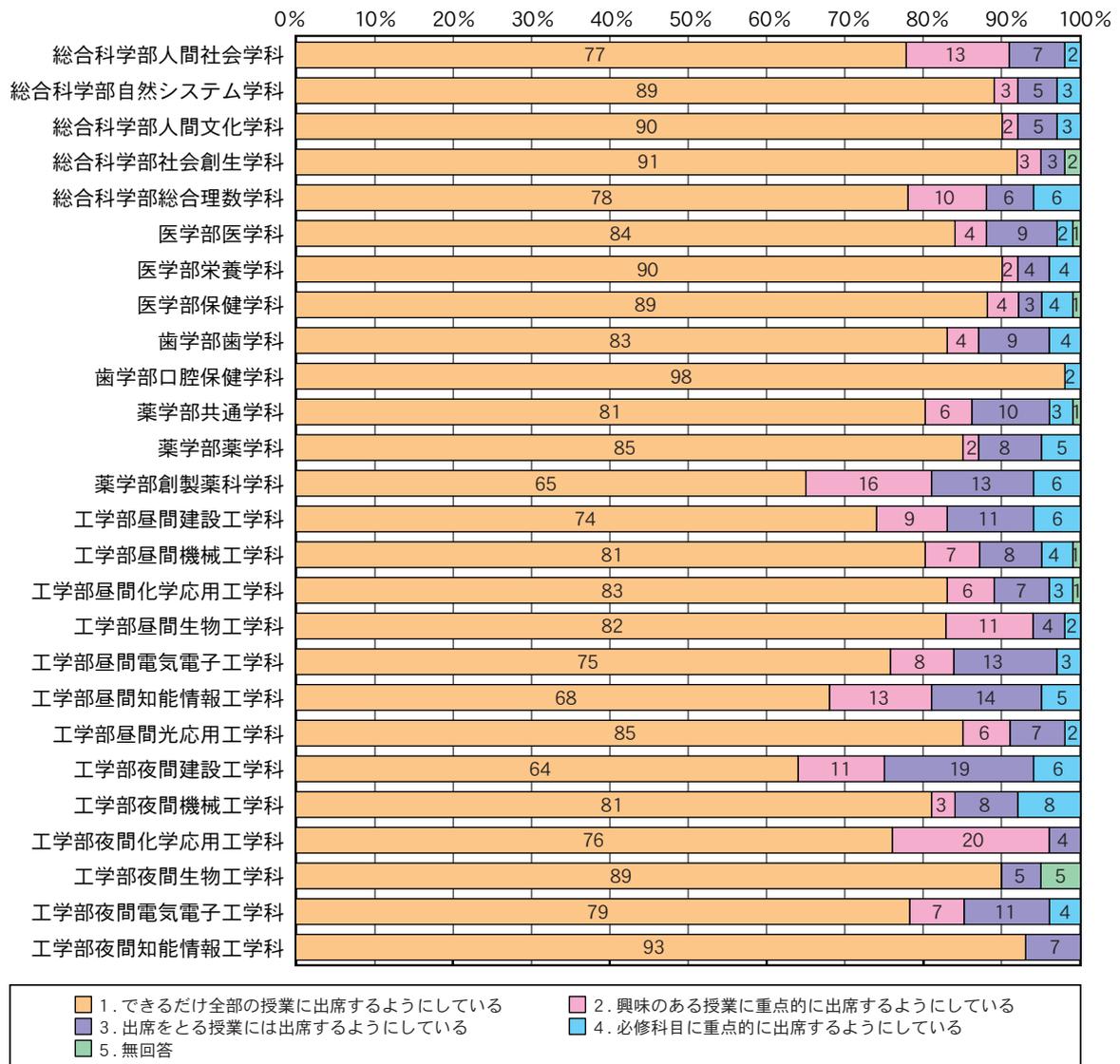
問 14 授業の出席率は平均でどのくらいですか。



3-5 授業に出席することへの考え

全部の授業に出席するようにしているのは64% - 98%である。出席をとる授業には出席すると答えたのが19%を占める学科があることより、教員が出席をとることを徹底することにより、出席率の向上が期待される。

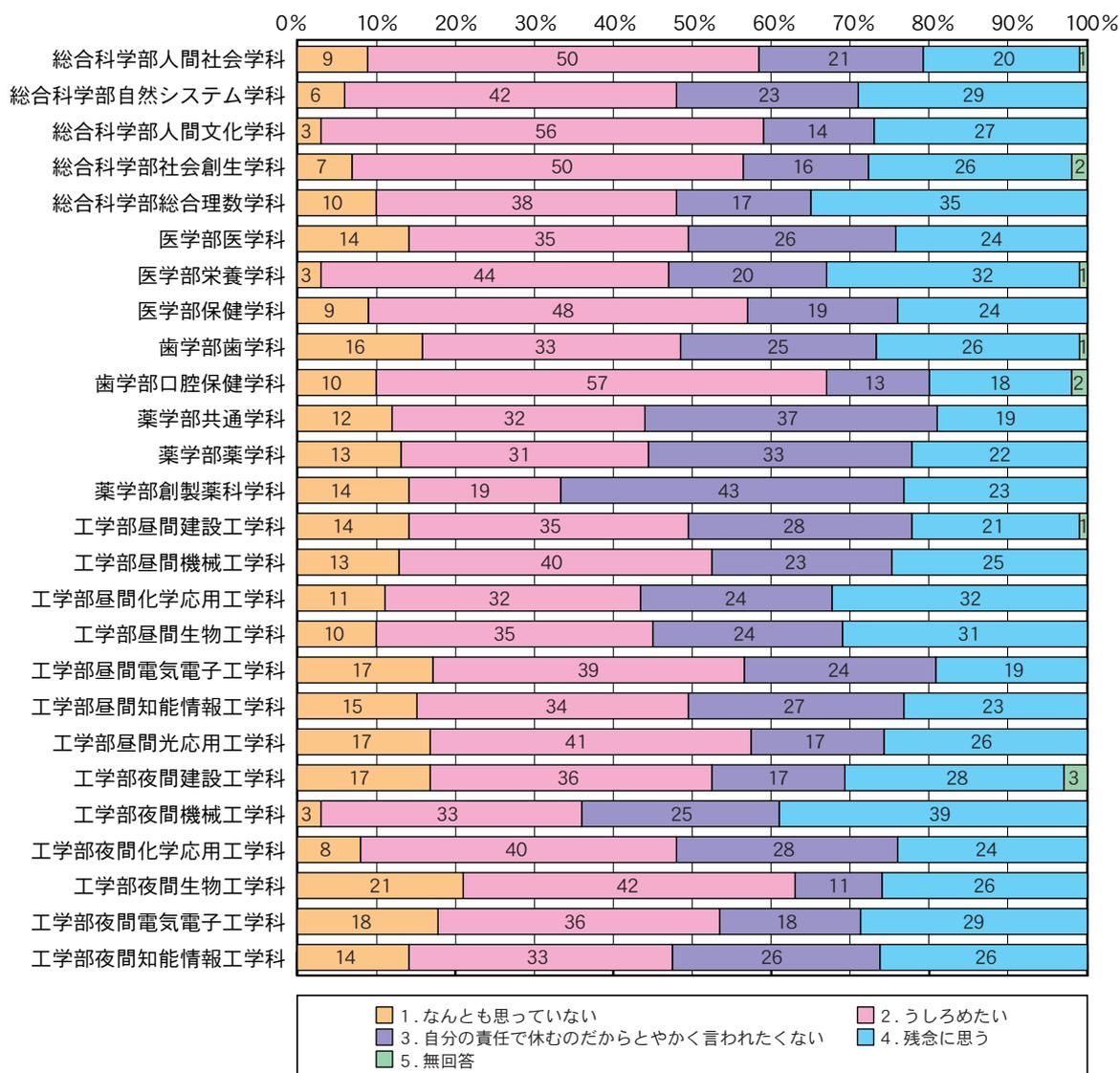
問 15 授業へ出席することについてどのように考えていますか。



3-6 授業を休むことに対する考え

授業を欠席することに対してうしろめたいと感じているのが最も多い。欠席を何とも思っていない学生は、多くの学科では10%台である。また、自分の責任で休むのだからとやかく言われたくないと答えた学生は11% - 43%を占める。

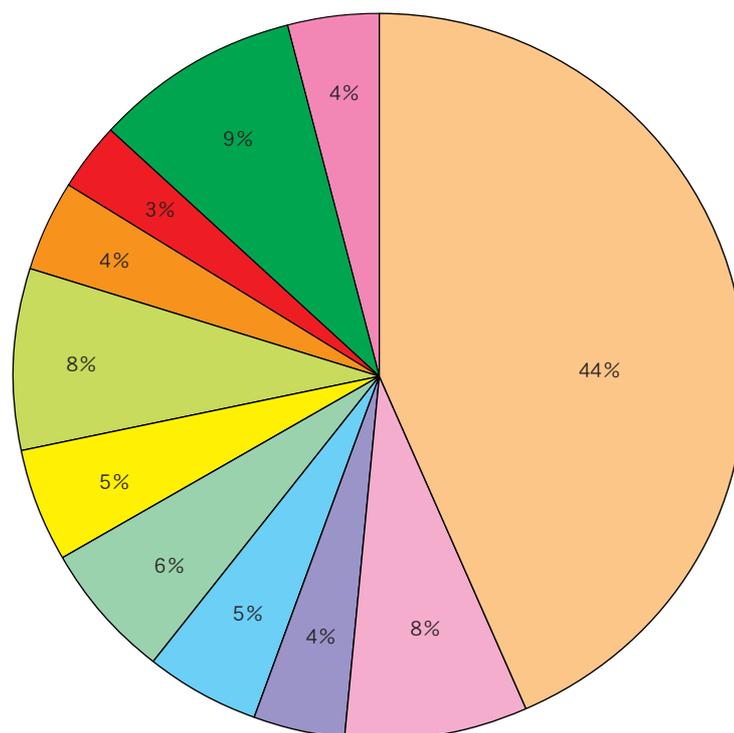
問 16 授業を休むことをどう思っていますか。



3-7 授業を休む場合の理由

授業を欠席する理由としては、朝寝坊が一番多いが、注目すべきは教員が出席をとらないからが8%、または授業が面白くないからをあげた学生が9%いることである。さらに、3%の学生が授業を理解できないからと答えている。これらの結果は、教員側の努力で出席率の向上が可能であることを示している。

問 17 病気などのやむを得ない理由ではなく授業を休む場合の理由は何ですか。(複数回答可)

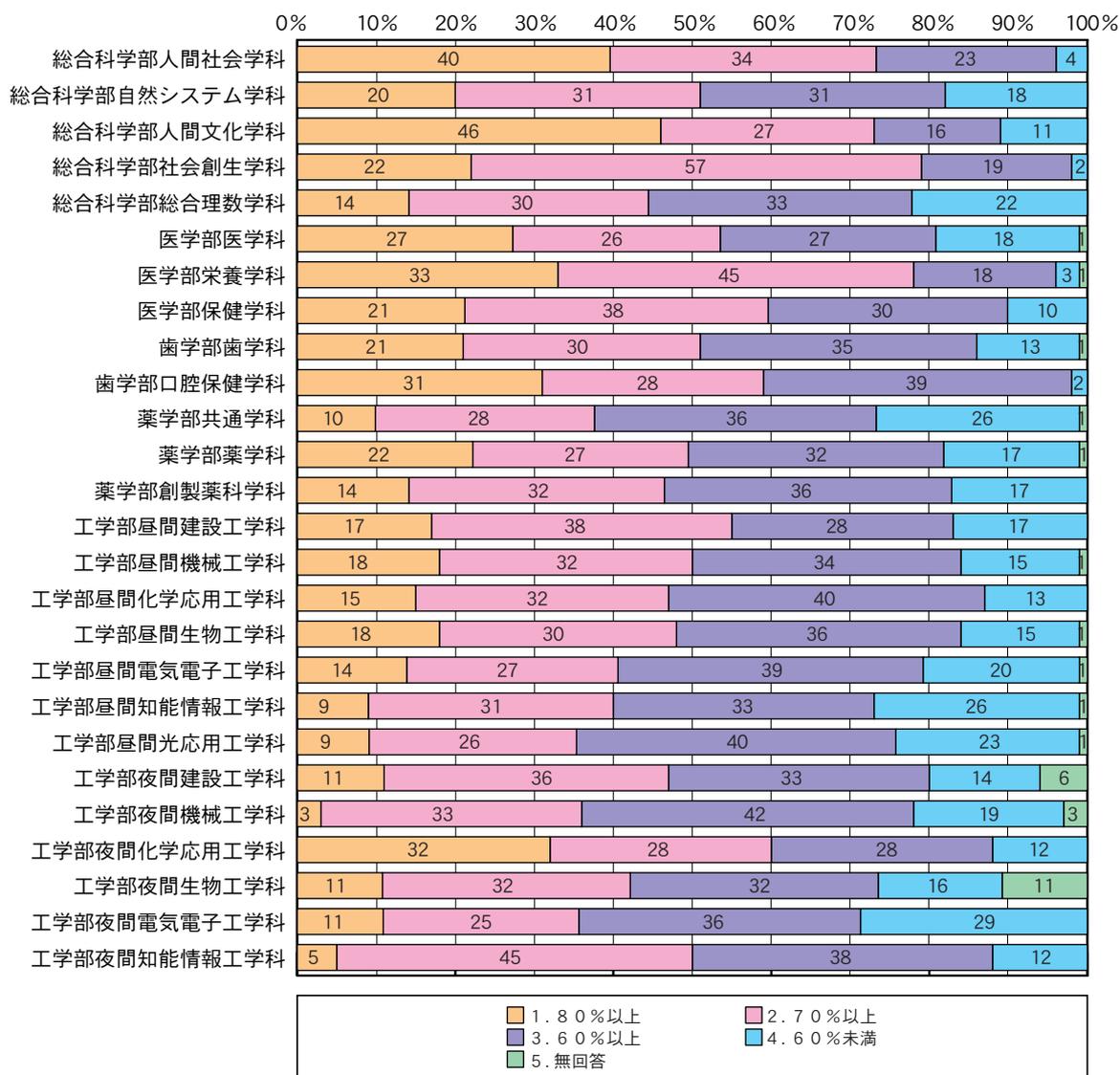


- | | | |
|-----------------|----------------------|-------------|
| 1. 朝寝坊 | 2. サークル・クラブ活動 | 3. アルバイト |
| 4. 遊ぶ | 5. 他科目のレポート作成 | 6. 他科目の試験勉強 |
| 7. 教員が出席をとらないから | 8. 出席しても遅刻すると欠席になるから | |
| 9. 授業が理解できないから | 10. 授業が面白くないから | 11. 無回答 |

3-8 授業内容を理解できる授業科目の割合

授業科目を理解できる科目は60% - 80%と答えた学生が多い。60%未満しか理解できる科目がないと答えた学生は、人間社会学科、社会創生学科、栄養学科、保健学科、口腔保健学科で10%以下であった。薬学部、工学部においては、80%以上の理解が少なく、60%未満の理解が多い傾向が認められた。学生の理解度を向上させるためには、宿題を課すなど自主学習を促すための方策と授業改善が必要と思われる。

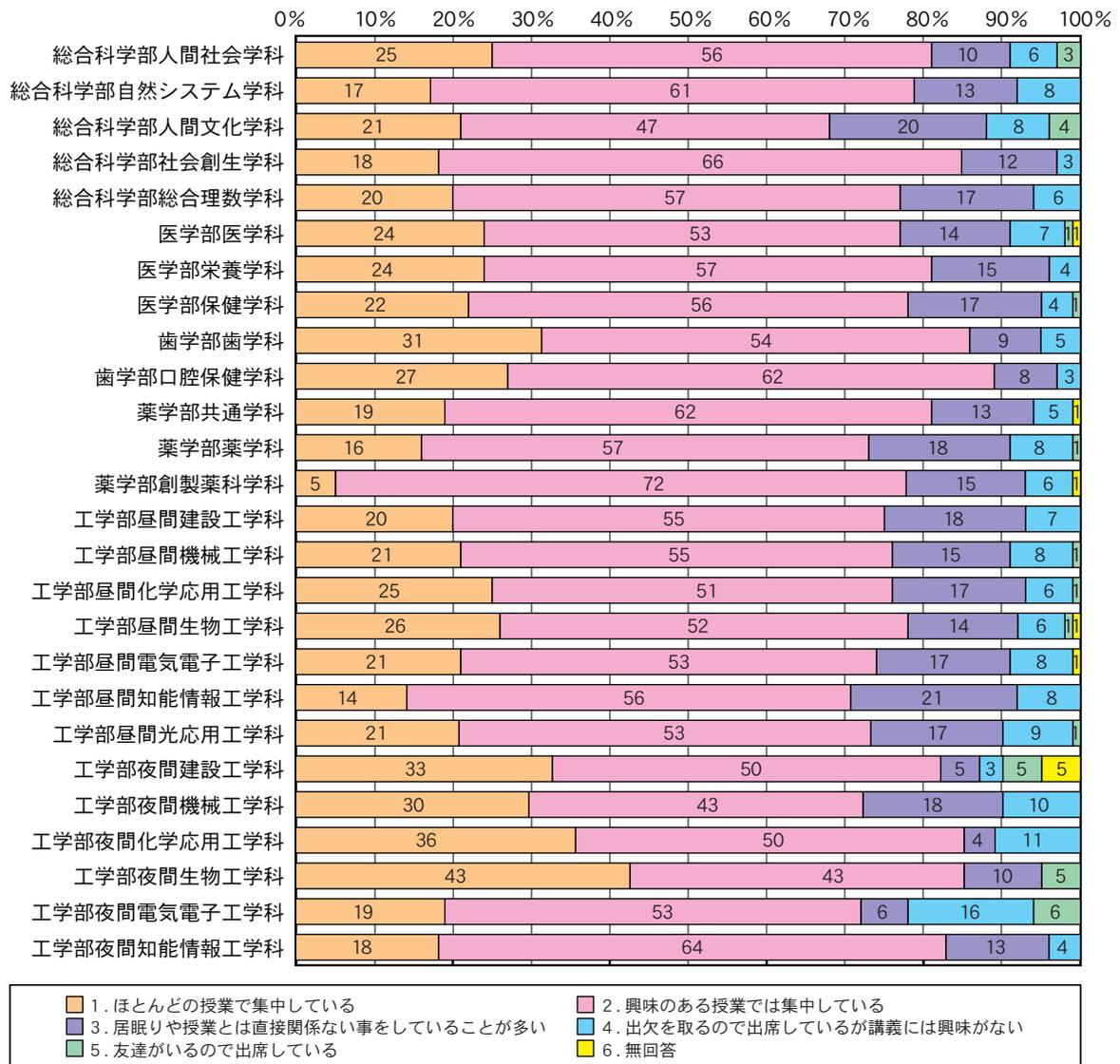
問 18 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。



3-9 授業に臨む態度について

68% - 89%の学生が、ほとんどの授業あるいは興味のある授業では集中していると答えている。一方、4%から20%の学生が、居眠りや授業とは関係ないこと（いわゆる内職など）をしていることが多いと答えている。教員から学生への一方通行の授業ではなく、双方向性授業などで、常に学生を引きつけるための方策が必要と思われる。

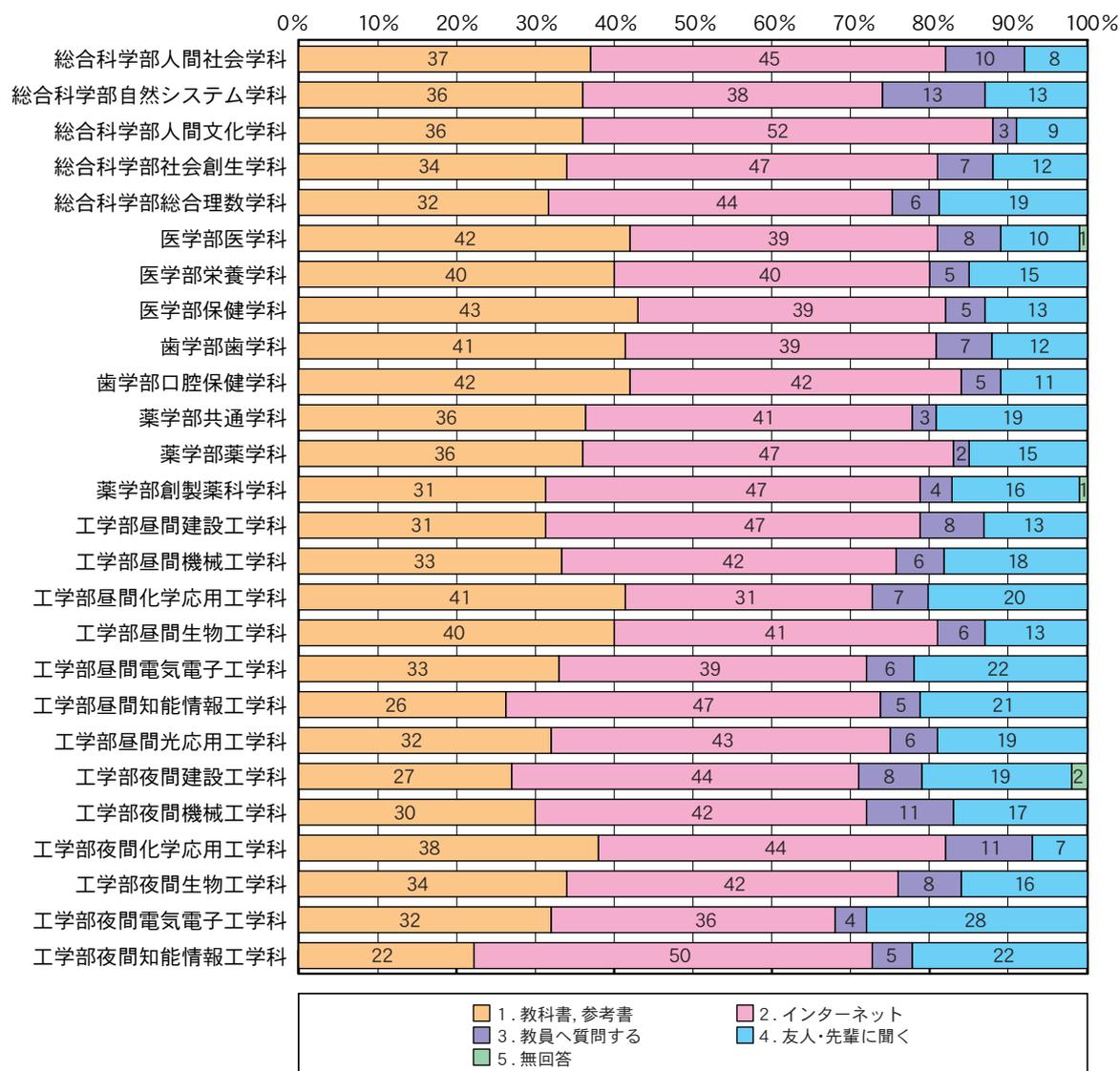
問 19 授業にはどのような態度で臨んでいますか。（複数回答可）



3-10 レポートや宿題をする際の情報源

全ての学部学科において、調べものをする時、2. インターネットを利用すると答えた学生が31%から52%を占める。安易にインターネットに頼ることのないようにとの指示、単なるコピーペーストで済まないことやインターネットの情報は正確性に欠ける部分があることを教える必要がある。教員に質問すると答えた学生は、2% - 11%と非常に少ない。

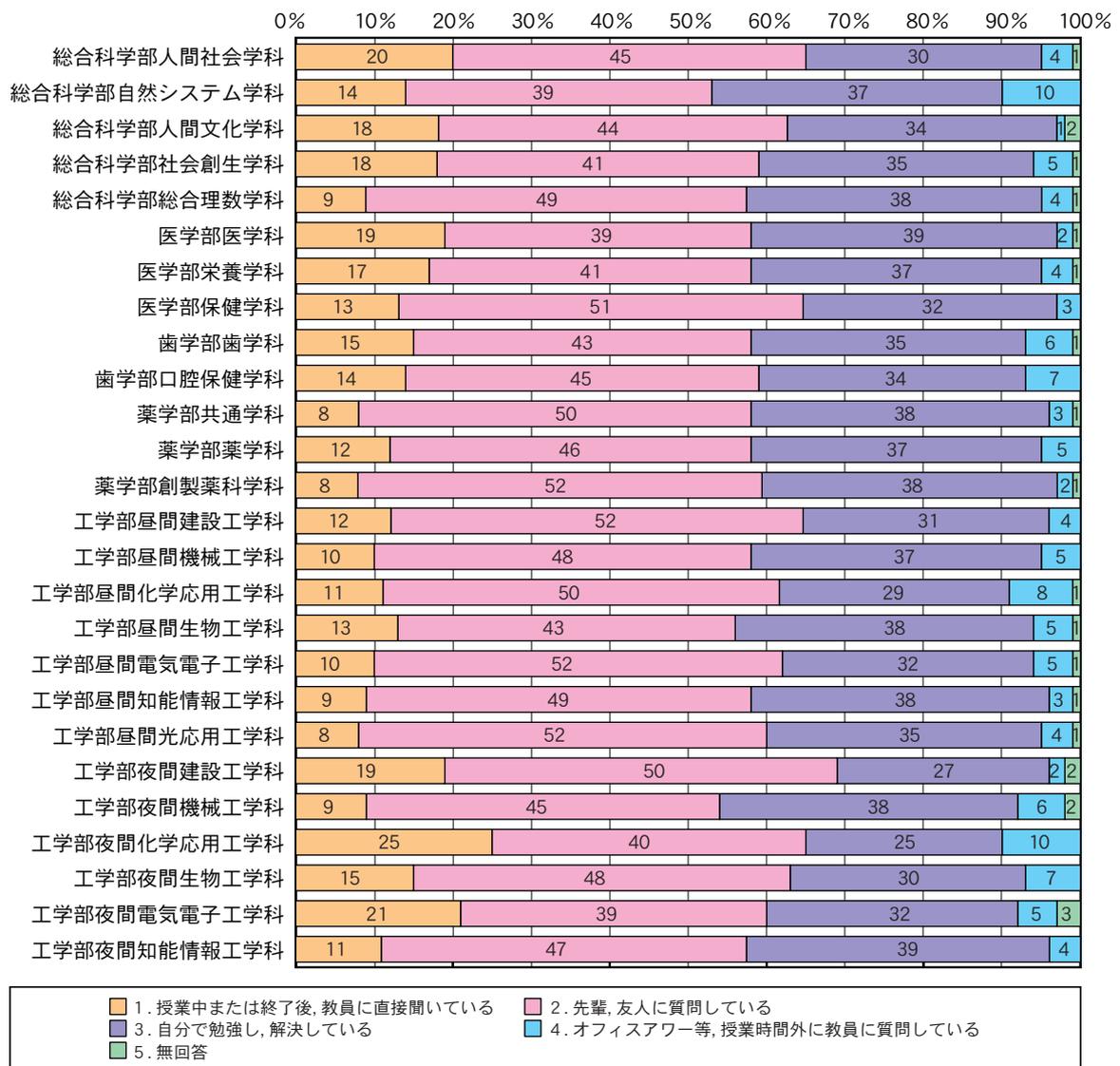
問20 レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



3-11 授業で分からないところの対処方法

問20と同じく、2.先輩・友人に聞く、または3.自分で学習すると答えた学生がほとんどであるが、先輩・友人に聞く学生が最も多い。教員の予想以上に、学生は不明な点は自分で解決しようとしているが、教員に質問した場合に比して、正確な情報が得られているかについては不明である。

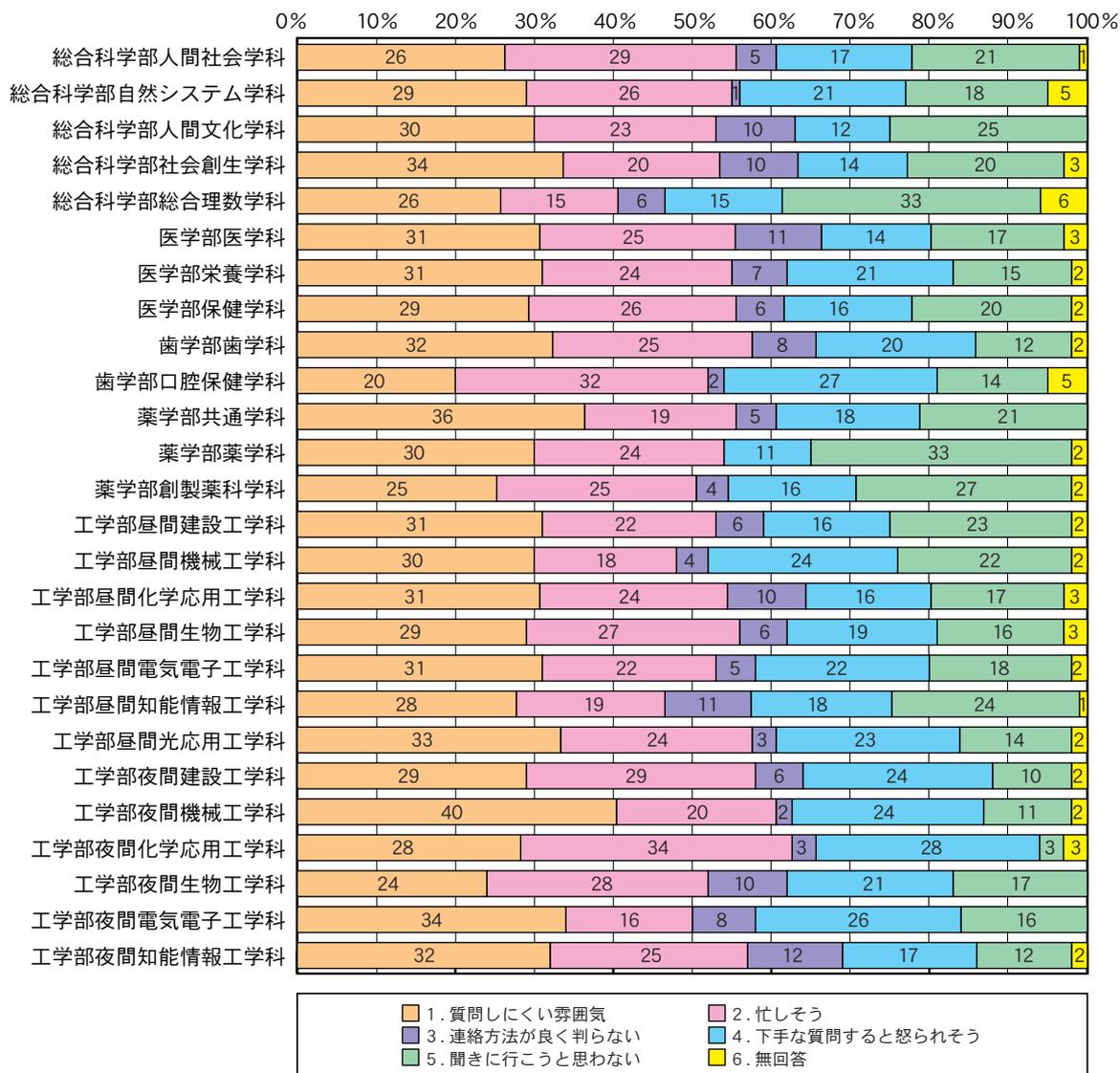
問21 授業でわかりにくかったところは、どうしていますか。(複数回答可)



3-12 教員に質問に行かない理由

5. 教員に聞きに行こうと思わないと答えた学生が3% - 33%を占めるが、1. 質問しにくい雰囲気、2. 教員が忙しそう、4. 下手な質問をすると怒られそうと答えた学生も多く、教員の努力で質問はもっと多くなる可能性がある。

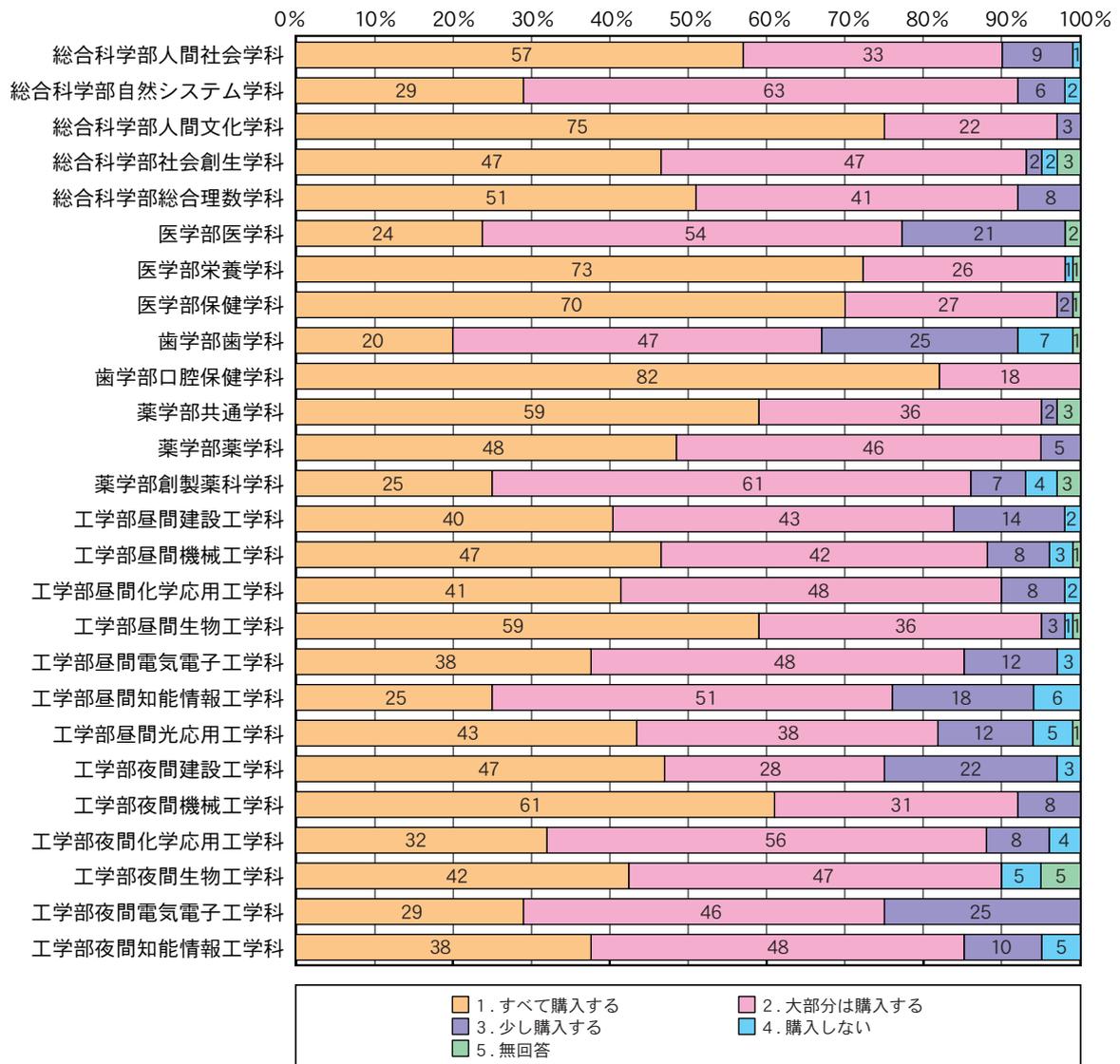
問 22 授業時間外に教員へ質問に行かない理由は何ですか。(複数回答可)



3-13 教科書の購入状況

1. すべてまたは大部分購入すると答えた学生が大部分であるが、3. 少し、または4. 購入しないと答えた学生が、3% - 32%存在する。栄養学科と口腔保健学科は0%であるが、歯学科は32%の学生がほとんどの教科書を持っていない。また、全て購入する学生の比率は、口腔保健学科、人間文化学科、栄養学科、保健学科で高い。

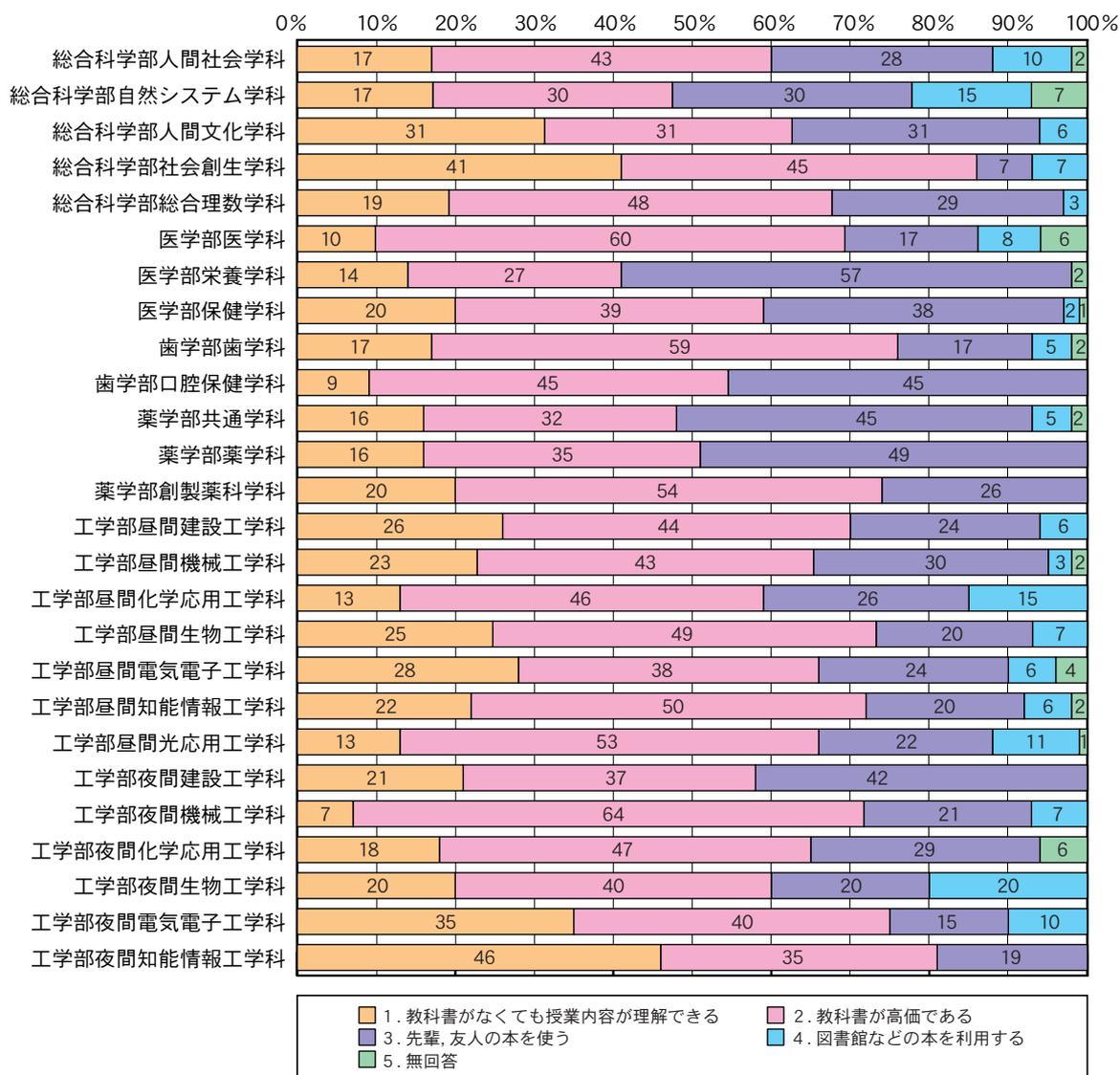
問 23 指定された教科書は購入していますか。



3-14 教科書を購入しない理由

教科書を購入しない理由として最も多いのは、2. 教科書が高価であることが27%～64%、次に多いのは3. 先輩・友人の本を使うが7%～57%であった。7%～46%の学生は、1. 教科書がなくても理解できるからと答えている。

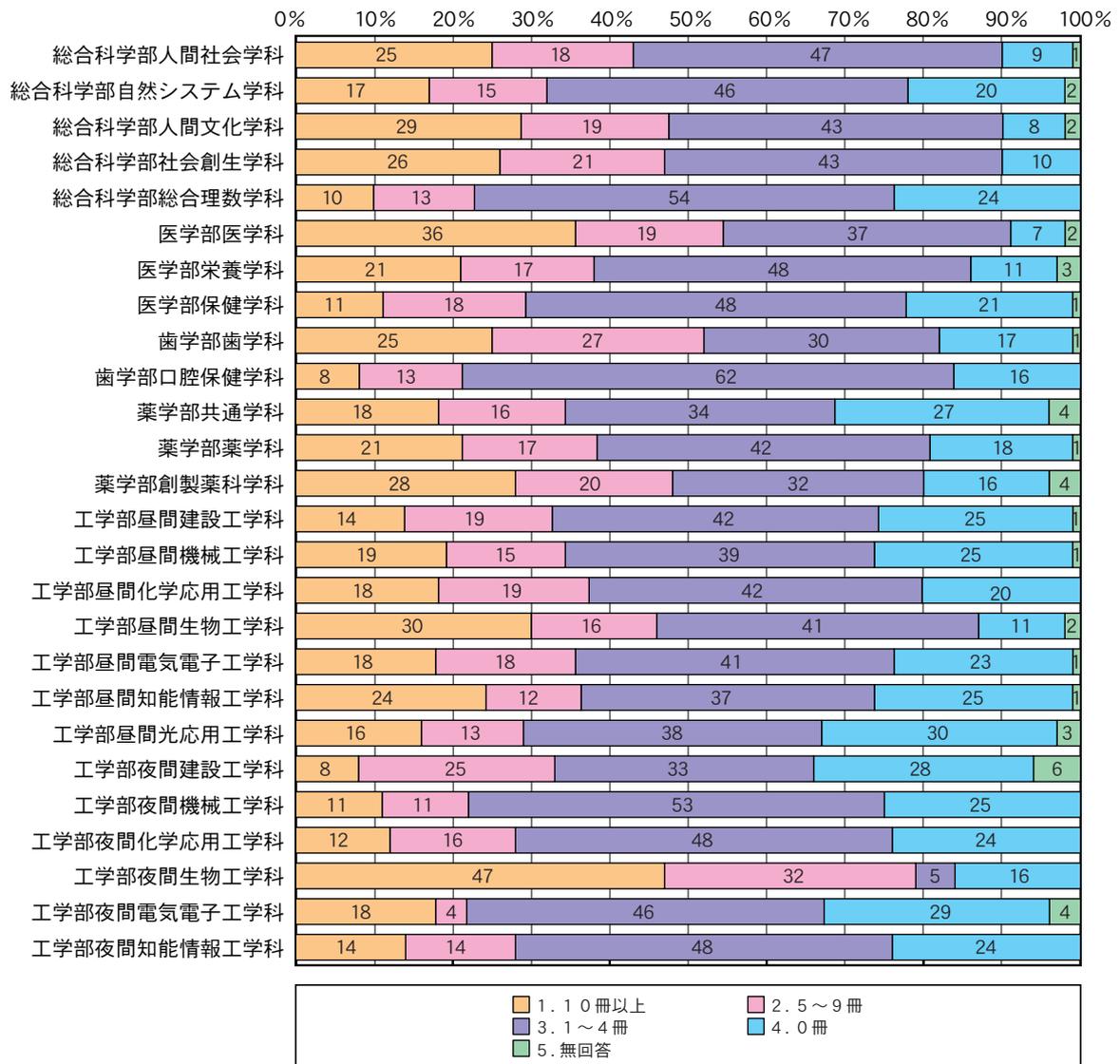
問24 教科書を購入しない場合の理由は何ですか。(問23で「2」～「4」を選んだ方)



3-15 年間単行本（専門外）読書冊数

一般的な読書に関する質問であるが、夜間生物工学科を除いて学部学科間であまり差は見られない。7% - 30%の学生は1年間に全く読書していない。10冊以上読んでいる学生は約20%で、夜間生物工学科、医学科、昼間生物工学科で多い。人間力育成のためには、読書が必要であることを常に指導する必要がある。

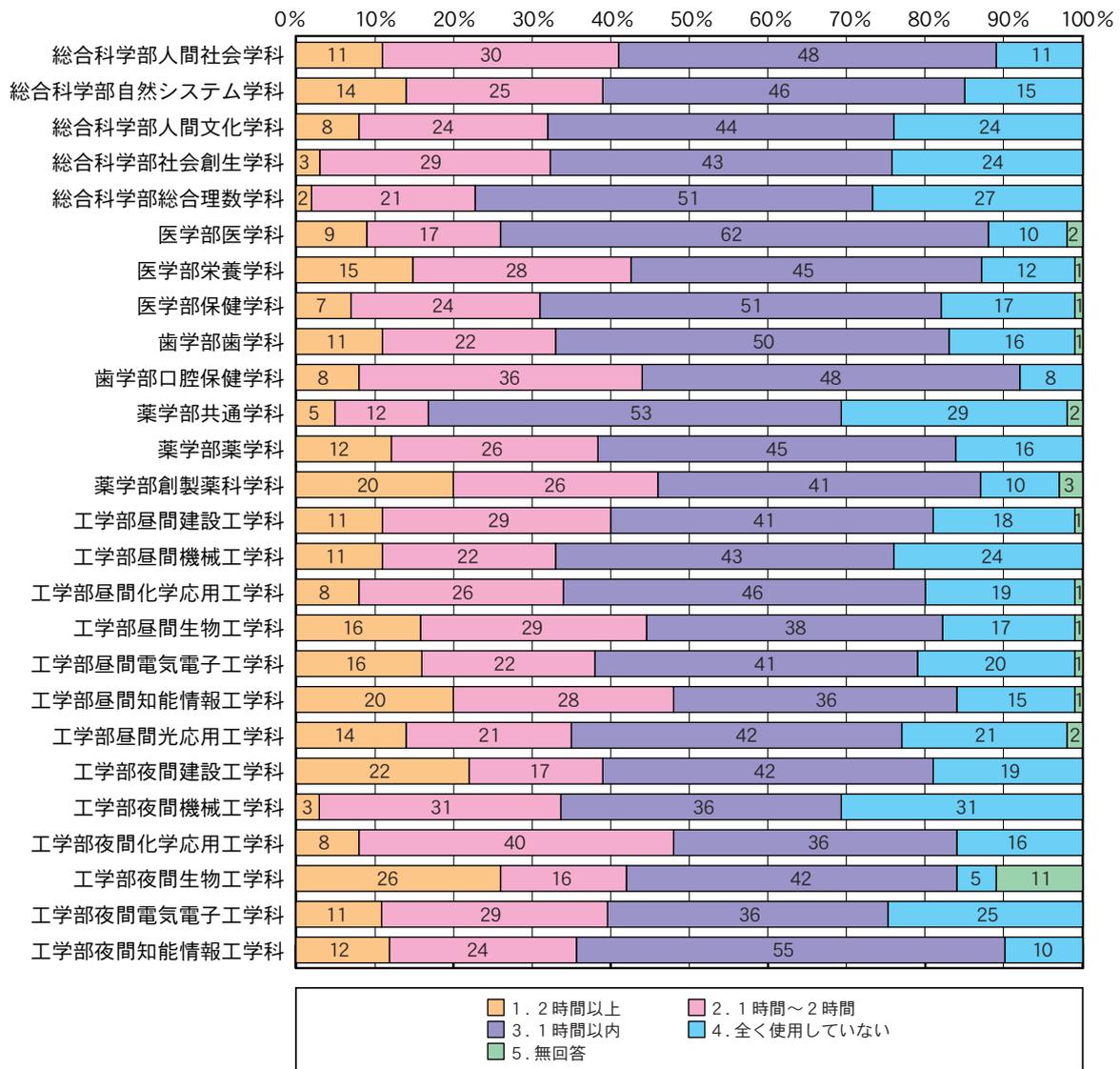
問 25 平均して1年間に何冊程度の単行本（専門外）を読んでいますか。



3-16 1日のインターネット利用時間

学習のためのインターネット使用時間は、1時間以内と答えた学生が最も多く36% - 55%を占める。

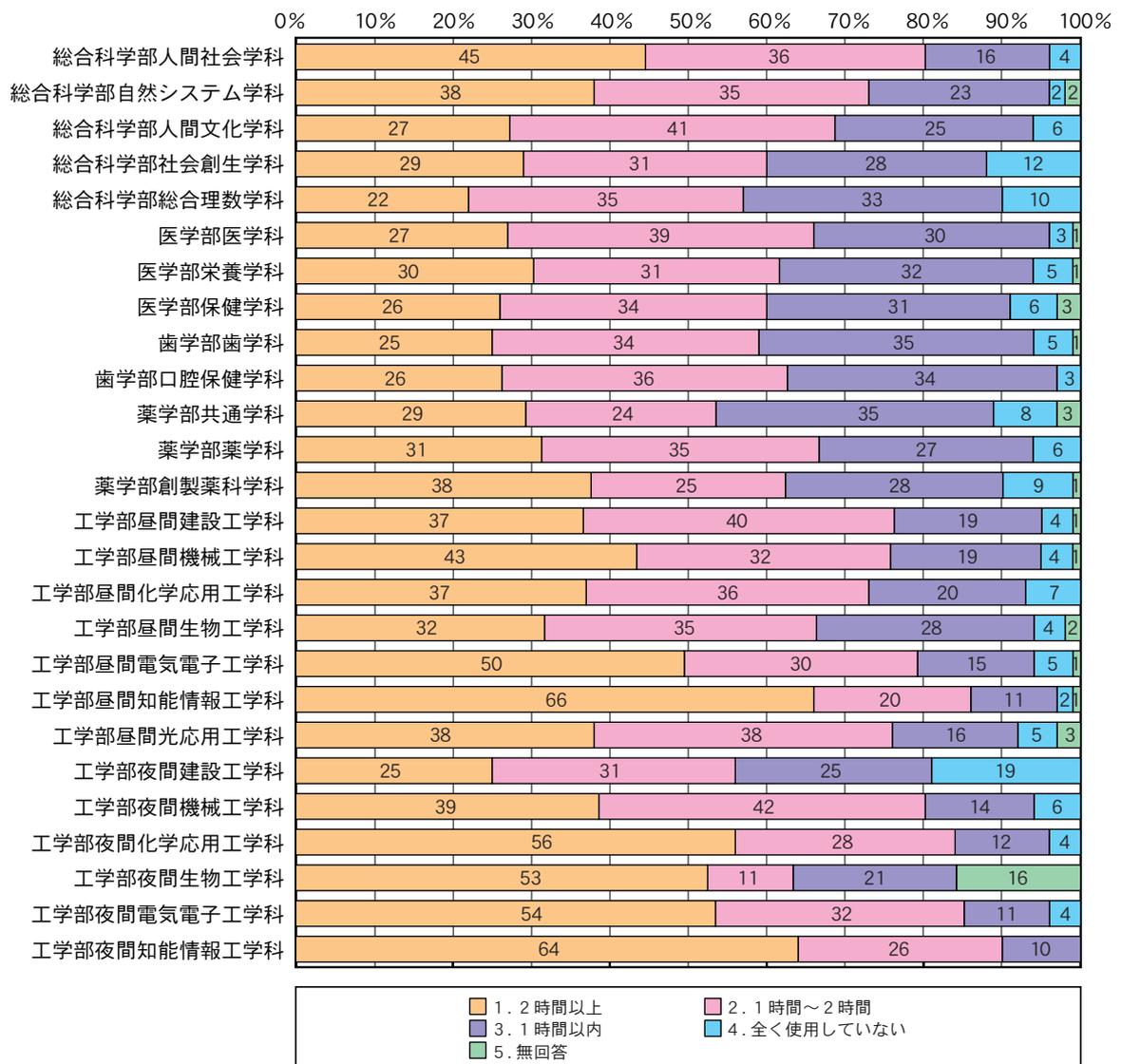
問 26 学習のためにインターネットを1日何時間くらい使用していますか。



3-17 学習以外での1日のインターネット利用時間

学習以外の目的のインターネット使用時間は、1時間～2時間が最も多いが、総合科学部、工学部では22%～66%の学生が1日2時間以上使用しており、学習時間が少ない原因のひとつと考えられる。

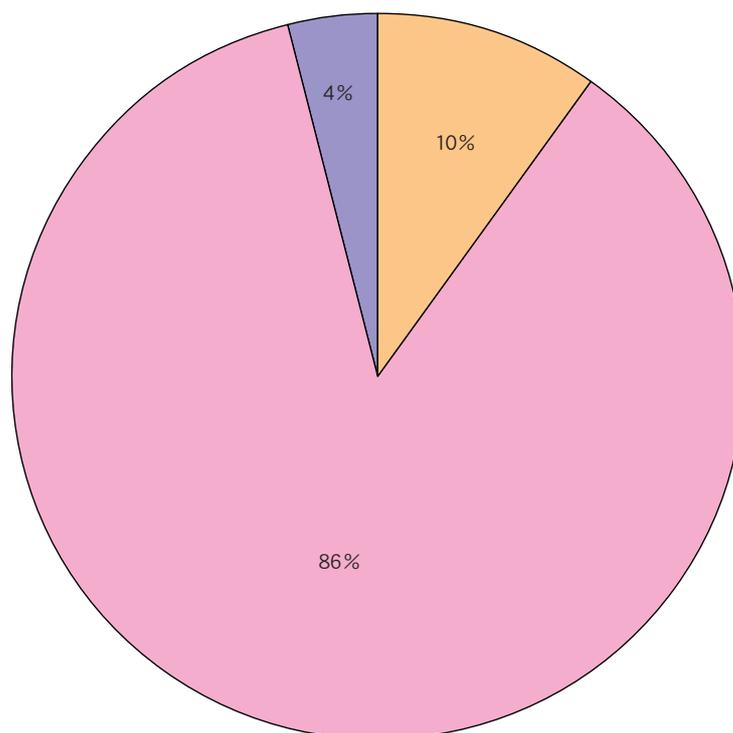
問27 学習以外の目的でインターネットは1日何時間くらい使用していますか。



3-18 シラバスの利用状況

ほとんどの学生は毎週確認していないという結果であった。1回目の授業時では目を通してはいると考えられるが、毎時間の講義においては、教員がより丁寧な講義を行う程、シラバスへの依存度は低くなる。詳細な講義計画と講義毎に使用する教科書のページ数が明記されているシラバスを作成し、教員がシラバスを見て予習することを指示すれば、その利用率は高くなるはずである。

問 28 シラバスは毎週確認し、授業の予習・復習に役立てていますか。

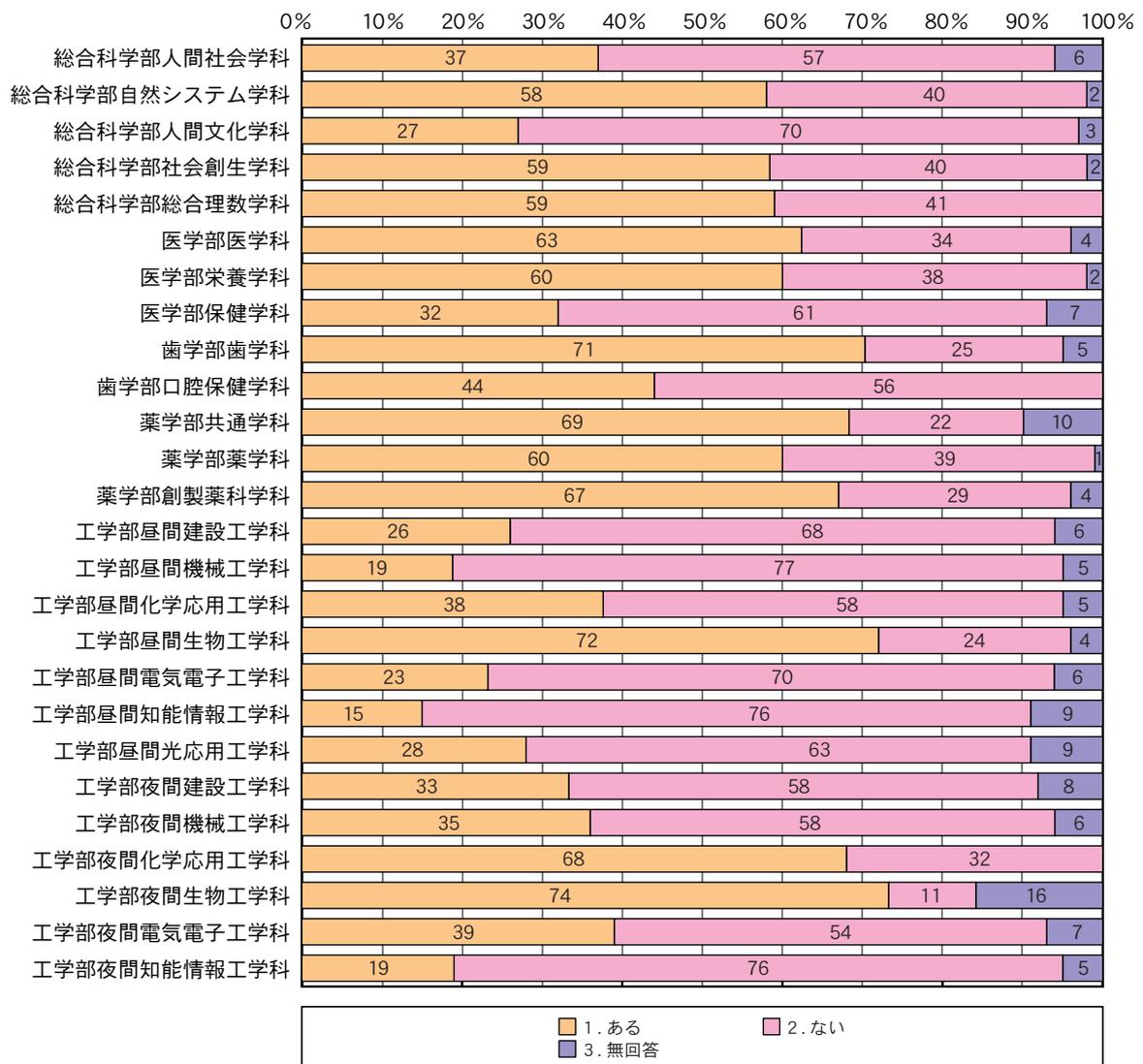


1. はい 2. いいえ 3. 無回答

3-19 高校で未履修科目があるため、大学で理解困難な科目の有無

学部学科間で大きな差が見られた。困難さがなかったと答えた学生は、昼間機械工学科、昼間知能情報学科、夜間知能情報学科、昼間電気電子工学科、人間文化学科において、70%－77%を占めた。一方、夜間生物工学科、昼間生物工学科、歯学科、夜間化学応用工学科、創製薬科学科では、約70%の学生が困難な科目があったと答えている。

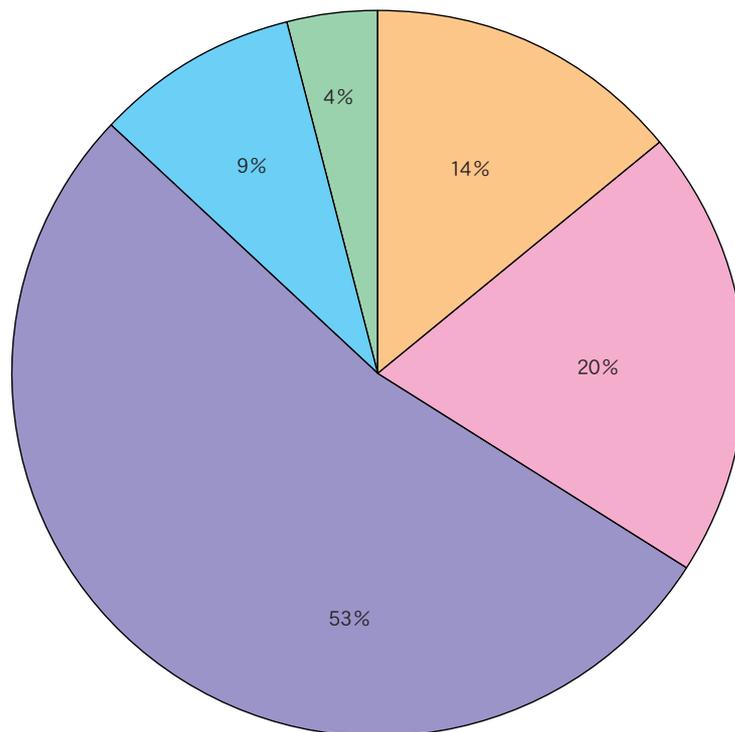
問 29 高校で履修しなかった科目（物理、化学、生物）のために、
大学で理解するのが困難であった科目はありますか。



3-20 高校での未履修科目について、大学入学後の学習方法

問29で理解することが困難な科目があったと答えた学生が多い学部学科においては、半分以上の学生が自学自習している。14%の学生は、高校の教科書、参考書を使い、20%の学生は自然科学入門の講義などで学習している。

問30 高校で履修していない物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。

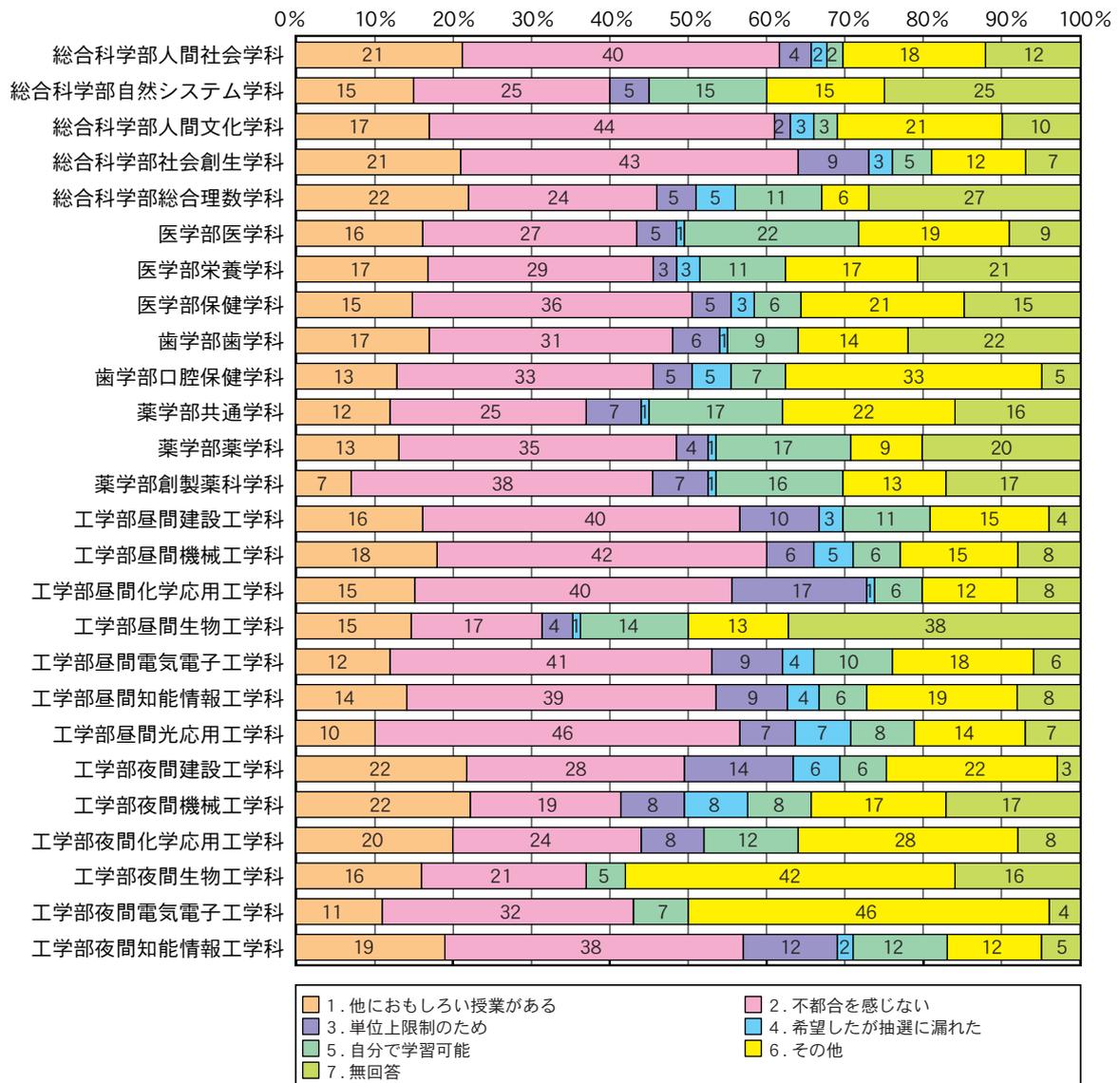


- 1. 自分で高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2. 全学共通教育で開講されている自然科学入門やその他の科目で勉強した
- 3. 何もしていない
- 4. その他
- 5. 無回答

3-21 高校での未履修科目を大学で履修しない理由

高校で履修していない科目を大学で学習しない理由では、不都合を感じないという答えが最も多い。自分で学習可能であると答えたのが、2% - 22%に認められる。この割合は医学科、薬学部で多い。

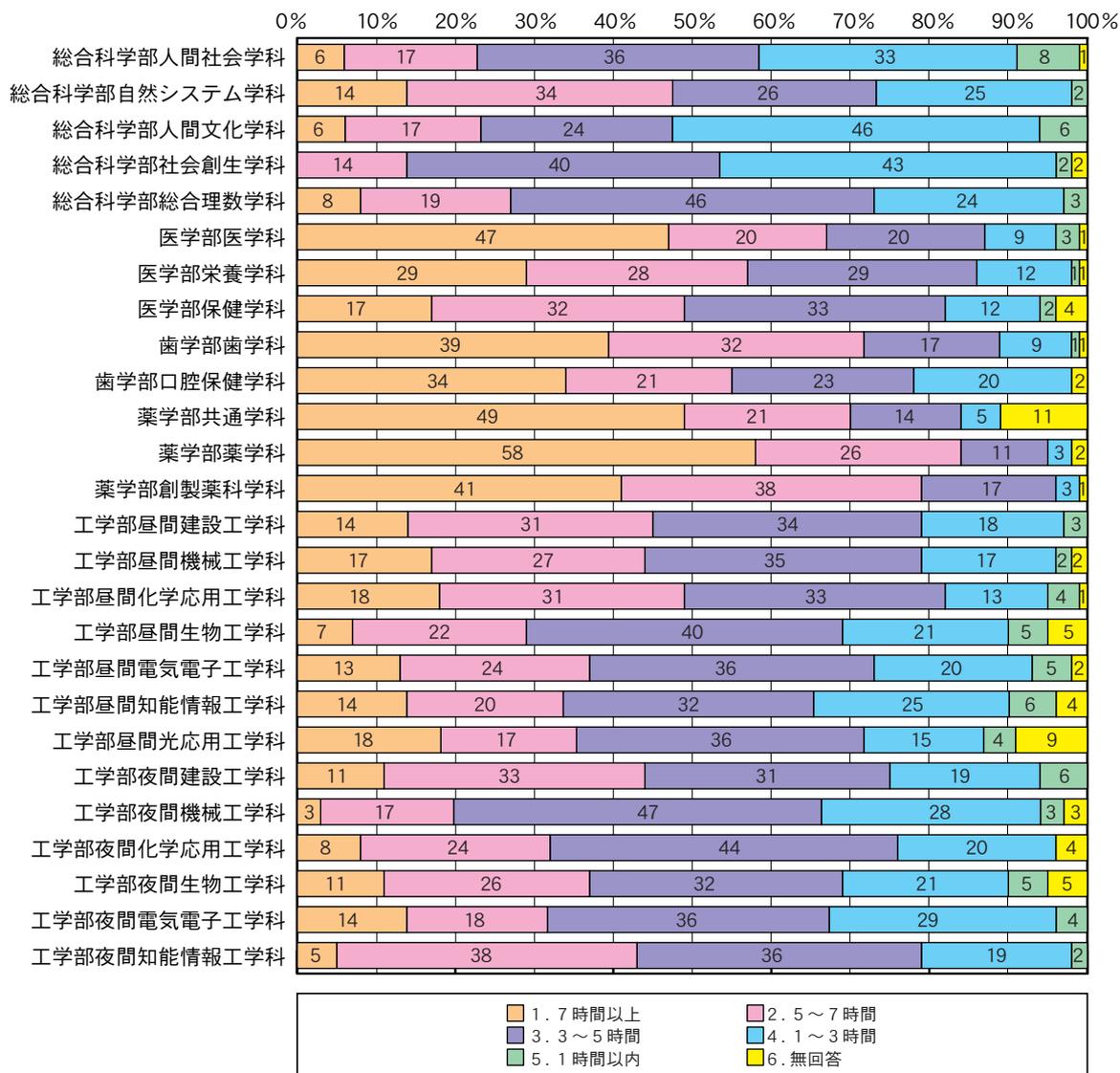
問 31 高校で履修していない科目を自然科学入門で勉強していない場合、その理由は何ですか。



3-22 期末試験における1科目あたりの勉強時間数

蔵本キャンパスの医学部、歯学部、薬学部の学生は、明らかに総合科学部、工学部の学生に比べ、学習時間が長い。総合科学部、工学部は3時間-5時間が多い。

問 32 期末試験の試験勉強において、平均して1科目あたり、どれくらい勉強していますか。

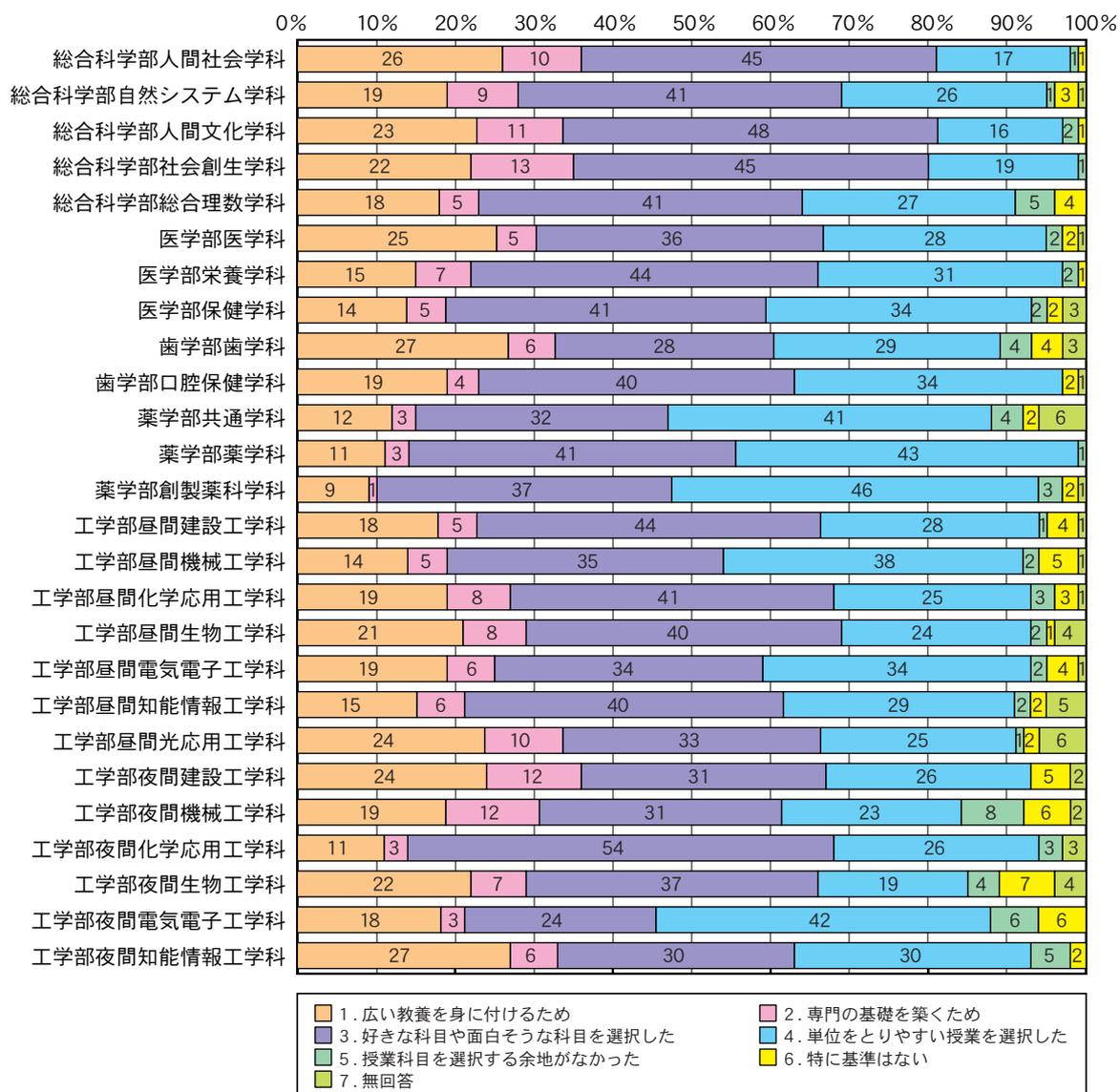


第4章 全学共通教育の授業について

4-1 科目の選択基準

3. 好きな科目・面白い科目と4. 単位を取りやすい科目と答えた学生が最も多いが、学部学科間で割合に差が見られた。総合科学部、医学部、歯学部口腔保健学科、工学部は3. 面白い科目が4. 単位を取りやすい科目を上回っている。歯学部歯学科、薬学部では単位を取りやすい科目を選んだ学生が多い。

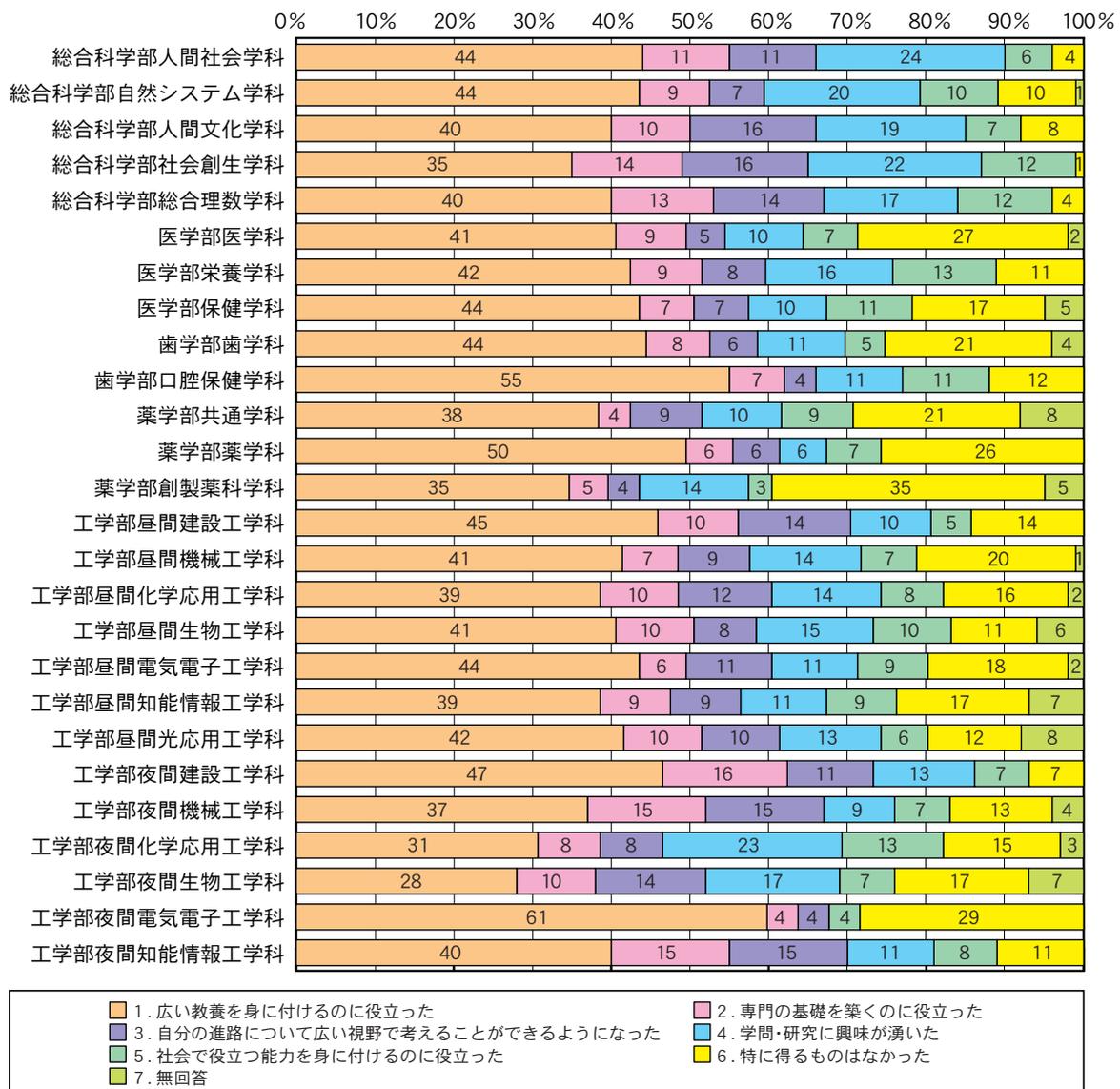
問33 全学共通教育科目の選択はどのような基準で行いましたか。(複数回答可)



4-2 授業を受けて学び得たこと

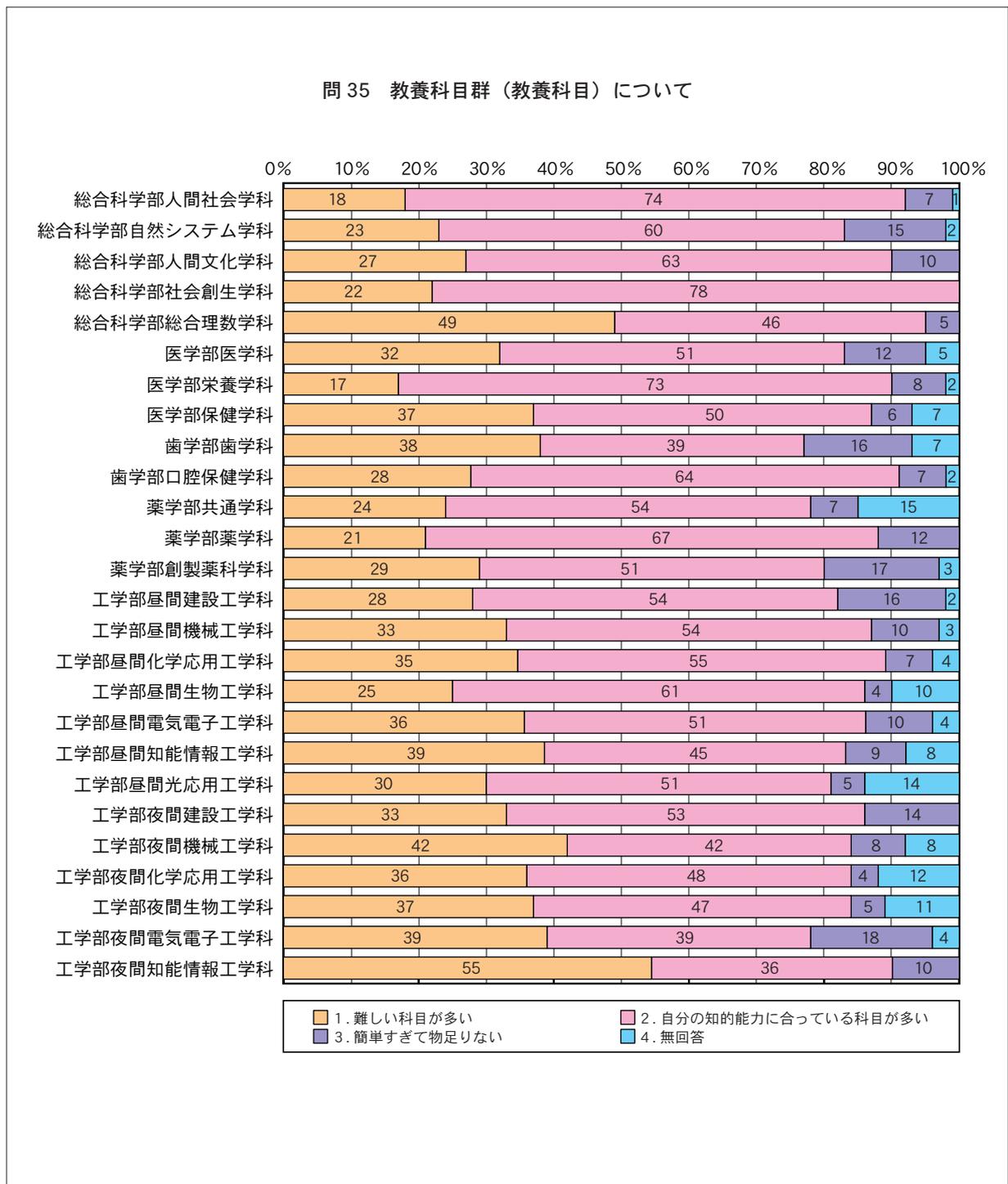
全体的には、1. 広い教養を身につけるのに役立ったと答えた学生が31% - 61%と多かったが、薬学部、医学科、歯学科では、6. 特に得るものがなかったと答えた学生の比率が21% - 35%と高い。人間力育成をめざした教育の工夫が必要である。

問 34 全学共通教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。(複数回答可)



4-3 教養科目群（教養科目）について

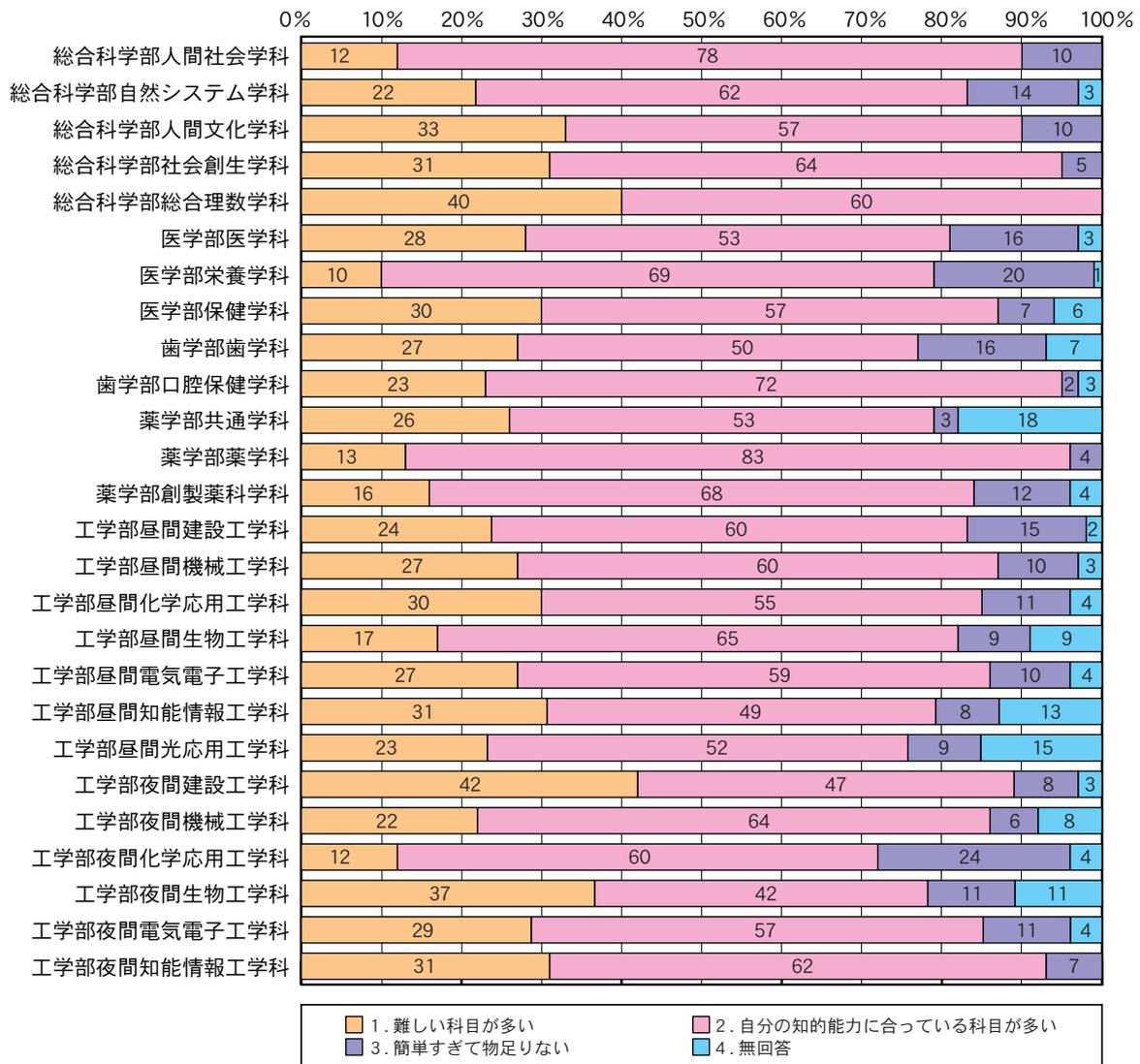
教養科目群（教養科目）については、2. 自分の知的能力に合っている科目が多いと答えた学生が最も多く36%－78%を占める。17%－55%の学生は、1. 難しい科目が多いと答えていることを留意すべきである。



4-4 基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）について

基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）は、教養科目群に較べると、難しい科目が多いと答えた学生の比率は少なく、学部学科間での差異もみられない。

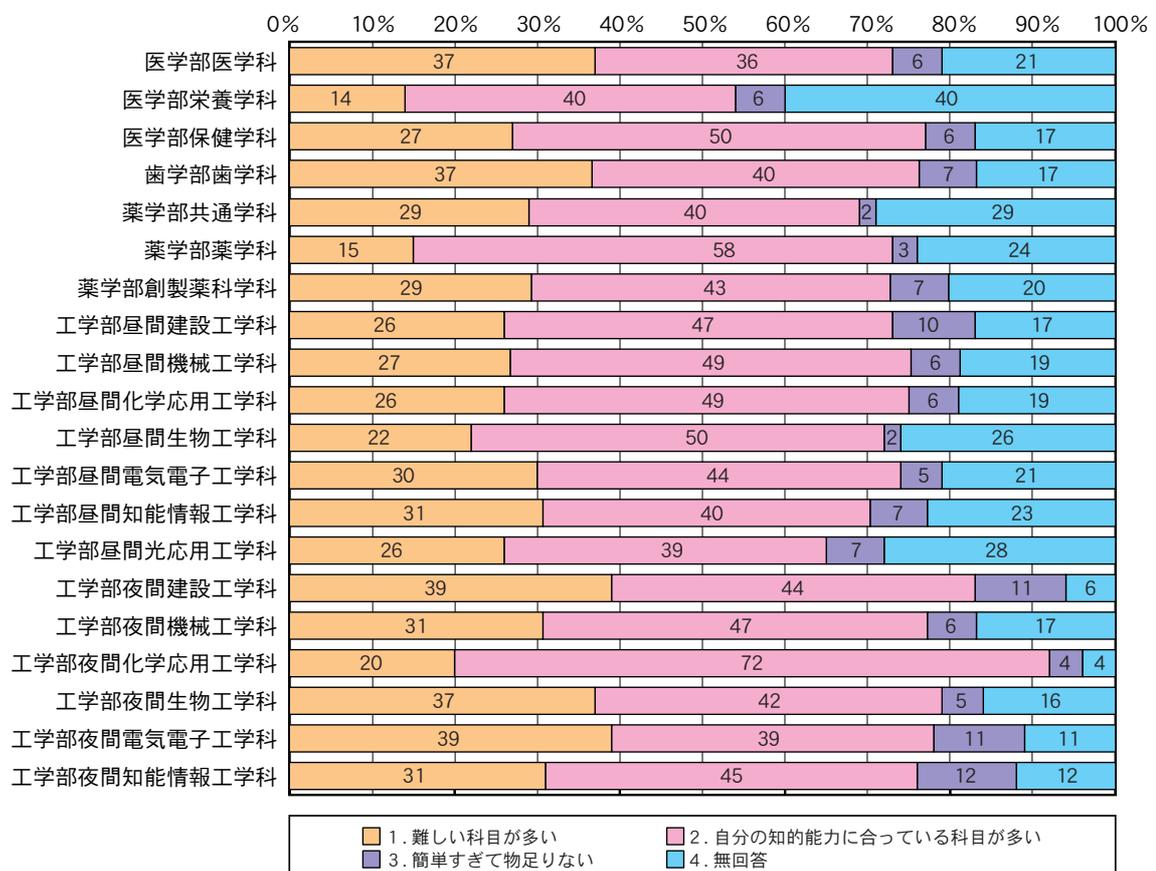
問 36 基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）について



4-5 基礎科目群（基礎教育科目）について

基礎科目群（基礎教育科目）において、難しい科目が多いと答えた学生の比率が高いのは、夜間建設工学科 39%、夜間電気電子工学科 39%、医学科 37%、歯学科 37%、夜間生物工学科 37%であった。

問 37 基礎科目群（基礎教育科目）について（履修している方のみお答えください。）

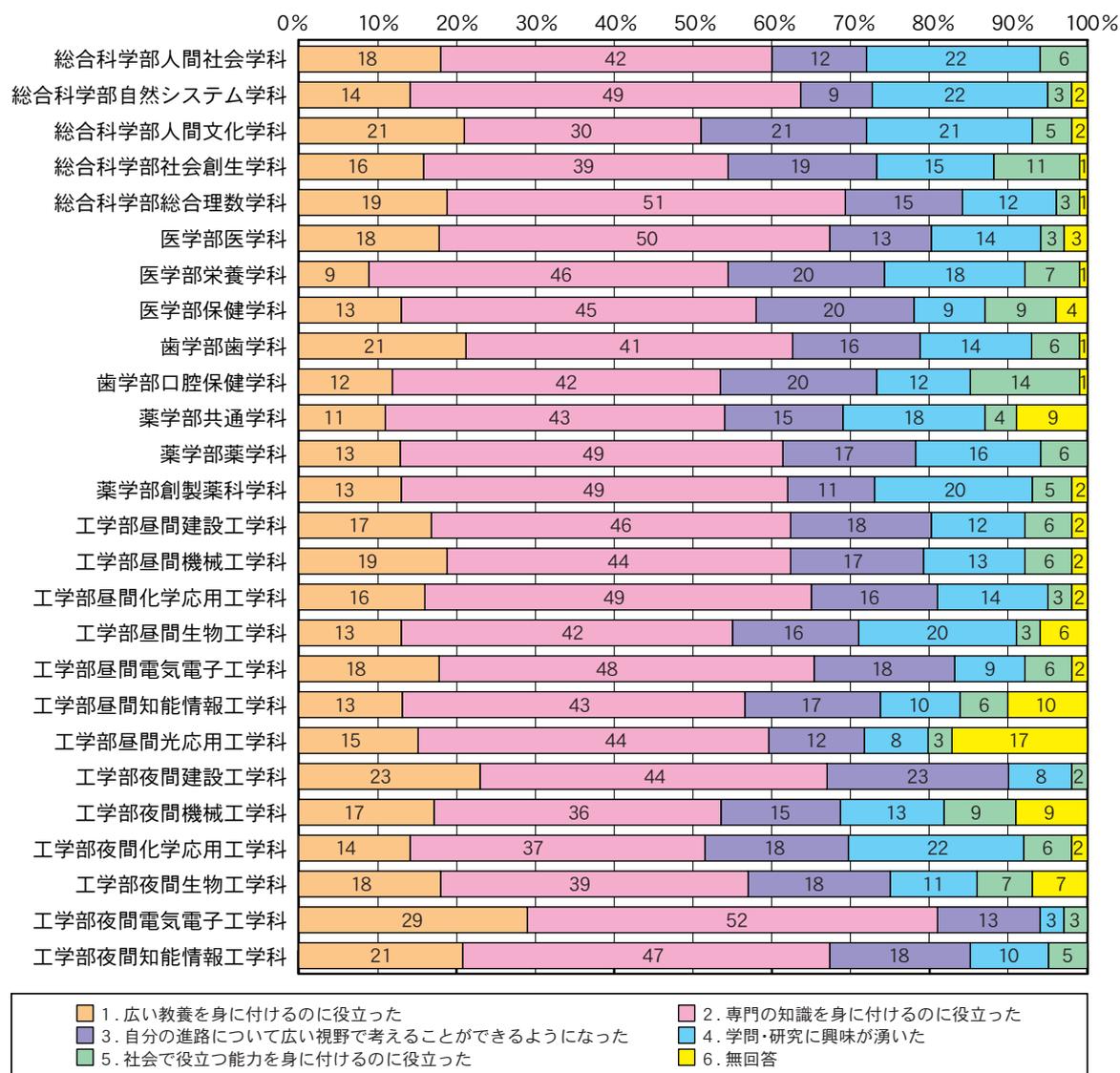


第5章 専門教育の授業について

5-1 授業を受けて学び得たこと

2. 専門知識を身につけるのに役立ったと答えた学生が最も多く 30% - 52% を占めるが、総合科学部では 4. 学問・研究に興味を湧いたと答えた学生が 12% - 22% と比較的多い。

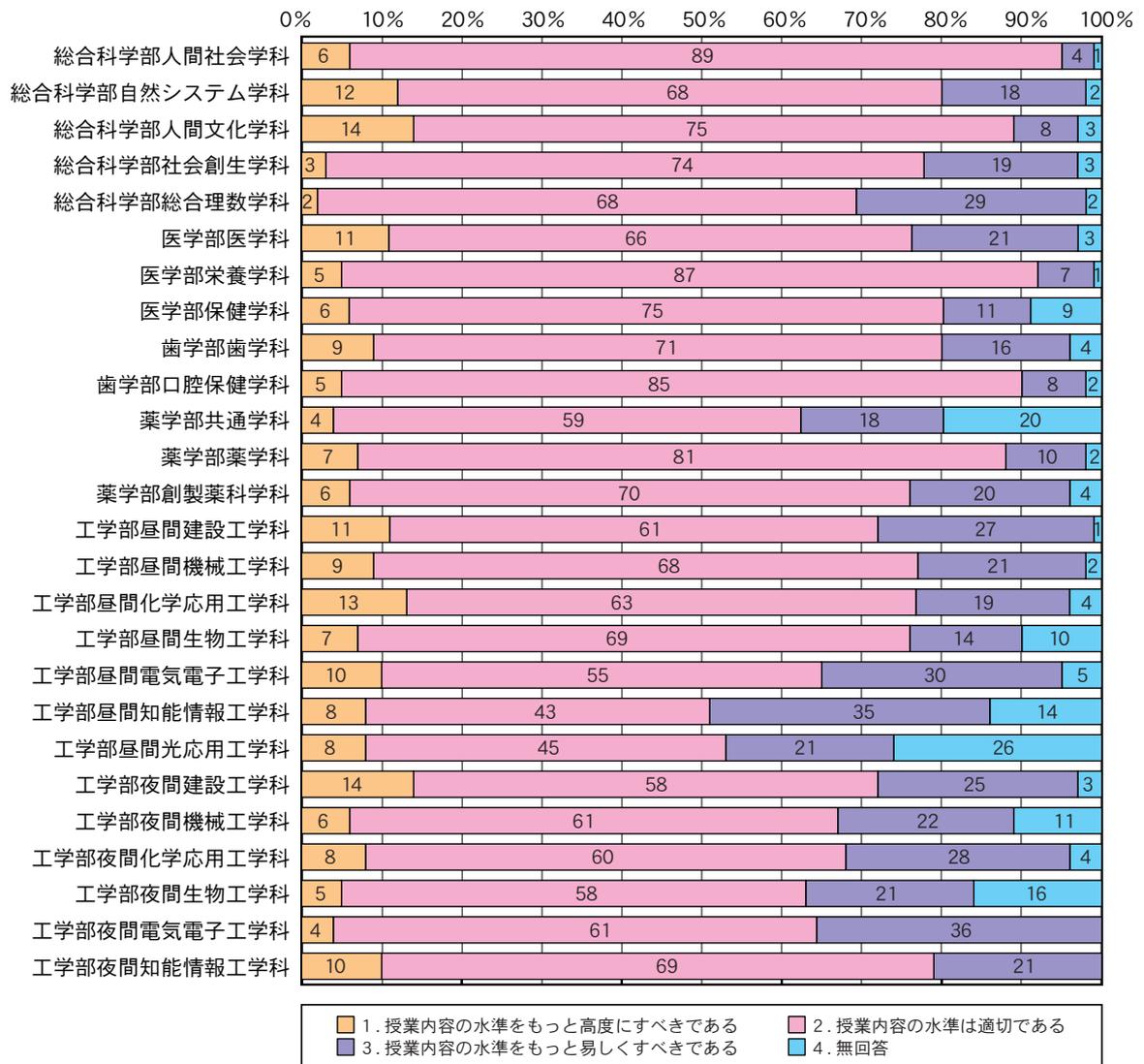
問 38 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと感じますか。(複数回答可)



5-2 授業内容の難易度

2. 授業内容の難易度は適切であると答えた学生は43%－89%と多いが、昼間知能情報工学科、夜間電気電子工学科では、3. もっと易くすべきであると答えた学生の比率が30%以上に見られることより、授業改善、予習復習の徹底が必要であろう。

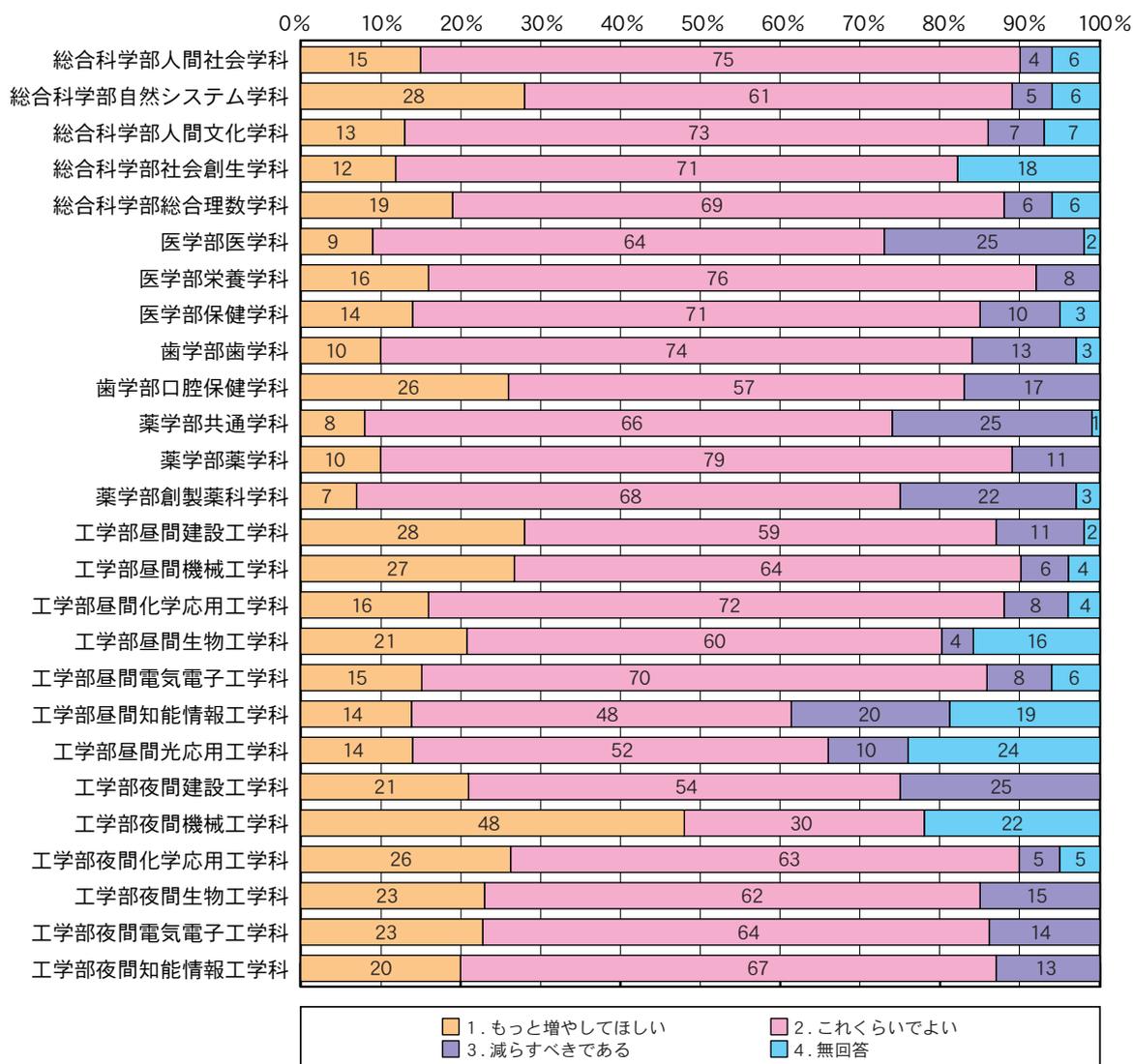
問39 授業内容の難易度についてどう思いますか。



5-3 実習時間数に対する希望

全学部において、実習時間数について満足している学生は48% - 76%と多い。総合科学部、栄養学科、保健学科、口腔保健学科においては、1. もっと増やして欲しいと考えている学生が、3. 減らすべきと答えた学生より多い。医学科、薬学部では、1. 増やすよりも、2. もっと減らして欲しいと答えた学生が多い。

問 40 実習時間数についてどう思いますか。(2年生以上)

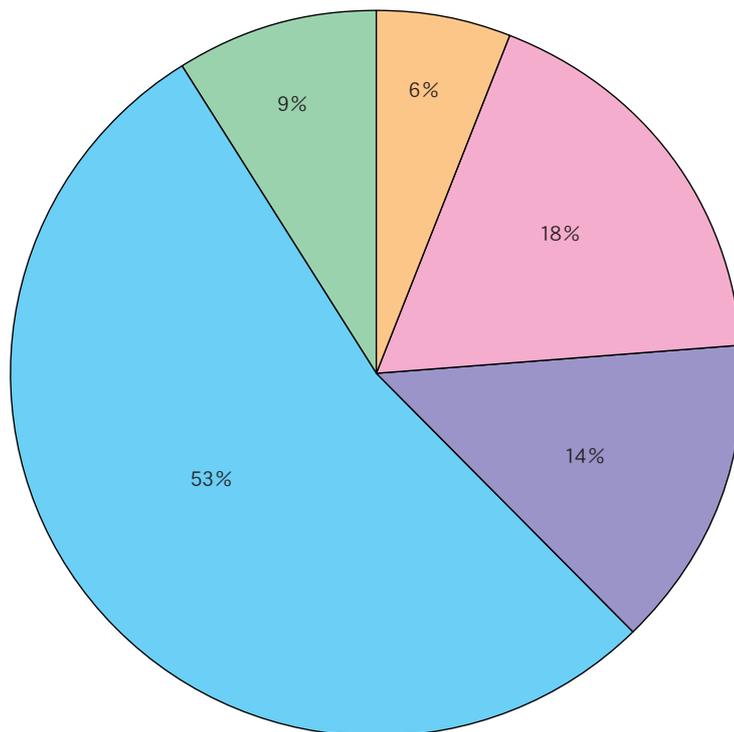


第6章 免許・資格について

6-1 教員免許取得に興味のあるもの

全ての学部で回答が得られたが、教員免許に興味を示す学生が多いのは総合理数学科の50%であった。他には工学部昼間コース4%、栄養学科9%、保健学科看護学専攻5%であった。

問41 教員免許の取得に興味がありますか。



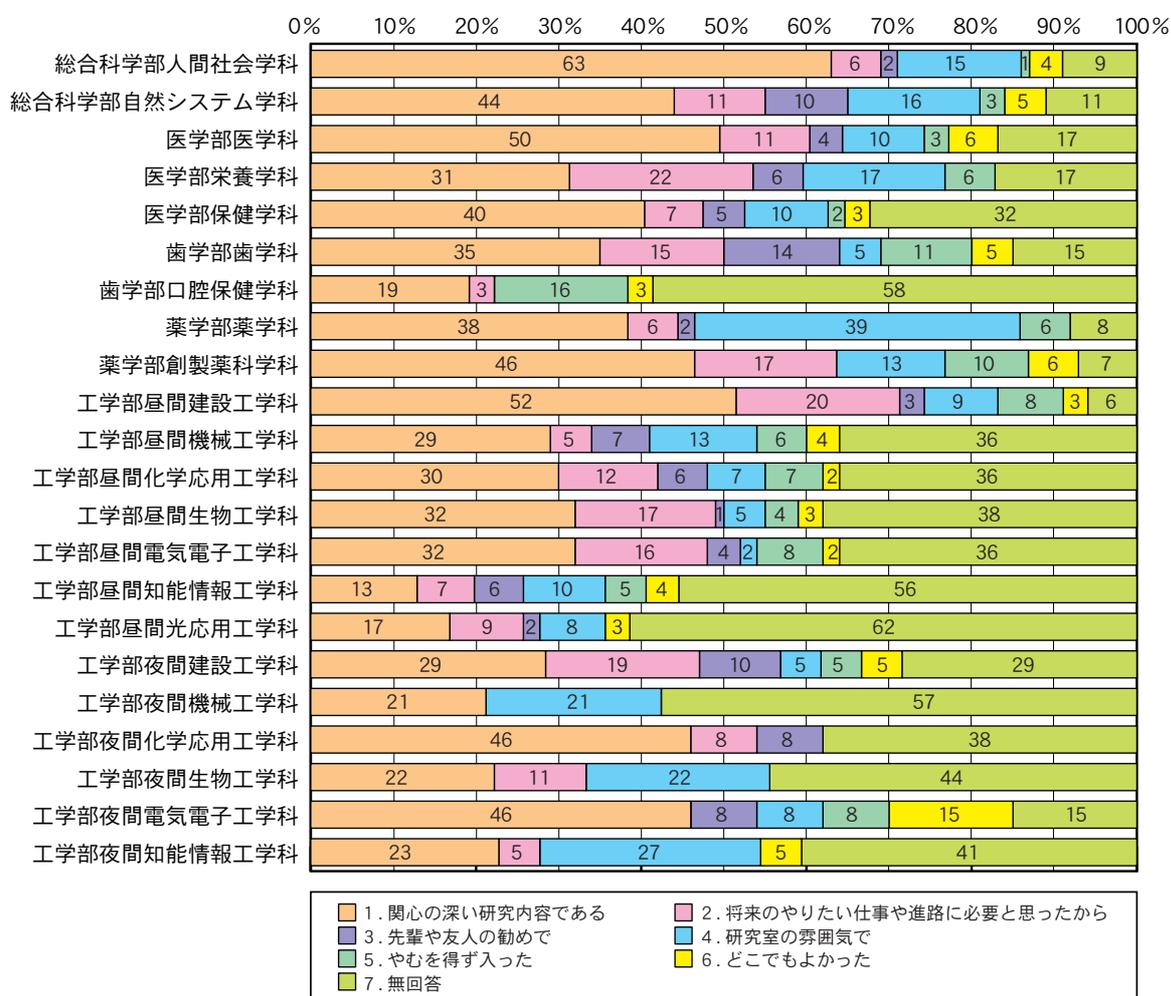
- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 免許を取得し、教員を目指している | 2. 一応免許だけはとっておきたい |
| 3. 取得すべきか否か迷っている | 4. 関心がない |
| 5. 無回答 | |

第7章 卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミについて

7-1 研究室選考の基準

ほとんどの学生は、1. 研究内容や、2. 将来の進路を考えて、研究室を選択している。しかし2% - 15%の学生は、どこでもよかったと答えている。無回答が多いのは、研究室での活動と無関係な1、2年生の回答による。

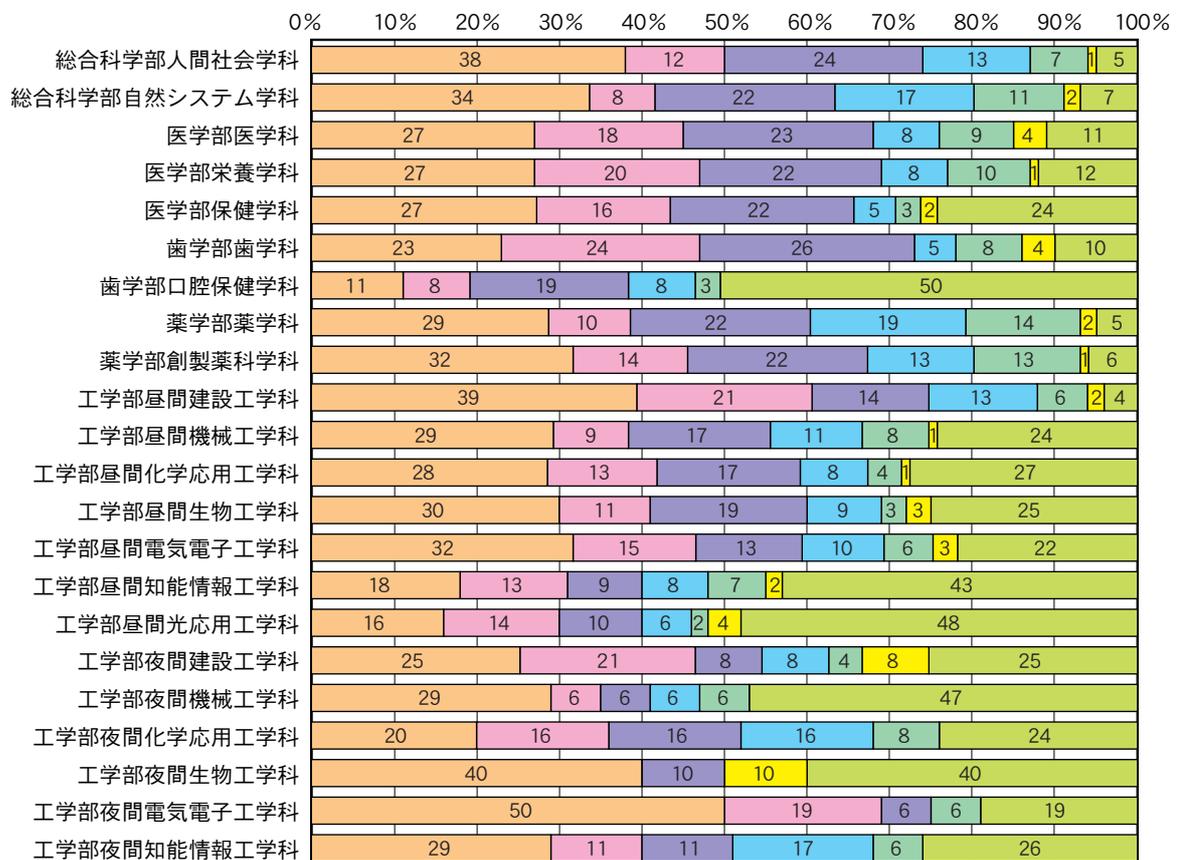
問42 卒業研究または医学科では医学研究実習、歯学科では研究基礎ゼミの研究室をどういう基準で決めましたか。



7-2 卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミで学び得たこと

1. 専門知識を身に付けるのに役立つと答えた学生が最も多かった。次いで、3. 学問・研究に興味を持った、2. 進路についての視野の広がり、4. 社会で役立つ能力の獲得、5. マナー、人格形成に役立つと答えた学生が多く、6. 特に得るものはないと答えた学生は非常に少ない。研究室での学習は、学生の評価が高く、教育効果が高いと考えられる。無回答が多いのは、研究室での活動と無関係な1、2年生の回答による。

問 43 卒業研究、医学研究実習（医学科）、研究基礎ゼミ（歯学科）によって何を学ぶことができると思いますか。（複数回答可）

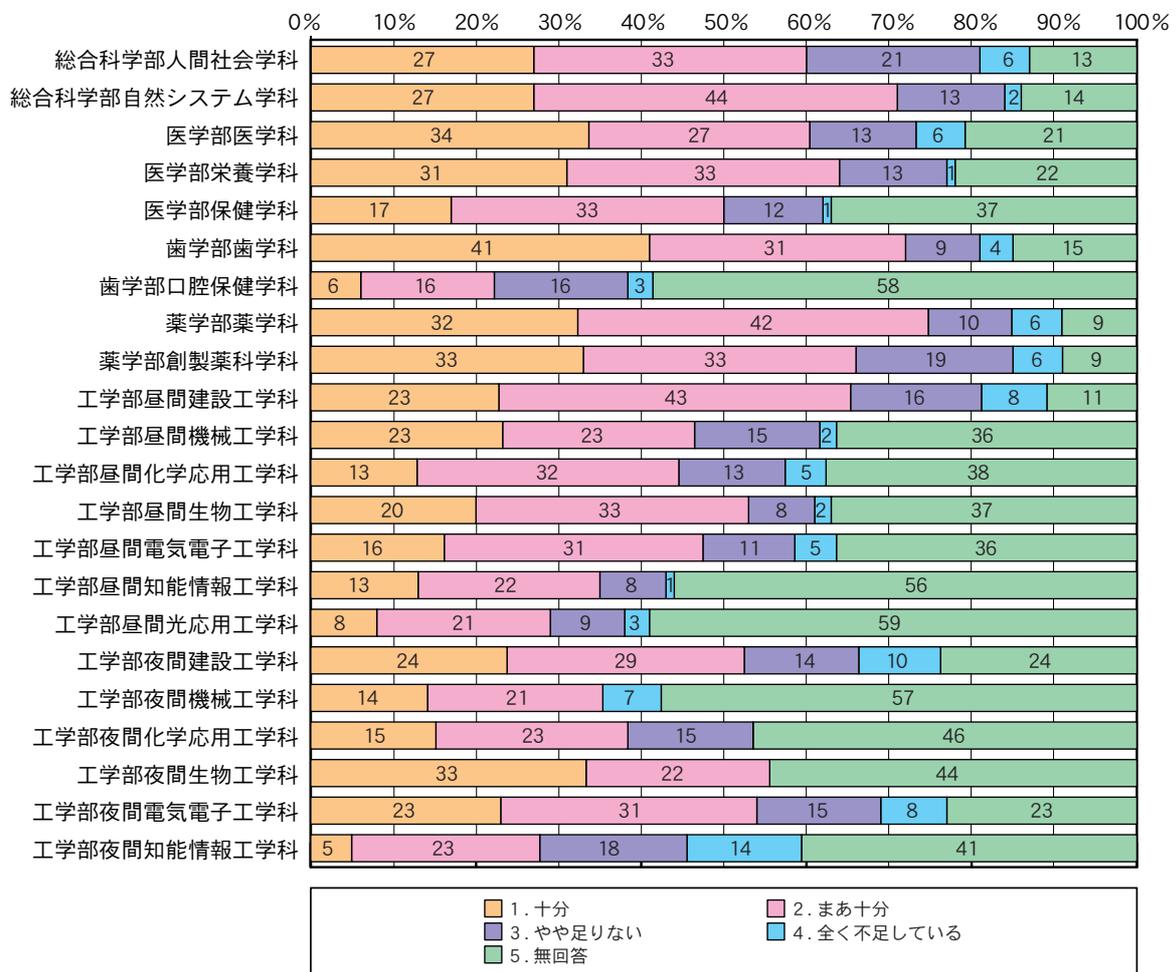


- 1. 専門の知識を身に付けるのに役立つ
- 2. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになる
- 3. 学問・研究に興味を持つ
- 4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立つ
- 5. マナー、人格形成に役立つ
- 6. 特に得るものがない
- 7. 無回答

7-3 教員、TAによる研究指導時間の満足度

大部分の学生は、教員、TAの指導に満足していると答えている。しかし、4. 全く不足していると答えた学生が0% - 14%いることに留意すべきである。

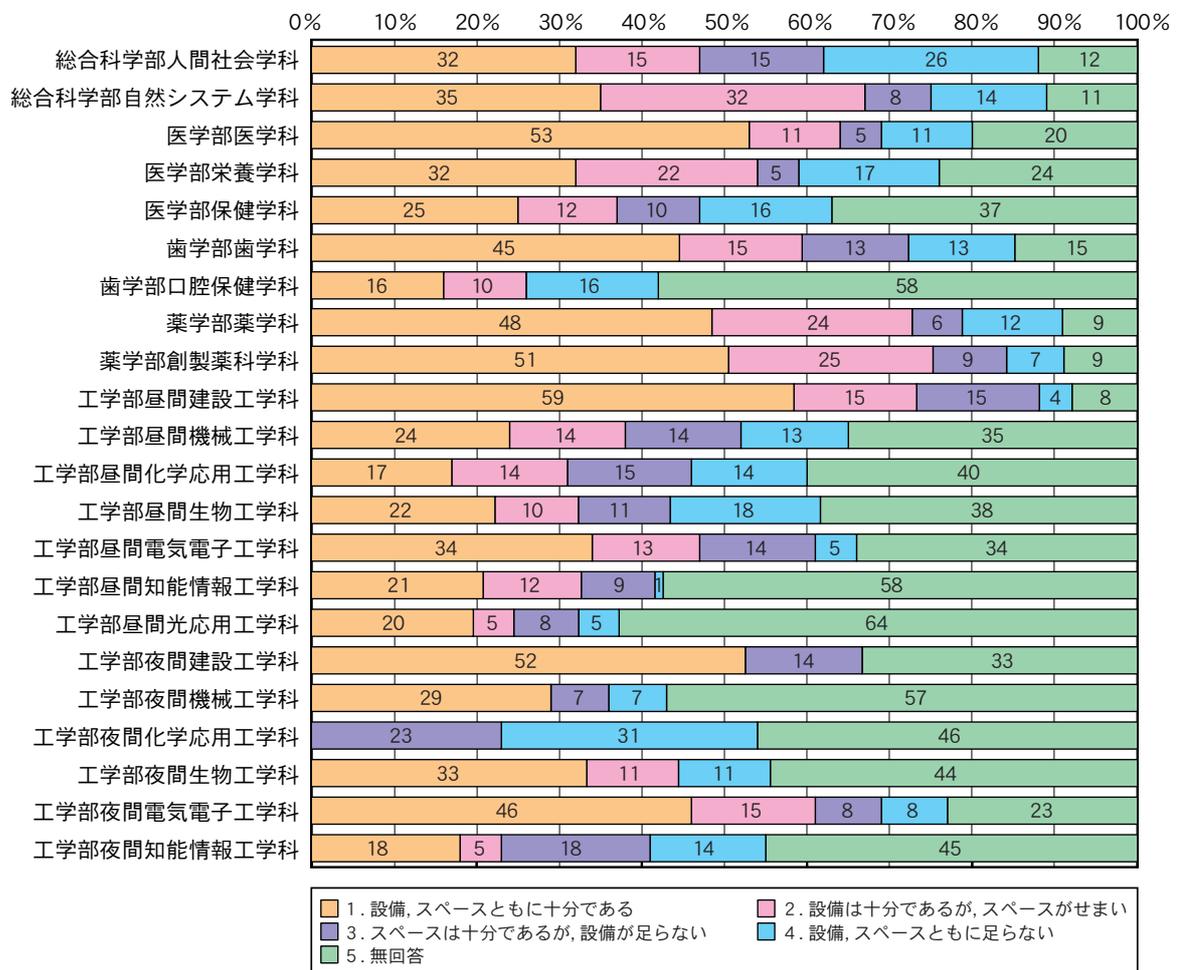
問44 教員、TAの研究指導（データの相談、実験指導等）の時間は十分でしたか。



7-4 研究設備、スペースの満足度

4. 研究設備、研究スペースがともに足りないと感じた学生の比率は、0% - 31%であるが、夜間化学応用工学科、人間社会学科、昼間生物工学科、口腔保健学科では、その比率が高く研究環境の整備が望まれる。

問 45 研究を進めるための設備、スペースは確保されていますか。

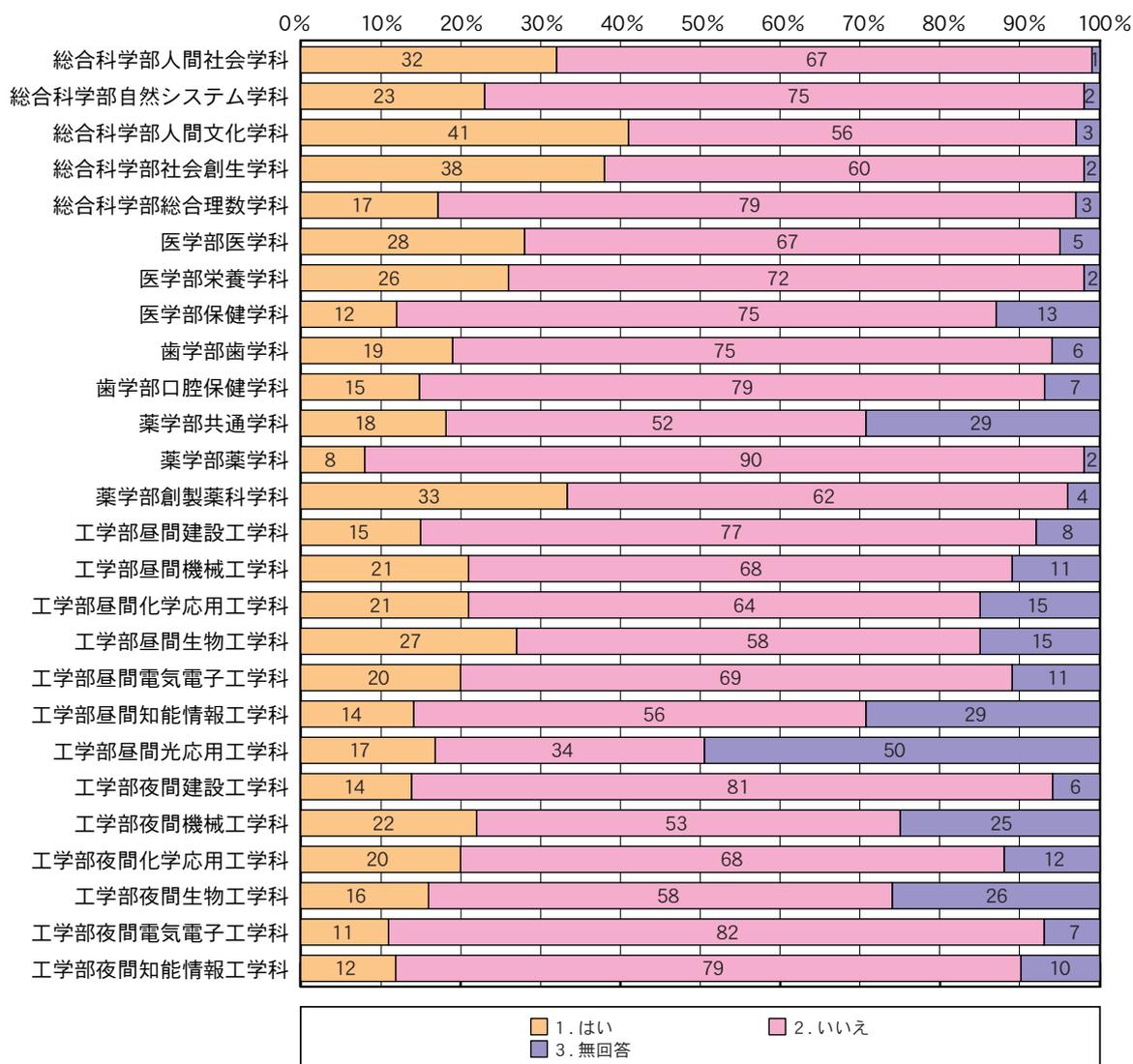


第8章 英語学習・教育について

8-1 英語学習の時間

70%前後の学生は、英語の定期的な学習を行っていない。人間文化学科が最も勉強している学生の比率が高く、41%であった。

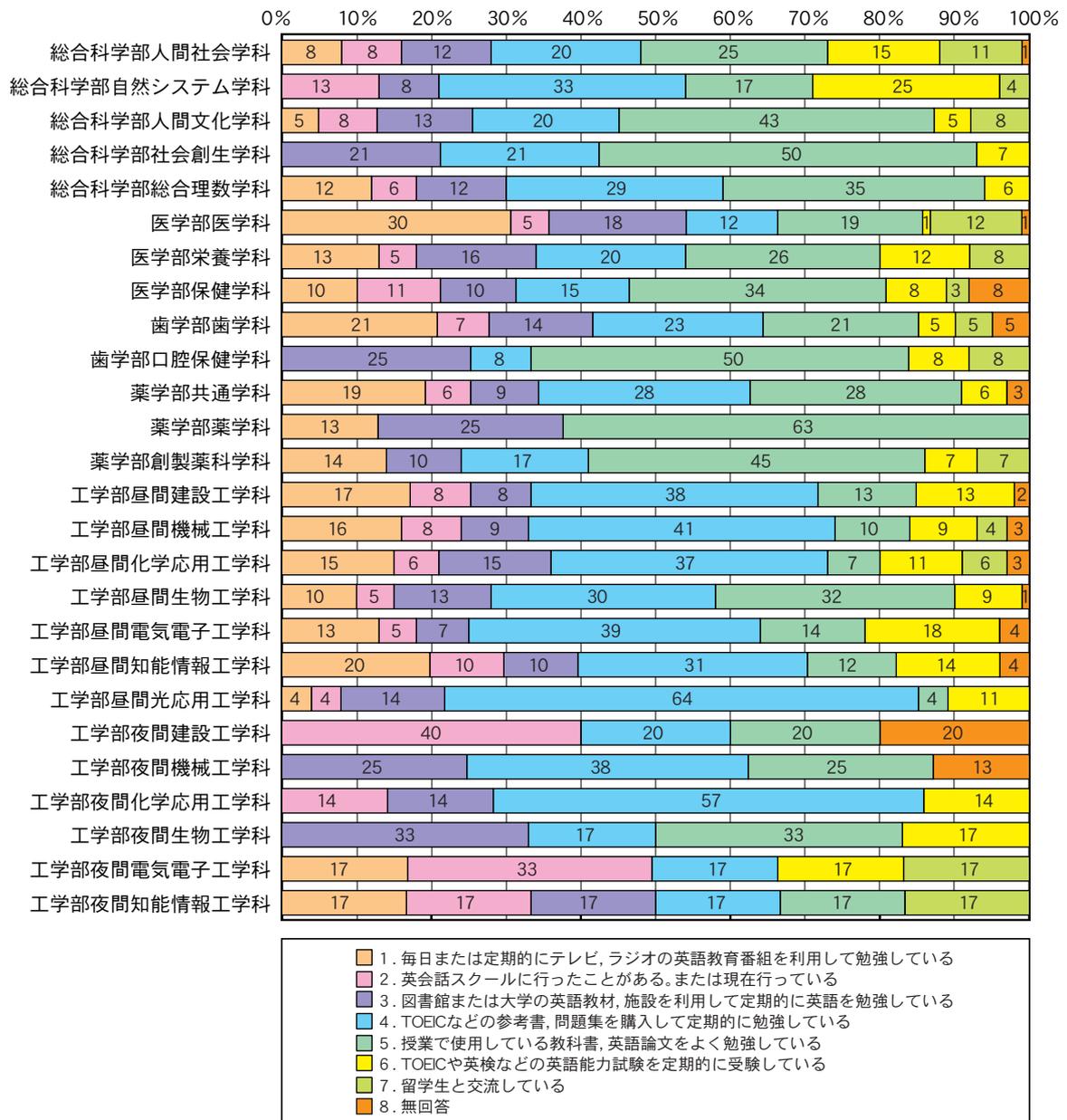
問 46 英語は毎日または定期的に勉強していますか。



8-2 英語の学習方法

英語学習の方法は多種多様であり、工学部では4. TOEIC を英語学習に利用している学生が多い。総合科学部、医学部、歯学部、薬学部では、5. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強していると答えた学生が多い。2. 英会話スクールを利用している学生は、全体では69名で、1. テレビやラジオの教育番組で学習している学生136名の半分となっている。3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用している学生数は129名しかおらず、学生への案内が不足していると思われる。

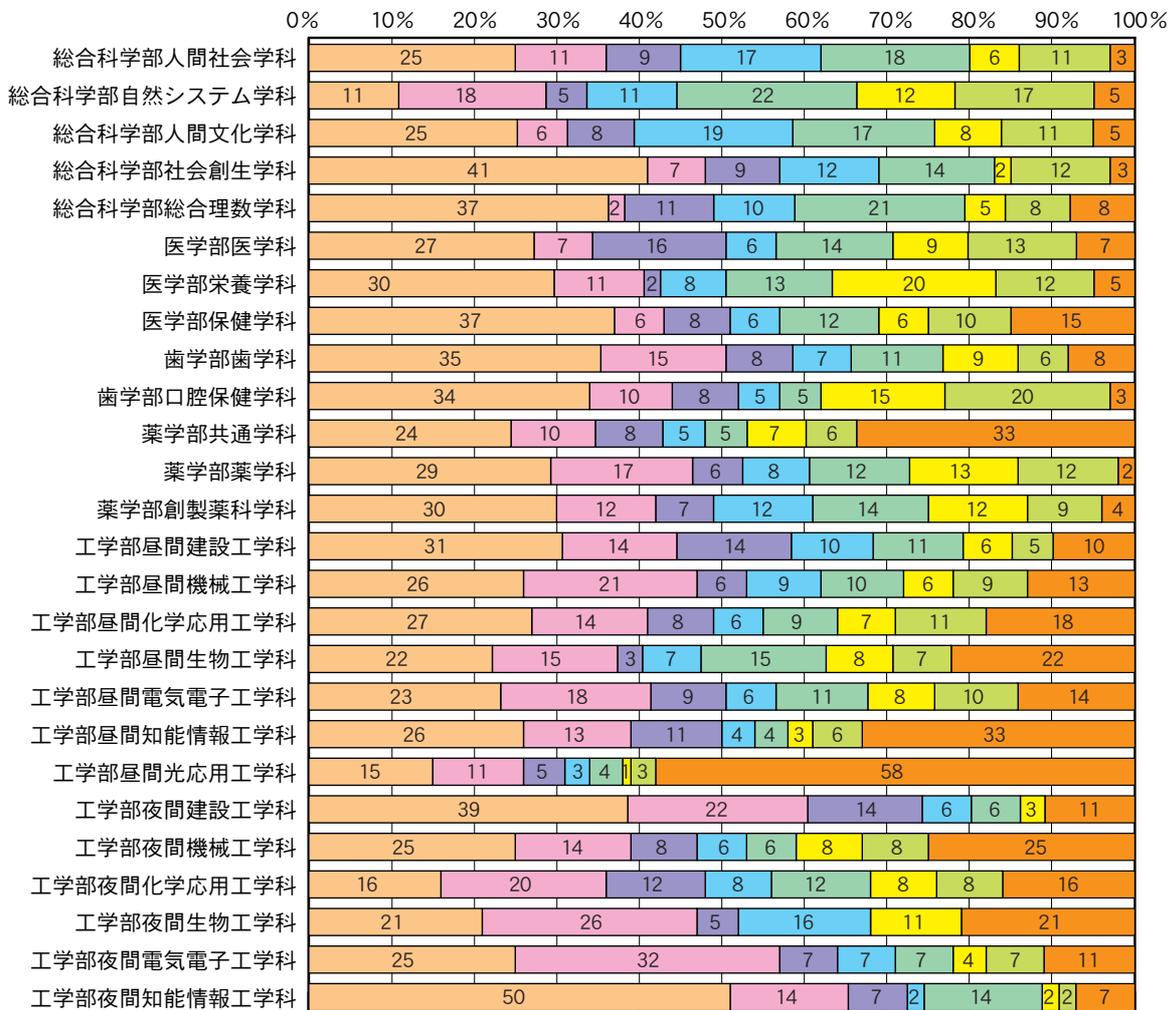
問47 問46で「はい」と答えた人は、質問に答えてください。どのように英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)



8-3 本学の英語教育への要望

3. 英語の授業数を減らして欲しいと答えた学生は、全体の2% - 14%であり、大部分の学生は、英語力の重要性は認識していると考えられる。1% - 20%の学生は6. 専門英語教育の充実を希望している。

問 48 徳島大学における英語教育について



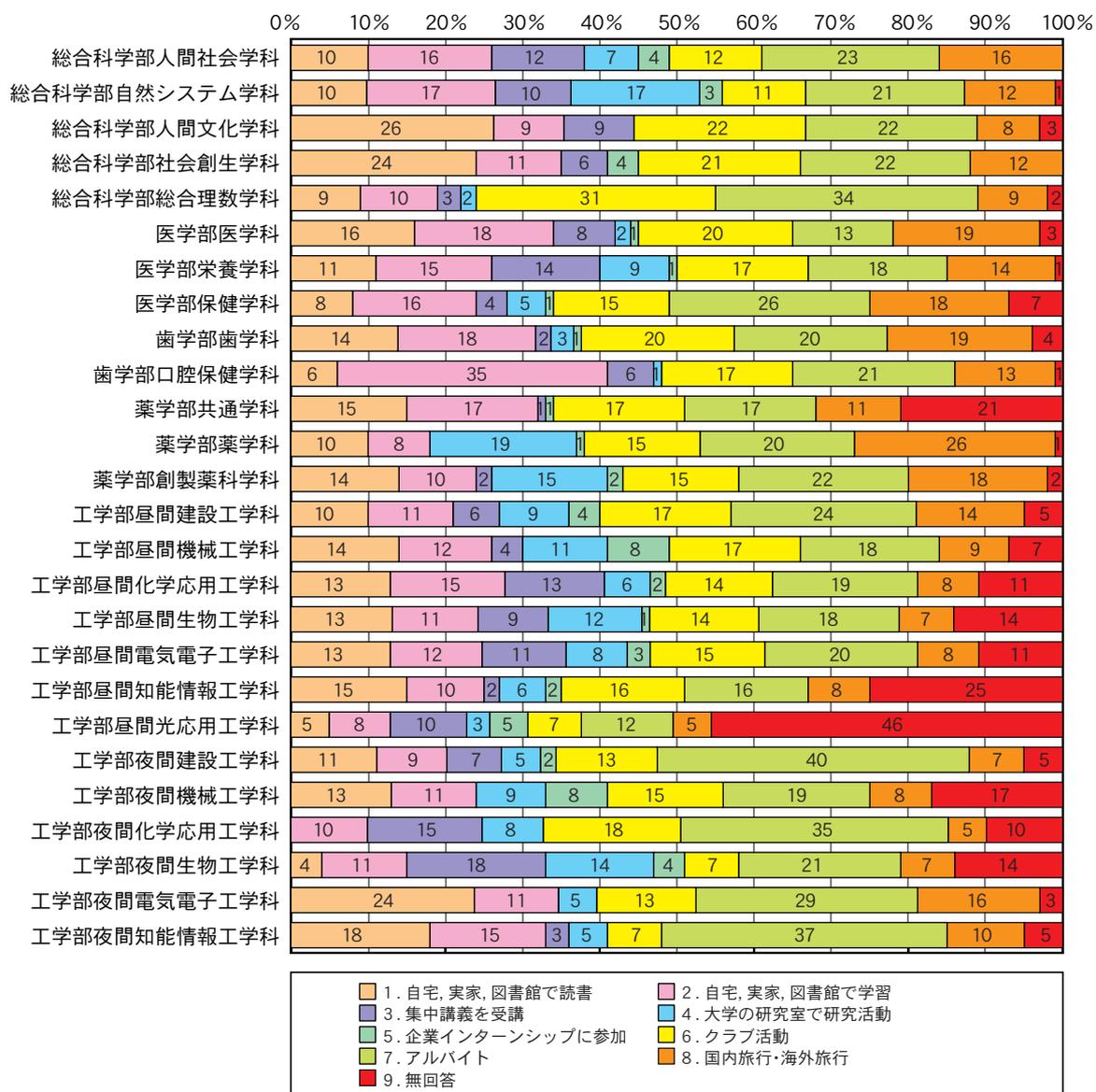
- 1. 全学共通教育, 専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2. もっと授業数を増やしてほしい
- 3. もっと授業数を減らしてほしい
- 4. もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6. 専門英語の時間を増やしてほしい
- 7. 専門英語のライティング, 会話に重点を置いた授業を増やしてほしい
- 8. 無回答

第9章 夏季休暇の使い方について

9-1 夏季休暇の過ごし方

休暇の過ごし方としては、7. アルバイト、8. 旅行、6. クラブ活動が多い。クラブ活動を選んだ学生は総合理数学科31%、人間文化学科22%、社会創生学科21%、医学科、歯学科20%である。アルバイトを選択した比率が高いのは工学部の夜間各学科19% - 40%、総合理数学科34%であった。

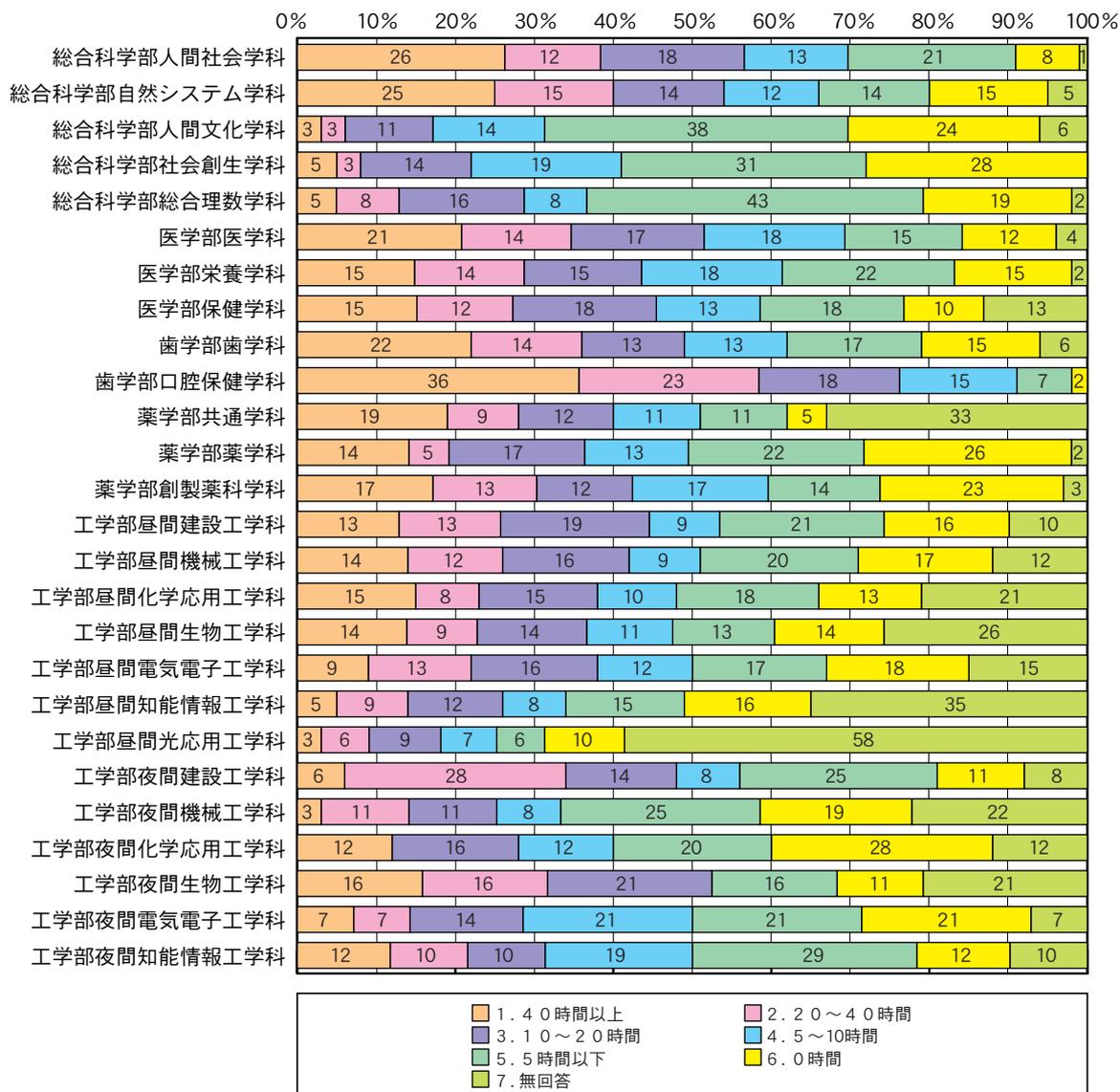
問 49 本年の夏季休暇中は、どのように過ごしましたか。(複数回答可)



9-2 夏季休暇中の自主学習時間

口腔保健学科、人間社会学科、自然システム学科、歯学科、医学科では、他学科に較べ、夏期休暇中の学習時間が長いが、9月の試験に備えての試験勉強の影響かもしれない。一方、0時間と答えたものが2% - 28%に認められた。

問 50 本年の夏季休暇中に、集中講義およびそれに関連した学習（レポート作成）以外に、学習に使った時間は合計どれくらいですか。

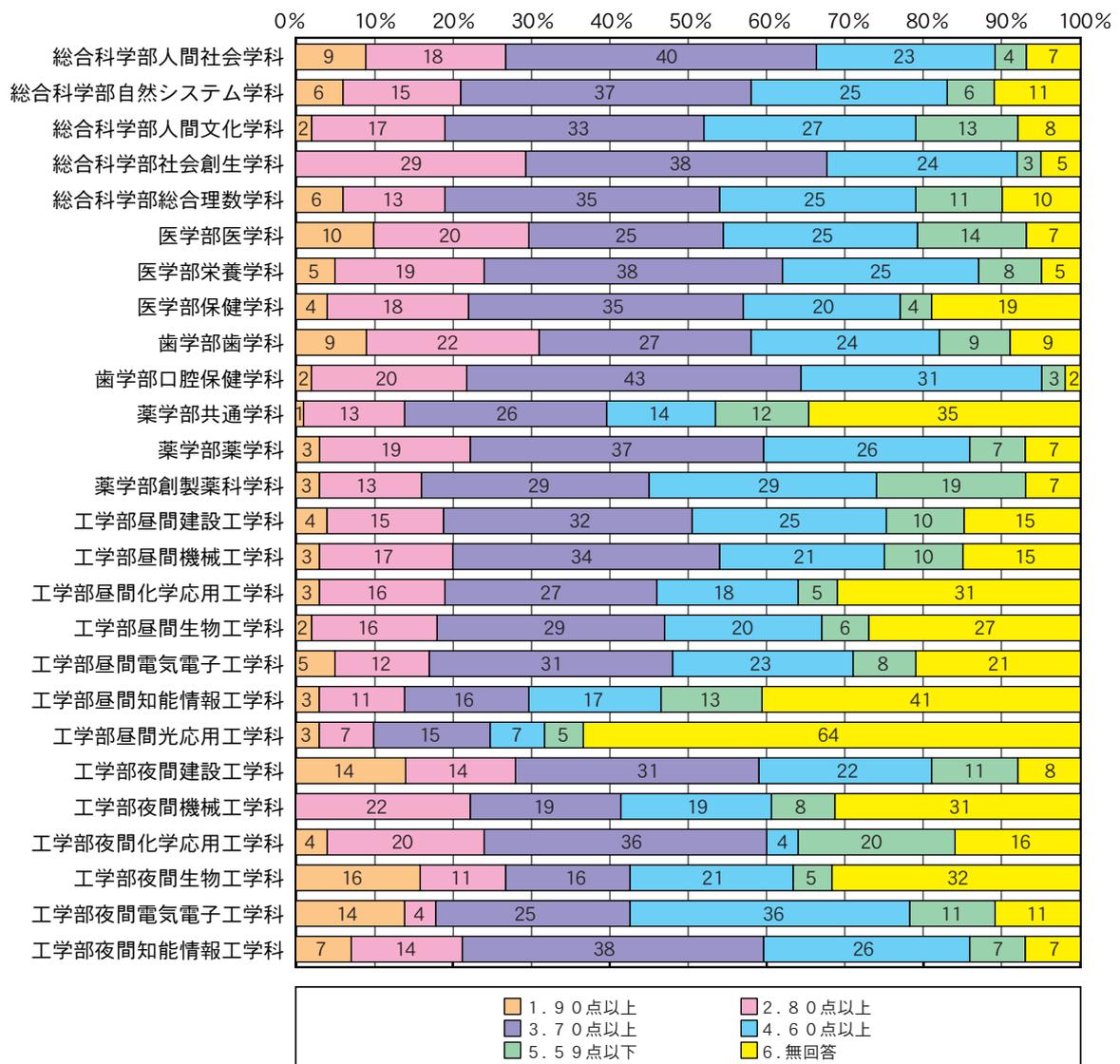


第10章 大学に関する評価

10-1 大学教育全体の満足度

80%以上の学生は、60点以上の評価をしており、本学の教育に学生は満足していると考えられる。しかし、60点-70点が最も多く、さらに教育改革を進める必要がある。

問51 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



第11章 学部等の現状と課題

11-1 総合科学部

総合科学部における教育と学習の特徴に関し、学生の将来の希望とその実現可能性、学習態度や読書について、さらに大学が提供する授業に対する学生の受け止め方についての3点を中心に述べる。また新カリキュラムが実施され2年目であるため、1、2年生の新カリキュラム学生と、3、4年生の旧カリキュラムの学生の比較ができるのでその点についても言及したい。ただし、この差は単に学年差（年齢差）によるものかも知れないので注意が必要である。

前回の調査では、総合科学部学生の将来像は多様であると述べられているが、今回の調査では、特に新カリキュラム学生において、企業への就職志望が減り、小・中・高等学校の教員志望が増えている。この傾向は総合理数学科に特に顕著である。自分の描く将来像に対する実現可能性に関しては過半数（5-7割）が楽観的に考えているにも関わらず、自分の学習態度では実現できないと6割の学生が答えている。大学教育との関係を問う問7では、回答3、4が4割を超え大学教育と進路の実現性に強い結びつきを意識している様子は希薄である。教員志望が高く問41で教員免許取得に意欲が高いが、大学教育を「資格取得のため」と考える学生は総合理数学科の14%が最大で他はせいぜい1割程度である。問8では、大学で習得すべきものとして、コミュニケーション能力や討論する能力を回答したものが、基礎及び専門知識と回答したものと拮抗し4割近くに上るが、現在の教育によって取得できないと思っている傾向が強い（問9、10）。

次に学生の学習態度について述べる。授業への出席の意識は極めて高い（問14-17）いっぽう、予習・復習については「科目によって」、「宿題が出たときのみ」行っていると8割が答えているが、人間社会学科の4割、他の学科では約6割が1時間以内か全くしていないと答えており（問11、12）、期末試験の勉強時間も他学部 비해少なめである。特に社会創生学科が全学で唯一、「7時間以上」と答えたものが皆無の学科であった。授業でわからないところを教員に聞くことも少なく、その理由も消極的である（問21、22）。読書量は文系学科では他学部 비해幾分多いが、理系学科（自然システム、総合理数）は極端に少ない。他方インターネットは57-80%が学習目的以外で毎日1時間以上使用し、学習目的でも7割以上が使用している（問25-27）。以上自主的な学習態度に関しては大学全体が同じ傾向を示しているが、「進取の気性」を謳う大学らしからぬ傾向である。

大学が提供する教育に関しては（問33-51）、問51でその満足度について、過半数が70点以上、約8割が60点以上と答えており、目立った問題点は少ない。しかし、研究設備・スペースに関しては「十分」と回答したものは3割強にすぎなく、不満が強い（問45）。近年力を入れている英語教育に関して述べる。文系学科（人間社会、人間文化、社会創生）では、学生の英語学習率が全学に比べ少し高い。学生の自主的な学習と、授業などによる学習が相半ばしているが、社会創生学科の学生が「大学で提供される英語教育で十分である」と考える比率が高く、ラジオ・テレビ、英会話学校等の利用が皆無である。1、2年生であるため、英語の授業に追いつまれているのか、本当に満足しているのか測り難い。

11-2 医学部医学科

2、3、4、6年次学生の回収率が半数以下と代表性に乏しいと考えられる。学生の95%が医師として働きたいという目標が定まっているので、教育に対する満足度は比較的高い。大学教育は将来のため

の基礎作り・資格取得のために必要であると感じているので授業には積極的に出席しているとしている。学生の76%が現在の学習態度でよいとしていて、他の医療系学生同様高く評価している。そして、学生の40%が1日あたりの自己学習時間は1時間以内と短い（試験期間を除く）。講義でわからなかったことは忙しい教員に聞くよりも友人に聞くか、教科書・インターネットを利用して自分で勉強して解決している。授業概要(シラバス)は他学部の学生同様ほとんど利用していない。全学共通教育の物理・化学・生物については理解できなくても約半数は何もしないで済ませている。全学共通教育については他学部学生に比べて積極性および満足度がやや低い傾向がある。将来、大学で教育・研究に従事したいと思っている学生は2%に過ぎないが、約半数が医学研究実習の意義を認識している。そこで、

- 1) 本調査の質を上げるために回収率をあげる（新教務システムでのweb調査等）
- 2) 自己決定型学習を推進する講義・シラバスのあり方を検討し直す必要がある。
- 3) 教科書・参考書をじっくり読んで知識・情報を得る必要性を理解させる必要がある。
- 4) 自己学習（予習復習）を促進する情報を提供する必要がある（講義日程表で提供している分野もある）。
- 5) 全学共通教育、専門教育とも更なる教育の質の改善が必要である。

11-3 医学部栄養学科

医学部栄養学科は管理栄養士養成課程としてのカリキュラムを編成しており、学科学生も将来の就職のために管理栄養士資格を意識するものが多い。一方、本学科は創立当初からわが国の栄養学研究をリードする研究者養成を期待されており、そのための基礎栄養学や栄養学研究に関する学科目も充実させてきた。最近では栄養教諭資格に必要なカリキュラムも加わった。したがって、本学科の学生にとって4年間のカリキュラムにおける学習量はかなりの負担となっている。その点を考慮すると、本アンケートに示された本学科学生の学習実態は全体としては良好であると判断できる。ただし、個々の点については学生ならびに教員側の努力による改善が必要な点が以下のとおりみられた。

- 1) 大学で獲得すべき能力としてコミュニケーション能力や討論能力を挙げているにもかかわらず、これらの能力は現在の教育では獲得できないと学生は判断しているようである。討論の場をもった講義や実習をさらに増やす必要がある。さらに少人数のグループによる講義を増加させるなどにより、教員と学生の対話形式による講義を増加させる必要がある。また少人数のグループによる講義では、学生個々の習熟度を把握し、各学生個人に足りないまたは努力する必要がある部分をより明確に示すことができる。
- 2) 学生の自主学習やその学習意欲が不足していると考えられる。各の講義において、学生の目的意識の高い管理栄養士養成に関わる専門科目との関連性およびその科目を学ぶ意義について説明を行い、学習の動機づけを明確にする必要がある。さらに各講義において「達成目標の提示」をシラバスや講義を通して学生へ周知し、より明確にする必要がある。また、少人数のグループによる講義を増加させるなどにより、教員と学生の対話形式による講義を増加させ、学生個人の習熟度を把握し、各学生個人に足りないまたは努力する必要がある部分をより明確に示す。

11-4 医学部保健学科

保健学科学生の学習に関する現状と課題は次の通りである。

将来の進路について、85%の学生が専門職として医療施設等で活躍したいと希望し（問4）、92%の多くの学生は卒業後に各自の希望が実現できると考えている（問5）。このとき、将来の希望を実現する

ための学習態度が不十分であると30%の学生が自覚している(問6)。ただし、この割合は4年次において18%に減少し(問6)、将来の就職・進学を身近に意識して、臨床実習や卒業研究への取り組みに対する学習態度を見直していることが示唆される。将来像の明確化を意図したワークショップ、講演会等を入学直後の大学入門講座において実施しており、学生による評価も高いが、4年間を通して目的意識を持続させて学習を行うよう適宜指導することが必要である。

学生の多くは、大学教育は将来の仕事のための基礎作りや資格取得が目的と考え(問7)、大学で取得すべき能力として、専門的知識、基礎的知識、コミュニケーション能力を挙げている(問8)。これらの能力を現在の教育で取得できると考えている学生は79%と、大学全体の平均62%と比べて高い(問9)。一方、現在の教育では獲得できないと答えた学生は、その能力として、コミュニケーション能力、問題解決力、討論する能力などを挙げている(問10)。コミュニケーション能力向上を含む人間力教育を目的とし、共通教育科目・専門基礎科目から臨床実習前の臨床能力試験へ至る系統的な教育プログラムを平成20年度から実施しており、効果を期待している。

予習・復習を「科目によっては行っている」(33%)「宿題が出たときに行っている」(51%)と答えた学生が多い(問11)。教員の工夫により自主的な学習を促進できる可能性がある。予習・復習を2時間以上行っている学生は、看護学専攻31%、放射線技術科学専攻27%、検査技術科学専攻26%であり(問12)、大学全体の20%と比べて比率が高いが、大学生としての必要な学習時間が確保されていない。予習・復習の課題を提示するなど、自己学習を習慣づけるよう継続的に指導することが必要である。

授業への出席率が90%以上の学生は、看護学専攻93%(前回調査86%)、放射線技術科学専攻88%(前回調査76%)、検査技術科学専攻96%(前回調査89%)であり(問14)、大学全体の79%と比べて高いといえる。全部の授業に出席するようにしている学生が約9割とほとんどである(問15)。授業への出席状況は概ね良好である。授業時間を有効利用し、学生が授業に集中できるよう出席確認方法の改善を図ることを目的として、学生証を利用した授業出席状況確認システムを平成22年度に導入した。出席率が3年前の前回調査時と比較して数ポイント以上向上しているのは、システム導入の派生的効果による可能性が考えられる。

授業内容を理解できる科目の割合が60%以上の学生は90%であり、大学全体の84%と比較して高い(問18)。前回調査時と比べても率が高いのは、平成18年度に導入したカリキュラム見直しにより、履修の過負担を解消させ、予習・復習に必要な時間の確保を図ったことに起因していると思われる。

高校で履修しなかった科目(物理、化学、生物)のために、大学で理解するのが困難であった科目が「ある」と答えたのは、看護学専攻14%、放射線技術科学専攻51%、検査技術科学専攻70%であり、専攻間で大きな差がみられる(問29)。自然科学入門の受講を個別に勧めるなどの指導が必要である。専門教育の内容の難易度が適切と答えた学生は75%と、全学の66%より高い傾向にある(問39)。授業内容の水準をもっと優しくすべきであると答えた学生は11%と低い(問39)。難易度に関していえば授業改善の必要は無いと考えられる。

卒業研究配属の選定に関し、研究内容や将来の仕事・進路を基準に配属研究室を決めた学生がほとんどで、「やむを得ず入った」「どこでもよかった」を理由に挙げた学生は5%と少数である(問42)。自分の興味や将来の希望に繋がる配属が概ね実現できているとみられる。卒業研究は、「専門知識の取得に役立つ」または「学問・研究に興味を湧く」と答えた学生が多く、「特に得るものがない」と答えた学生は、看護学専攻と検査技術科学専攻ではそれぞれ1%、0%であるが、放射線技術科学専攻においては7%と多い(問43)。魅力的かつ達成感のある研究課題を全ての研究室において学生に与えられるよう検討が必要である。研究指導の時間数については、無回答を除くと約8割の学生が「十分」または「まあ十分」と回答している(問44)。

研究設備または研究スペースが不足していると答えた学生は、回答した学生のうち60%であった(問

45)。平成21年度に保健学棟の改修工事があり、保健学科学生が自主学習・研究に利用できるスペースが増加したことにより、前回調査時の68%と比べて少しは改善されたが、今回調査においても、研究環境整備の必要性が学生からも強く要望されていることがわかる。

大学教育全体の満足度として、60点以上、70点以上と答えた学生は、回答した学生のうち、それぞれ、95%、70%であり、学生は教育に概ね満足していると考えられる（問51）が、上述の個別の問題を解決させるなど、更なる教育改革が必要である。

11-5 歯学部

今回の調査から、4点の問題点が明らかとなった。

1. 授業への出席について

「授業の出席率について」の問い（問14）に、歯学科および口腔保健学科における回答の割合は、平均90%以上の出席率がそれぞれ79%および85%、70%以上—90%未満が18%および15%、70%未満が3%および0%であった。「授業に出席することについてどのように考えているか」の問い（問15）では、歯学科および口腔保健学科における回答は、「全部の授業に出席」が83%と98%、「興味のある授業に重点的に出席」が4%および0%、「出席をとる授業に出席」が9%と0%であった。一方、「授業を休むことをどう思っているかについて」（問16）について、歯学科および口腔保健学科それぞれで、うしろめたいが33%と57%を占めるが、なんとも思っていないが16%と10%、自分の責任で休むのだからとやかく言われたくないが、25%と13%で、2つを併せると41%と23%に達する。問17で示すように「授業を休む場合の理由（病気を除く）」の51%および60%が朝寝坊である。歯学部では欠席の場合、欠席届を提出するように指導しているが、歯学科においては、病気の場合を除いて、提出しない学生が多い。これらの結果は3年前に実施した第1回の調査と大きな変化は認められない。

特に歯学科の出席率が良くないことの理由として、「歯科医師になる」というモチベーションを維持できないことにあるのではないか。このため、入学試験に合格すると安心してしまい、試験があるから仕方なく勉強する、出席をとる講義だから出席するという学生が多い。また、出席していても、他の科目のレポート作成や他の科目の再試験のための勉強をしているのを見かけることがある。予習や復習を課しても、他の授業を休んで対応あるいは他の授業中に対応して締め切りに間に合わせるという学生も見受けられる。この改善のためには、欠席あるいは授業中に内職することは、長期的な観点では損だと認識させる教員側の工夫が必要である。

2. 高校で履修しなかった科目（物理・化学・生物）について

「高校で履修しなかった科目（物理・化学・生物）のため、大学で理解するのが困難であった科目はあるか」の問い（問29）に、歯学科で71%、口腔保健学科で44%の学生があると答えている。ほとんどの学生は化学を履修済みであることから、物理・生物のうち、特に物理を履修していないものが該当すると考えられる。一方、「高校で履修していない科目を自然科学入門（物理・生物）で勉強していない場合、その理由は何ですか」の問い（問31）に、31%が不都合を感じないためと答えているが、本音であろうか？ 昨年度までの入学時履修指導において、高校での物理未履修者に対して高大接続科目（物理）の履修を強く勧めたが、途中で脱落する学生が多くみられた。この原因として、歯学科では高大接続科目の単位が認められないことより、履修しても途中で挫折していると考えられた。このため、本年度より歯学科においては、物理、生物未履修者に対して、自然科学入門での物理あるいは生物の必修化を行った。

3. 授業内容の質問について

「授業でわかりにくかったところは、どうしているか」の問い（問21）に、「授業中または終了後、教

員に直接聞いている」の回答が、歯学科で15%と口腔保健学科で14%、「オフィスアワー等、授業時間外に教員に質問している」の回答が、歯学科で6%と口腔保健学科で7%と少ない。定期試験前には多くの学生が質問に来るので、もう少し授業時間外での教員への質問の割合が高いと予想していたが、学生の回答と教員の意識との乖離が認められた。また、歯学科においては、2年次および3年次にメンター制度を導入し、教員に気軽に質問できる雰囲気醸成に努めているが、まだ実を結んでいない。

4. 教科書の購入について

「すべて購入する」あるいは「大部分は購入する」を合計すると、歯学科では67%と全学科の中で最も低い。一方、口腔保健学科では、100%と最も高い。医学、歯学の教科書は高価なものが多いので、歯学科の教員はできるだけ自分で資料を作成し配布していることが多い。教科書に沿った授業を行わない場合でも、知識を整理するためには参考書を取り揃えることが望ましいので、参考書をシラバスに記載しているが、この調査では参考書の購入状況についての情報は得られていない

11-6 薬学部

平成18年度の薬学教育改革により、薬学部では3年前期終了後に薬学科（6年制）と創製薬科学科（4年制）に配属されるため、本アンケートでは共通学科（1、2年生）と、薬学科（3-5年生）、創製薬科学科（3、4生）の3グループに分けて、調査結果を分析した。

将来の希望として、共通学科では薬剤師職61%、企業等非薬剤師職38%であったが、学科配属後は薬学科では薬剤師職87%、創製薬科学科では企業等80%と各学科の教育理念に沿った結果となっていた。大学教育についての考え方はいずれのグループでも「将来の仕事のための基礎作り」が最も高く（全体で28%）、以下「社会に出た時に役に立つ」「資格取得」と続き、将来への目的を持って入学していることが窺える。現在受けている教育で将来の希望が「実現できる」が70%以上で、特に薬学科は93%と教育内容については満足している。一方、現在の学習態度で希望が「叶えられる」が薬学科66%に対して共通・創製両科で36、46%と低い傾向にあった。大学で「獲得すべき」知識・能力と現在の教育で「獲得できない」能力について特にグループ間に差は見られず、コミュニケーション力・討論力を養う教育の改善に努力する必要性が指摘された。

授業出席率は、前回調査（平成19年度実施）同様、「90%以上」が全体で83%と高い。授業内容を理解できる科目の割合が「70%以上」が43%であり、前回調査で最も多かった「60%未満」が33%から21%に減少していた。この結果は、授業時間外の1日平均学習時間が、「1時間以内」41%から38%、「全くしない」35%から24%にそれぞれ前回調査から改善されていたことに加え、専門科目の難易度について「適切」が前回と同じく最も高く、「易しくすべき」が16%（前回28%）に減少していたことから、予習・復習を促す授業の工夫等FD活動を通じた教員の授業改善効果が反映されたと考えられる。一方、授業で理解できなかった内容への対応として、「授業後」および「授業時間外」に教員に直接聞くとの回答は13%と、全学平均17%より低い。学生が教員に直接聞かない理由として「質問しにくい雰囲気」32%、「聞きに行こうと思わない」26%と高いことから、学生が質問に来やすい環境作りに教員は一層努力する必要がある。

また、高校で履修しなかった理系科目のために理解するのが困難であった科目が「ある」が65%と前回調査（80%）から減少していた。学生自身が未履修科目に対して対策を「何もしない」が44%と依然高い中でこの結果は、関連専門科目において高大接続を意識した授業改善を実施した効果の表れと思われるが、未履修者に対する学習支援のあり方を再検討する必要がある。薬学部生の特徴として、期末試験における1科目あたりの勉強時間が「7時間以上」50%と全学平均20%を大きく超えており、学生の勤勉さが窺える結果であった。

実習時間について、「減らすべき」が前回44%であったが、その後の対応によって共通・創製両科で23%、薬学科11%と改善されたが、両グループ間で差がみられた理由は明らかでない。卒業研究については、学科配属と同時に開始されるが、指導時間は「十分」、「まあ十分」を含め約71%、設備、スペースに「満足」がそれぞれ74%、57%であり、全体的に概ね満足している結果であった。英語教育は現状で「十分」が最も多いが、「定期的に勉強をしている」が創製薬学科33%に対し、薬学科8%と両科で大きな差がみられた。薬学科生の英語離れの原因を追究し、英語に対する関心を高める工夫と指導が今後必要である。

全学共通教育の科目選択基準として最も多いのが、「単位の取りやすさ」43%で、「広い教養を身につける」は11%と低い。これは3年次での学科分けの不安からか、良い成績を取ることを目的とする傾向がみられる。そのためか、授業を受けて「特に得るものは無かった」が25%と全学平均に比べて高かった。

日常生活については、年間の単行本読書量はグループ間で差はなく、「1-4冊未満」が36%と最も高く、「0冊」が22%あり、読書離れが一段と進む一方で、学習以外でのインターネット利用が「1日2時間以上」が32%（前回21%）と増加していた。なお、学習目的でのインターネット利用は「1日2時間以上」が共通学科では5%に対し、薬・創製両学科では15%であり、一方「全く使用しない」は共通学科29%に対し、薬・創製両学科14%と、専門教育に進むに従い学習目的でのインターネット利用が増える傾向が確認された。また、夏季休暇の過ごし方として「研究活動」が32%と全学平均の倍以上高い特徴がみられた。

大学教育全体の満足度について、薬学科と創製薬科学科と差があり、創製薬学科で「59点以下」19%と全学平均（8%）より高いのが気になるが、全般的に前回調査からは改善されており、今後も学生の教育に対するニーズを的確に把握し、極め細かな対応を行っていくことが重要であると言える。

11-7 工学部

将来について

アンケート結果を見ると、工学部のどの学科も6割以上の学生は企業に就職することを望んでいる。理系の中でも、免許・資格が取得できる医歯薬系学部と比べ、就職状況が社会情勢や景気に左右されやすい工学部の学生は、平成20年秋に起きたリーマンショック以来の景気低迷をうけて就職率が伸び悩む中、学生たちは希望する企業、職種に就職できるかについて不安を覚えている。ただ、将来の夢を実現するためには、真摯に学習に取り組む必要性を自覚しているものの、それが学習活動に反映されていない。1日2時間以上授業時間外に学習を行う学生は2割に満たない。しかしながら、低炭素社会の実現にむけて、地球温暖化や環境汚染・エネルギー危機や資源問題を解決していく必要があるが、これら諸問題の解決には工学の発展を抜きにしては語れない。工学部は技術立国、環境立国「日本」を支える技術者・科学者を養成する機関であり、学生に対し自信を持って日頃から学習に励むよう教育指導することが大切である。

技術者・科学者として大学で獲得すべきは、基礎的知識・専門的知識およびコミュニケーション能力と回答した学生が約2割ずつで並んでおり、これらに問題解決力と答えた学生が続いた。どの学科とも6割の学生が現在の教育でこれらの能力が獲得できると考えている。ただ、現状の教育課程を履修して「将来の希望」を実現できそうだと回答した学生が、医歯薬系学部と比べ20ポイント前後少なかった。工学部の各学科は、日本技術者認定機構（JABEE）による審査を受ける際に、教育改善システムを導入して社会のニーズにあった教育内容づくりを求められ力を入れているが、免許・資格取得が目標の1つとなりえる医歯薬系学部以上に、学生の期待度・満足度を向上させ、学習の達成度がより明確になるよ

うなカリキュラムづくりを考えることが必要と思われる。

学習状況

大部分の学生の出席率はよく、90%以上の出席率と回答した学生は7割から8割、70%以上と回答した学生も含めるとどの学科とも9割を超える。ただ先にも書いたように、授業時間外に1日2時間以上学習を行う学生は2割に満たない。これが授業内容を理解できる科目の割合が80%以上と回答した学生が1割から2割しかいないという講義の理解度が低い原因になっている。他学部にと比してもその割合が少なく感じられる。2時間の講義に対し、2時間の予習と2時間の復習が義務づけられているが、学生の自主的な学習を促すために、予習・復習時間を講義科目ごとにシラバスに明記することが徹底された。ただ、シラバスの利用率は1割程度と芳しくないが、学年進行に伴って記載内容が陳腐化する傾向にあり、このことがシラバスの利用率を向上させない原因の1つとなっている。

学習のために1日1時間以上インターネットを使用すると回答した学生は約4割であったが、学習以外の目的で1日1時間以上インターネットを使用すると回答した学生は全体の約3/4にのぼる。近年の就職活動にはインターネットは欠かせないが、レポート作成や宿題を行う際に教科書や参考書などの書籍とほぼ同じ程度インターネットの情報に依存していることが伺える。インターネットの情報をうまくかつ正しく活用できるよう、情報リテラシー教育にも更に力を入れる必要があると思われる。

高校で履修しなかった科目(物理、生物など)のために、大学で理解するのが困難であった科目があったと回答した学生は化学応用工学科と生物工学科で多く見られたが、これは当該の学科の入学試験科目やカリキュラム等から考えて、その多くは物理学であると思われる。しかしながらそれらの科目に対し何の対策もしていないと回答した学生が半数にのぼっており、早急に対策が必要である。全学共通教育では自然科学入門、専門教育科目では工業基礎物理などの科目が開講されているが、履修学生は少ないと聞く。学生の学力に応じた指導を徹底し、これらの科目をうまく活用していくことで、専門教育における講義の理解度の向上につながるのではないかと考えられる。

卒業研究は、専門知識を活用した課題発見力・解決力やコミュニケーション力の育成など工学部教育の集大成である。1～3年生までの能動的な学習とは異なり、自主的な取り組みが要求されるが、学生は卒業研究を高く評価し、その期待度も高い。ただ、建設工学科、電気電子工学科以外の学科では、研究を進めるための研究設備・スペースに対して不満を持つ学生の比率が高いようである。狭小な研究スペースはともすれば重大な事故の一因となるため、研究環境の整備が必要である。

英語学習

学生の多くは英語能力の重要性は理解しているようであるが、毎日勉強する地道な努力はあまり行っていないようである。回答のあった学生の1/3程度の学生は、全学共通教育、専門教育で行われる英語教育で十分であると感じているが、2～3割程度の学生は授業数を増やして欲しい、2割程度の学生がネイティブスピーカーの教員による授業を増やして欲しいと考えている。近年、就職先の企業が英語能力の指標の1つとして、あるいは大学院博士前期課程の英語試験の代わりとしてTOEICのスコアの提出を義務づける機会が多くなってきた。その状況に学生が反応してか、TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強していると回答する学生が3割～6割にのぼっている。

工学部キャンパス内には国際連携教育開発センターがあり、平成22年度より工学部学生に対し「技術英語」の講義を開講している。平成24年度には「英語プレゼンテーション技法」が開講される予定である。提携大学への学生短期派遣制度もある。卒業生が技術者・科学者として世界を舞台として活躍できるように、これらの講義・制度をうまく活用していくことが肝要かと思われる。

11-8 全学共通教育

全学共通教育の授業全体でみると、次の3点に特徴がみられる。

まず、授業の選択基準では、学部学科間で多少の意識の違いがみられるものの、全体では「興味関心があるもの」38.6%、「単位のとりやすさ」30.1%、「広い教養」18.3%の順で高い値を示している。全学共通教育では主体的な授業選択が可能であるため、知的好奇心の幅を広げる上で効果がある反面、安易な選択に流される学生も見受けられる。共通教育の理念と授業趣旨の位置づけや、専門教育との接続を理解しながら履修計画が作成できるような情報提供や支援を充実する必要がある。(問33)

また、授業の成果として、「広い教養を身につけるのに役立った」と回答した学生が41.9%であった。しかし、「特に得るものがなかった」と回答した学生が全体で15.8%であった。特に、薬学部、医学部、歯学部では、その回答傾向はより高い割合になった。医療系学生の共通教育の捉え方や専門への接続などを明確化する必要がある。(問34)

そして、授業の難しさについては、「自分の知的能力に合っている」の回答では、教養科目で54.1%、基盤形成科目で59.1%、基礎科目で44.9%であった。ところが、「難しい」と回答した学生が、教養科目で31.6%、基盤形成科目で25.3%、基礎科目で27.6%であった。センターでは授業情報の提供や学習支援体制を強化してきているが、今後も一層の充実を求められる。(問35、36、37)

全学共通教育だけの問題だけではないが、本学の英語教育については「全学共通教育や専門教育の英語教育で十分である」という回答が、昨年と同様に約3割であった。これに対して、「もっと授業を増やしてほしい」(13.1%)、「ネイティブスピーカーの教員を増やしてほしい」(10.9%)など、大学全体の英語教育拡充への要望も多いことが窺える。(問48)

11-9 FD (Faculty Development) の観点から

アンケート結果について、FD (Faculty Development) の観点からは、次の諸点が今後の課題として指摘できよう。

第1に、学生の将来設計にあわせた教育や個人指導が求められるということ。問4の結果にも明らかな通り、医歯薬の各学部においては、大多数の学生が「専門職として医院、病院、薬局などで活躍したい」という明確な将来像を描いている一方、総合科学部及び工学部の学生の多数は「企業で活躍したい」、あるいは「行政機関で公務員として活躍したい」、との意向を示しており、将来設計は必ずしも明確ではない。徳島大学の学生像を把握する際には、この2つの大きな道筋の違いがあることを大前提として、其々の進路に沿った望ましい対応が求められている。しかし、特に共通教育の授業などでは、これらの学部学生が混在していることも多いため、教員側にも、一方の事情に偏ることなく、双方に配慮した授業内容や発言が求められよう。授業の中で、学生の将来に関する発言を教員がすることも少なくないと思われるが、一般社会においては就職難と言われつつも、医療業界では人手不足という状況の中、どの学部の学生を対象に話をするかで望ましい方向性は異なってくる。そういった細部の配慮も含め、総体としての学生が置かれている立場を正確にとらえる、という努力を教員は惜しむべきではないだろう。

第2に、学生が大学に望むことには一定の普遍的な傾向があることを教員側が理解すること。これは、第1に述べたことと別の視点にはなるが、将来の進路に関しては学部ごとに大きく異なっているにもかかわらず、問8にみられるように「大学で獲得すべき知識、能力」には、全学部において似通った割合で、其々の知識・能力の必要性が認識されていることが窺える。これらの諸能力は、どの学問分野を学び、将来どういった方面で活躍するかにかかわらず、人間として身につけておくべきものであり、その意味では専門性に関わらず、人間力の底上げが今日の高等教育機関には求められているといえるかもし

れない。その意味で学生の期待に応えるカリキュラムを提供しているかどうかについては、今一度、共通教育、専門教育ともに検証の必要があろう。

第3に、教員側が学生との間に信頼関係を築く努力をすること。アンケート結果全体から明らかなことの一つに、教員と学生の関係の希薄さが挙げられる。例えば、問20で、「調べものをする時の情報源は」と聞かれたのに対し、大多数が「教科書、参考書」もしくは「インターネット」と答え、教員へ質問する者はどの学部も10%前後と非常に低い。続く問21においても、オフィスアワー等で、授業時間外に教員に質問に行く学生の割合は非常に低い。その理由として問22で学生が挙げた回答から、教員に質問に行かない主な理由は、「連絡方法が判らないから」という事務的な理由は少数であり、「質問しにくい雰囲気」「忙しそう」「下手な質問すると怒られそう」「聞きに行こうと思わない」など、多くが教員を心理的に敬遠していることが影響していると思われる。したがって、まずは教員側が、授業を通じた学生へのアプローチを軟化させ、学生を近づけるための工夫をし、信頼関係を築けるような努力を行うべきであると考えられる。また、それができない限り、学生が望む「コミュニケーション能力の向上」という大学で学びたい要素の一つ（問8）を、本当の意味で学生に身につけさせることは難しいのではないと思われる。

第4に、インターネットの学習への影響をどのようにとらえるか、教員側に検討の余地があること。本アンケートの多くから散見される通り、今日の学生にとって、あらゆる情報源であり新たな交流手段としてのインターネットの存在は欠かせない。これには一長一短あり、その利点と弊害を教員自身が十分に踏まえた上で、それを実際の自主的な学習活動に活かす望ましい方法について、各学問分野の特性も考慮しつつ、今一度丁寧に指導に当たる必要があるだろう。

第5に、自然科学入門の有用性について、学生の高校での履修内容を踏まえ、検討の余地があること。問29～問31の回答にもみられるとおり、学生は高校での履修内容によって大学での授業に困難を抱えており、それについて約3分の1の学生が何らかの努力をしているが、何もしない学生も存在する。不都合を感じない学生は別としても、問31の回答にみられるように、3-4割を占める「その他」「無回答」とした学生の心理を看過するべきではないだろう。学生の能力不足を嘆くだけでなく、ゆとり教育の影響や昨今の高校での履修内容の大幅な変容も視野に入れ、学生の出身校である全国様々な高等学校の履修内容を考慮し、大学側が学生の現状に沿う努力も求められてこよう。

第6に、学生の目を大学内の身近な問題だけでなく、地域、国、そして世界へと向けさせる努力が求められていること。問46の回答にみられる通り、意欲的に英語を勉強している学生はまだ全体的に少数であるといえる。そして、問48の回答にあるように、多くの学生が現状の英語教育で十分であると答えているが、今後の社会で求められている英語力を考えれば、それで十分ではなく、「(頭の柔軟な若い時代に)より積極的に語学を吸収していく姿勢を持つことは将来への大きな投資にもなること」を“実感”として味わう経験を持たせることも必要である。グローバル化が一層進展する中、わが国において今日、本当の意味で日本を外から見て、何を発信することが求められているかを理解し、国際標準を意識して活躍できる人材が総体として不足していることを鑑みれば、単に英語教育そのものを推進するだけでなく、学生の目を大学時代に複眼的に養うことを目指した教育を同時に推進すべきであろう。その動機づけさえ十分にできれば、語学学習だけでなく、他の科目の学習に対しても、学生自身が自主的に進展させていく力は潜在的に持っているものと思われる。

以上、FDの観点から主に検討すべきと思われる課題を述べたが、最も肝要なことは今を生きる学生の実態を知り、それにふさわしい教育を提供することであり、その視点からアンケートを読み返せば、多くの改善すべきことがおのずと見つかるものと思われる。

第12章 まとめと提言

本調査は、平成19年11月に実施された「第1回学生の学習に関する実態調査」に引き続いて実施されたものである。今回の2回目の調査は、第1回とほぼ同じ内容の質問が行われ、アンケート回収率は63.3%（前回は63.2%）であった。

今回の学習実態調査においても、5つの項目（①大学教育と将来、②学習状況、③全学共通教育、④専門教育、⑤英語教育）について、合計51問の質問によって調査された。

1. 大学教育と将来

常三島キャンパスと蔵本キャンパスの学生の意識に大きな差が見られた。卒業時に国家試験などを受験する医歯薬系の学生と比較し、総合科学部・工学部の30%～40%の学生は将来の希望の実現に不安を持っている学生が多い。医歯薬系においても、栄養学科、創製薬科学科で23%、29%の学生が不安を有している。この傾向は第1回の調査と同じである。特に常三島キャンパスの学生は、キャリアプランに対する十分な見通しがないうまま入学する学生が多いためと考えられる。本年度、就職支援センターが設置されたことから、就職ガイダンスや初年次からのキャリア支援プログラムの充実が期待される。この対策は、総合科学部、工学部のみならず、医学部、歯学部、薬学部においても必要である。

2. 学習状況

全学部において1日の学習時間は「1時間以内」が約4割と多く、「1時間から2時間」が20%から30%を占める。この結果は第1回の調査と同じ傾向を示している。この学習時間の不足が授業内容の理解不足の原因であると考えられる。最近、ハーバード大学のマイケル・サンデル教授の「白熱教室」が注目を浴びている。このような対話型の授業には事前の予習が不可欠で、しかもTAとの討論を経て授業に臨まなければならないという。このように予習を必須とした授業の実施が望ましいが、学科全体の全ての教科に適用しないと、他の授業に負の影響を与える可能性がある。基本的には、教員の話が学生がその場で聞けば教育はおしまいという現状の姿勢を改善していく必要がある。

教科書に関する質問で、「教科書を全て購入する」と答えた学生の比率が高いのが、口腔保健学科82%、人間文化学科75%、栄養学科で73%、低いのが歯学科20%、医学科24%、創製薬科学科25%、昼間知能情報学科25%であった。第1回の調査に比して、薬学部、昼間知能情報学総合科学部で大きく減少している。工学部では25%～60%であった。「購入しない」と答えた学生は、全学部を通じて数%みられ、前回と同じ結果であった。

期末試験に対する勉強時間に関する質問では、1科目あたり「7時間以上」は薬学科58%、医学科47%、創製薬科学科41%、歯学科39%、口腔保健学科34%と、医歯薬系の学生の学習時間が長かった。総合科学部、工学部では、「3時間～5時間」の回答が多かった。

3. 全学共通教育

科目の選択については、「面白そうな科目を選んだ」と「単位のとりやすさ」で選んだと答えた学生が多かったが、特に薬学部では後者が、総合科学部、工学部では前者が多い傾向にあった。薬学部では学科配属に成績が考慮されることが関係していると考えられる。また、全学共通教育で「特に得るものがなかった」と答えた学生は薬学部、医学科、歯学科で多く、第1回と同じ結果であった。

4. 専門教育

43%から89%と学科間での差異はあるものの、多くの学生は「内容、難易度に関して満足している」と考えられる。しかし、「もっと易しくすべきである」と答えた学生の比率が比較的高かったのは、医学科21%、薬学部20%～27%、工学部14%～36%であった。学問・技術の進歩は著しく、

年々専門教育で要求される知識量が激増している。最新の知識を理解させるためには、これまでに基礎となる知識を基に積極的に学習させること、単なる知識の記憶に終わらない「考える力」を修得させることが大事である。また、厳しい学習があつてこそ、卒業して得た資格が輝き、世間から認められることを自覚させるべきである。最近の日本経団連の企業アンケート調査において、学生に主体性や創造力が不足していることが指摘され、教員が一方的に講義する授業への不信が示されている。このためには、教員はテキスト、板書、パワーポイント中心の一方通行の授業を改善する必要がある。

卒業研究、医学研究実習、研究基礎ゼミについては、学生の評価は非常に高く、マンツーマンあるいは少人数教育の有効性が実証された。しかし「スペースおよび設備に満足している」学生は学科間で差があり、昼間建設工学科、医学科、薬学部で高いが、「設備、スペースともに不足している」と答えた学生が31%の学科もあり、学生のための研究スペースの確保、設備の充実が望まれる。

5. 英語教育

学生は英語の重要性はよく認識し英語教育の充実化を望んでいるが、自ら努力して学習しようとする学生は少なく、定期的に勉強しているのは8%－41%と少ない。「定期的に英語に取り組んでいる」のは人間文化学科、社会創生学科、創製薬科学科、人間社会学科が多い。専門教育の場でも英語を学習する環境を整備するとともに、TOEIC受験の義務化などの対策が望まれる。

6. 大学教育全体への満足度

大学教育全体への満足度に関する調査では、大部分は「満足している」と判断されるが、「80点以上」の高い評価は10%－31%である、「59点以下」の不合格の評価は、多くの学科では前回の結果より減少している。しかしながら、教員側の反省点として、これまで学生を野放し状態にしてはいなかっただろうか。建て前で、大人扱いすることにより、遅刻、欠席などへの指導を怠っているのではないか。より、細やかな、面倒見のある教育・正課外での指導が求められている。

最後に、この調査の実施および報告書の発行に際して、ご支援、ご協力いただきました和田副学長、大学教育委員会委員の方々、企画、執筆、編集にご尽力いただいた教育の質に関する専門委員会委員の先生方（伊藤正幸先生、福井義浩先生、高橋章先生、滝口祥令先生、森賀俊広先生、佐藤充宏先生、鈴木尚子先生、松浦健二先生）および吉永哲哉先生に深く感謝いたします。またアンケートの集計、編集にご尽力いただいた福川利夫係長はじめ学務部職員の方々、およびアンケートに協力いただいた学生に厚く御礼申し上げます。

教育の質に関する専門委員会委員長 吉本勝彦